

「子ども多機能型支援拠点の普及・推進事業」
報告書

令和3年（2021年）3月

はじめに

私たちは「本人の思いや願いを受け止め、生きる力を地域で支える」を基本理念とし、子どもやお年寄り、障がい者など、地域に住む誰もが住み慣れた家や地域で、これまでの人間関係や生活を維持・継続しながら、自分らしく暮らし続けられる地域共生社会の実現を目指し、活動を行っております。

活動を通じて実感することは、公的なサービスや社会保障制度からこぼれ落ちてしまう人たち、貧困等の連鎖を断ち切れず、「生きづらさ」抱えながら暮らし続ける人たちがいることです。こうした状況が常に私たちの暮らしと隣りあわせにあり、さらにその影響が子ども達にも及んでいることです。

そこで私たちは、2017年度から2019年度までの3年間にわたり、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮の状態にある世帯の子どものための拠点「学び舎・ゆーすぽーと」を開設し生活実態の把握と啓発を行い、子どもとその家庭に必要な支援を行い、それを多機能化し、民間レベルでの包括的な支援の必要性と可能性を実践から提案してきました。また、既存の法定サービス（介護保険：小規模多機能型居宅介護・共生型サービス）の仕組みを活用した子どもと保護者への支援及び関係機関等との連携・協働にも取り組みました。さらに、一時保護が必要と思われる子どもについては、子どもの関係性や環境を維持継続できるよう支援も行ってきました。

そして、今年度は、これまでの取り組みが、東金市だけに特有益な支援ではなく、どの地域でも普通に必要な支援であると考え、大網白里市や千葉市にも支援を展開し、活動への共感者やネットワークを更に広げることができました。

本事業に理解を頂き助成いただいた独立行政法人福祉医療機構をはじめとし、東金市、東金市教育委員会、大網白里市、大網白里市教育委員会、東金市内の学校関係者、東金市社会福祉協議会、山武ボランティア協会、地域のボランティア等、地域の皆さまに理解と協力により本事業を実施・運営することができましたことに深く感謝申し上げます。

ここに事業の成果をご報告するとともに、今後も「学び舎・ゆーすぽーと」の活動にご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和3年3月

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
代表理事 宮下裕一

「子ども多機能型支援拠点の普及・推進事業」報告書
目次

第1章 事業内容・実績	1
I 子ども多機能型支援拠点の拡充	
II 他市町村での支援の場づくり	
III 広報・啓発	
IV 報告会	
V 報告書	
VI 運営委員会	
第2章 事業評価	47
1. 子ども・保護者の評価	
2. 関係機関・ボランティアの評価	
3. 報告会等の評価	
4. 今後に向けた課題	
第3章 今後に向けて（まとめ）	91
参考資料	95

第 1 章 事業内容・実績

I 子ども多機能型支援拠点の拡充

1. 主拠点(「学び舎・ゆーすぽーと」)の概要

1) 今年度の目的

- ・夢や希望を持ち生き抜く力を身につけた人づくり
- ・貧困や不安定な家庭環境の連鎖を断ち切る環境づくり

2) 拠点名称と所在地

拠点名称・・・「学び舎・ゆーすぽーと」

所在地・・・千葉県東金市東新宿 12-25

東金市中心部に一軒家の民家を賃貸して
拠点とする。



3) 対象者及び利用方法

(1) 対象者

①生活状態が困窮している家庭の子どもとその保護者

②子育てが困難な状態にある家庭の子どもとその保護者

上記要件のいずれかを満たす小学生・中学生・高校生

※高校生は、中学生の時点で「ゆーすぽーと」に登録していた子どもを
原則とするが、相談にも応じる。

(2) 利用方法

行政機関・教育機関・各種相談機関などからの紹介等を基本とする。

(3) 料金等

利用に伴う料金及び食事・体験などの実費負担はなし

4) 拠点機能

- ・居場所
- ・学習支援
- ・社会体験活動の提供
- ・食事の提供
- ・相談支援
- ・アウトリーチ
- ・送迎支援

5) 開設時期

平成29年(2019年)6月

6) 支援体制及び活動計画

(1) 支援体制

①コーディネーター

教職や福祉職など非常勤職員 7 人がシフト制をとり、一日 4 人以上の体

制で支援。

非常勤職員7人のうち2人が週4日支援、他の5人で週1日～2日で支援している。

行事等の場合は、法人内の別部門からの協力を得ている。

②ボランティア(学習支援や話し相手、調理等のボランティア)

現職・元職の教員、福祉関係者、主婦、大学生、高校生、社会人

(2)活動計画

①活動日 月・水・木・土に活動 月に原則 16 日活動 ※祝日も活動

②活動時間 平日……A:15:30～19:30 と B:15:00～19:00

土曜日・祝日…A:14:00～18:00 と B: 9:00～13:00

※平日の A は夏場の部活動時間に対応した時間

平日の B は冬場の日没が早い時期に対応した時間

土曜日の A・B は、社会体験活動や受験講座に対応する。

夏休み、冬休み、春休みの長期休業中は常に 9:00～13:00

③新型コロナウイルス対応による変更

上記の計画で予定していたが、スタートに緊急事態宣言が出されたため4・5月は週3回で活動。宣言解除後は週4回に戻した。活動時間も終了時刻を通年、小学生は 18:00、中・高生は 19:00 に変更した。

(3)活動日のパターン(平日例)

15:00 オープン。学校から直接、家庭にいったん帰宅してから、それぞれ時間差で通所。入室と同時に手指消毒と検温をし、出席簿に名前と入室時間・体温を記入。体温をスタッフが確認

15:00～18:00 宿題、持ち込みの問題集、備え付けの問題集、読書などそれぞれ自主的に取り組む。おしゃべり、トランプゲームなど多様。社会体験活動もこの時間帯

18:00～18:30 全員そろって夕食

18:30～19:00 夕食の片付けや学習室の清掃、戸締りなどの活動

19:00 出席簿に帰りの時間と食事の有無を記入して解散

例年は、上記パターンで活動していたが、コロナの感染対策のためにそろっての食事を止め、小学生と中学生の食事時間を完全に分けて密集を避けた。そのため、活動時間は随時変更して活動した。

7)実施状況

(1)登録者の状況

①登録者数……………67人

②登録世帯数……………42世帯

(2) 校種・性別登録者数

校 種	人 数	男 子	女 子
小 学 生	24人	9人	15人
中 学 生	24人	7人	17人
高 校 生	19人	6人	13人
計	67人	22人	45人

※高校生の中に、中退して在家庭の子2人を含んでいる。

(3) 学校別登録者数

No.	学 校 名	人 数	No.	学 校 名	人 数
1	東小学校	9人	1	東金中学校	9人
2	鶺嶺小学校	6人	2	東中学校	4人
3	城西小学校	1人	3	西中学校	1人
4	丘山小学校	0人	4	北中学校	2人
5	正気小学校	2人	5	市外中学校	8人
6	豊成小学校	1人	1	県立高等学校	8人
7	福岡小学校	(3)人	2	私立高等学校	9人
8	源小学校	0人	在家		2人
9	日吉台小学校	0人			
10	市外小学校	2人			

※()の人数はサテライト在籍

(4) 登録者の紹介・連携機関と紹介者数

No.	紹介・連携機関	人 数	備 考
1	小・中・高等学校	13人	SSWのつながりも含む
2	東金市 子育て支援課	19人	母子・父子自立支援員等
3	サポートセンター「こころん」	2人	自立相談支援事業
4	東金市家庭教育相談室	8人	東金市教育委員会
5	ハートフルさんぶ・東金教室	3人	広域行政組合運営適応指導教室
6	「学び舎・ゆーすぽーと」	10人	兄弟関係で直接相談等
7	その他	12人	

(5) 登録者(小・中学生のみ)の通学状況(不登校傾向)

学校種	年間30日以上 の欠席者数	割 合	内全欠状 況の人数
小学校	3人	12.5%	2人
中学校	4人	16.6%	2人
計	7人	14.6%	4人

(6) 登録者家庭の世帯構成状況

世帯構成種類		世帯数	人数	人数割合
一人親世帯	母親世帯	27世帯	43人	64.2%
	父親世帯	3世帯	5人	7.5%
夫婦世帯		10世帯	15人	22.3%
その他世帯		2世帯	4人	6.0%
計		42世帯	67人	100.0%

※割合は人数の割合を表している。

(7) 登録者家庭の経済状況

経済状況	世帯数	人数	人数割合
生活保護	7世帯	16人	23.9%
準要保護	24世帯	38人	56.7%
公的扶助を受けていない	11世帯	13人	19.4%
計	42世帯	67人	100.0%

- ・準要保護世帯の中には、自家用車を手放すことができない状況にあるため生活保護の申請ができず、食糧支援を受けて耐えている世帯もある。
- ・公的扶助を受けていない世帯の中には、ある程度の世帯収入がありながら高額な負債を抱えたり家計管理ができないなどのため、扶助を受けている世帯より経済的に厳しい状況の世帯がある。また、ダブルワーク、トリプルワークをして懸命に子育てをしている世帯もある。

(8) 登録者の被虐待状況

67人の登録者中32人が、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待のいずれか、または複合的な虐待を受けていると推察される。48%にあたる。利用者との会話や行動観察の中での把握なので、実態はまだ多いと思われる。

(9) 年間利用者数

①年間延利用者数と活動日数

延利用者数	小学生利用数	中学生利用数	高校生利用数	活動日数
1,924人	1,179人	684人	61人	184日

②月別利用者数・利用延べ人数・活動日数・平均利用者数

月	登録者中の当月利用者	利用延べ人数	活動日数	1日平均利用者数
4	16人	123人	13日	9人
5	20人	140人	13日	11人
6	18人	127人	16日	8人
7	16人	98人	16日	6人
8	27人	162人	16日	10人
9	26人	163人	16日	10人
10	26人	181人	16日	11人

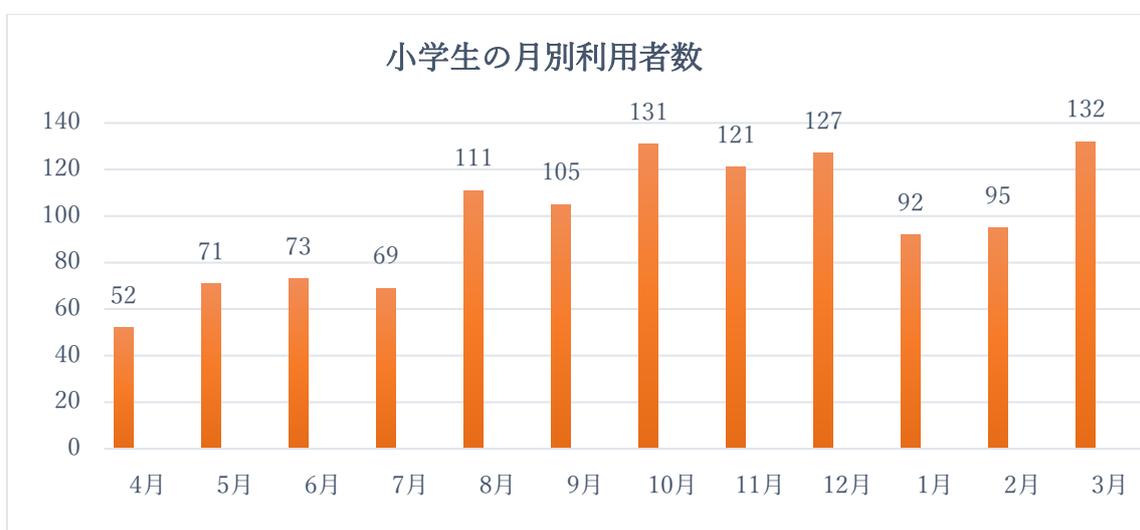
11	28人	188人	16日	12人
12	30人	209人	15日	14人
1	24人	161人	15日	11人
2	24人	166人	16日	10人
3	30人	206人	16日	13人
計	平均24人	1,924人	184日	平均11人

※当月利用者数とは、67名の登録者中該当月に何人利用したかを表している。

※利用延べ人数は小・中・高全校種を合算した人数を表している。

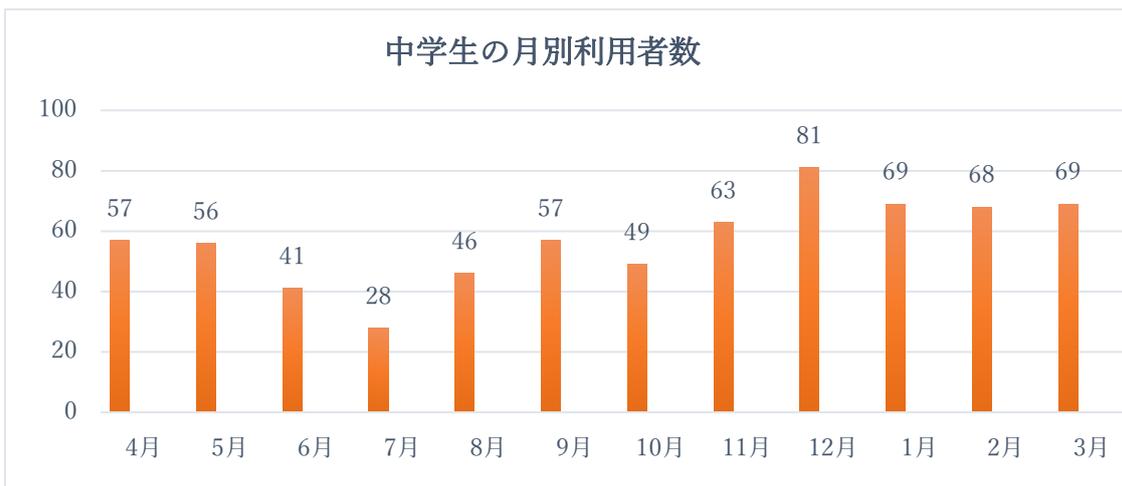
※一日平均利用者数は、小数点以下を切り上げしている。

③月別利用推移表

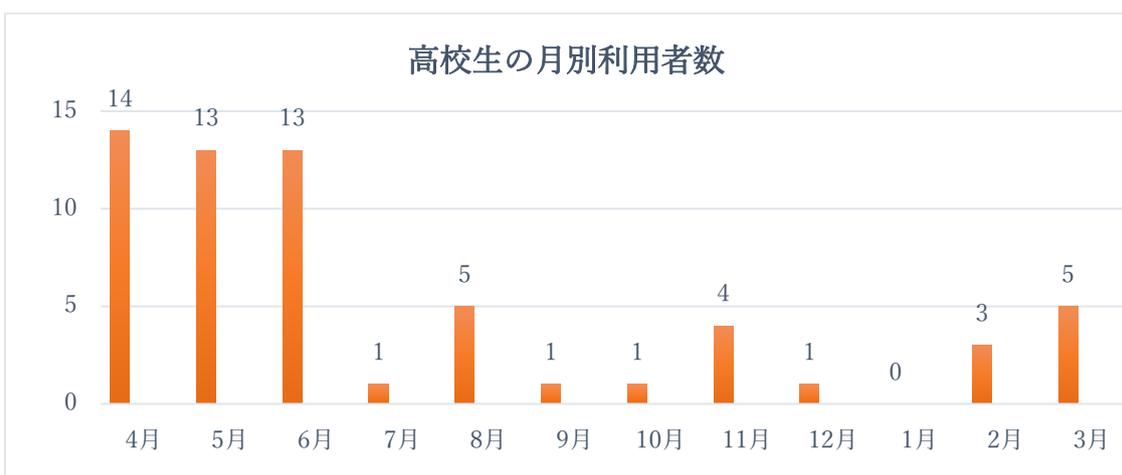


今年度の小学生の利用は、過去3年間と大きく変わった。従来、長期休業中に利用が集中した。夏休み・冬休みの宿題対策、中でもポスターや作文・読書感想文など家庭では指導しづらい課題への支援に期待、長期休業中に体験活動が多く組まれていることも利用を促した要因になっていた。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、ポスターや読書感想文などの指導を含めた「体験活動」がなかなか実施できなかったため、長期休業に集中することなく、比較的平均的な利用となった。



2学期以降新規の申し込みが増えたことにより後半の利用増になった。後述するが、受験間近になって不安を覚えた受験生が無料塾「+すいっち」への問い合わせをしてくる中で、「学び舎・ゆーすぽーと」につながったケースがいくつかあった。



4～6月は、新型コロナウイルス感染症のまん延による緊急事態宣言発令により登校できない高校生の利用が多かった。学校再開後は利用が著しく減少した。また、進学した高校に馴染めず通年利用していた生徒が、高校生活のリズムをつかめたことにより利用が減り、そのことも利用数が減った要因ともなった。

(10) 利用回数上位者

	利用回数	利用回数が多い理由
A 女 中2	132日	利用4年目。学習習慣がしっかり定着し、学校の学習成績が顕著に伸びてきている。先輩の行動を見て、高校への進学を強く意識するようになってさらに学習成績が向上し、5段階評定で全教科5の評定を得て自信を付けている。特に英語が得意で、3月に英検3級に合格した。ボランティアの高校生の中に準1級の子がいて刺激を受けている。

B女 小5	124日	利用4年目。家庭環境の変化で利用形態が何度か変わってきているが、定期的に利用している。学力が高く、読書に集中したり、自学ができたり、学習の場として活用している。喜んで食事を食べてくれるが、食べすぎ傾向にあり、注視している。
C男 小1	119日	B女の弟で、今年度から利用。姉の利用が家族にとって助かっていたようで、入学を待ちわびて利用を開始した。多動で感情的になりやすく、手がかかっていたが、後半少し落ち着いてきた。家庭での出来事が精神的に不安定にしていた面があった。
D女 小3	97日	利用2年目。母子家庭の3人姉妹の長女。母親は自身や子どもたちの体調不良などが重なり、介護職の仕事を退職して生活保護で生活していたが、現在は復職して頑張っている。そのため、「ゆーすぽーと」を学童保育所のように利用している。D女は、長女として背伸びをした期待をかけられているためか、殻に閉じこもってしまうなど、やや精神的に不安定になることがある。
E女 小1	97日	D女の妹で今年度から利用。この子も利用可能となる小学校入学を待ちわびて利用開始。同学年が5人いるので、良い刺激を受けて学習に取り組んでいる。
F男 小5	94日	年度途中9月からの利用だったが、ほぼ休みなく利用した。転居や家族の病気が契機となって長く不登校状態だったのを訪問指導教員やSSWのつなぎで利用開始した。学校・教委と協議して本施設利用日は出席扱いとして取り扱っている。学習意欲が高く、5年生の学習内容はほぼ履修した。F男には、中学生の姉・小学1年の弟もいて3人とも不登校。母親が病気やケガで車いす生活のため、家事がままならないため、「ゆーすぽーと」で出される食事を楽しみにしてくれている。弟も利用していて79日通所した。弟は入学1か月頃から不登校になっている。利用当初は、生活リズムが乱れていて、午後3時に迎えに行っても眠っていることがあり、休むことがあった。次第に生活リズムが改善され、通所できるようになってきている。食事が楽しみで通ってくるが、学習への意欲が低く、ほとんど学習には取り組めていない。他の利用者とのコミュニケーションも取りづらく、ひとりで部屋を走り回っている状態が続いた。現在は、多少からめる仲間が出てきて、仲間と一緒に遊ぶ場面もできてきた。

G 男 小6	89日	利用2年目。学校での様子を心配したSSWよりつなげられて利用を始めた。多動傾向があり学力が低いことと栄養面を考慮した配慮だった。少しは落ち着いた行動ができるようになってきているが、学習習慣を身に着けるまでには至っていない。虫の観察や工作が大好きで、集中して取り組む。絵が得意で、コーディネーターやボランティアに褒められ自信を強めている。食事を楽しみにしてくれて、弁当を持ち帰って母親と弟と自宅で食べている。母親不在の時は「ゆーすぼーと」で食べている。野菜や果物に偏食がある。予定されていた転居がコロナの影響により早まって2月に転校していった。
H 男 小4	86日	G 男の2歳年下の弟で、利用2年目。兄より多動で、どうなるかと心配していたが、今年度に入って少し落ち着いてきた。愛嬌があり可愛がられる存在だった。兄同様、絵を得意としていたが、学力は低い。好き嫌いなくよく食べてくれた。兄と一緒に転校。転校先や新しい家庭でなじめるか心配している。
I 女 小2	84日	本人は毎日参加したいのだが、大病して療養している母親のコロナ感染を懸念して利用を抑制していた。「私、お母さんを殺すかもしれない」などと大泣きして言い出すなど、親を心配させていたが、「ゆーすぼーと」と学校で連携して、カウンセリングにつなげ現在は安定している。
J 女 中3	83日	今年度9月より利用開始。わずか半年余で83日はかなりの高利用率。無料塾「+すいっち」の申し込みに来て「ゆーすぼーと」にもつながった。いつでも学習面での質問ができる環境が備わっていたため、学習意欲が増し、成績が伸びる好循環ができて高利用率になった。

(11) 一開設日の最大・最小利用者数

- ①最大利用者数 ……………22人 3月25日 卒業を祝う会開催
 ②最小利用者数 …………… 1人 7月11日 利用割合の低い土曜日で悪天候の日だった。

(12) 高校生が利用している理由

今年度は、高校生の利用が少なかった。新型コロナウイルスのため、入学したけれど登校できなかつた3か月間は利用があつたが、以降は月平均2人ほどの利用だった。それだけ、高校生活が安定していたのではと推測している。高校生が利用してくれた理由は下記のようなものである。

- ・大学や専門学校合格の報告
- ・高校生活上の悩み相談
- ・高校卒業後の進路相談
- ・定期テストの成績報告
- ・近況報告
- ・ふらっと夕食を食べに立ち寄る

(13)利用者の通所方法

利用条件として、中学生以上は1人での通所を認めてきているが、小学生は親の送迎を原則としている。強雨でも自力で通所している中学生がいるが、他の中学生は晴天時に自転車で、悪天候の時は車で送迎される子どもが多い。高校生は不要不急なので、悪天候時の利用者はほぼいない。

小学生は、近所の子どもは歩いて、遠方の子どもは保護者の車や保護者の付き添いで自転車で通所してきている。昨年度後半より、車がなかったり、親の仕事の都合が合わず送迎できなかつたりする家庭の子どもは、依頼に応じて送迎している。

今年度は、小学校低学年の子どもの利用増や生活保護家庭の子どもの利用があつたりして送迎サービスを受ける子どもが急増した。

(送迎サービスの状況)

月	迎 え		送 り		活動日数
	延べ利用数	延べ利用家庭数	延べ利用数	延べ家庭利用数	
6月	12人	6	14人	7	8日
7月	19人	11	20人	12	13日
8月	30人	19	28人	18	16日
9月	26人	18	32人	18	16日
10月	40人	26	43人	31	16日
11月	35人	24	29人	18	16日
12月	38人	29	40人	30	15日
1月	37人	25	42人	27	15日
2月	42人	27	45人	25	16日
3月	63人	40	73人	43	16日
合計	342人	225	366人	229	147日

4・5月の緊急事態宣言時は小学生の「ゆーすぽーと」利用を停止したため、送迎はなかった。

小学生家庭10件、中学生家庭3件の利用があつた。

迎えの場所は、自宅、学校、公設学童など様々だったが、送りは全て自宅だった。

迎えと送りの両方を依頼される家庭は4件で、その他の家庭、片方だけの利用であった。

一日の最大送迎数は、送迎共に6家庭、9人だった。

8) 支援体制

(1) コーディネーター

① 担当

	氏 名	経 歴	担当教科
1	藤田 実	元小・中・高校教員	社 会
2	福島 邦英	元小・中学校教員	
3	内田 智子	現保育士	英 語
4	井上 博文	元中学校教員	
5	篠崎 健一	元中学校教員	社 会
6	四之 宮学	元中・高校教員	数 学
7	澤本 良昭	元中学校教員	理 科

② シフト

7人のコーディネーター(非常勤)で可能な限り4人体制を維持して運営している。

	藤田	福島	内田	井上	篠崎	四之宮	澤本	体制
月曜日	○	○	○	○				4人
水曜日	○	○	○			○		4人
木曜日	○	○	○	○	○			5人
土曜日	○	○					○	3人

土曜日は比較的利用数が少ないことやボランティアが定期的に入っているため3人体制。

木曜日の篠崎が他業務のため欠けることがあるので、5人体制にしていた。

4・5月に最初の緊急事態宣言発令時は新型コロナウイルス感染対策のため、密を回避して、主たるコーディネーター2名で対応した。

(2) ボランティア

① ボランティアの参加者数

ボランティアの種類	参加者数	延べ参加者数
学習・体験活動支援ボランティア	6人	50人
調理支援ボランティア	10人	148人
物品提供ボランティア	135人	175人
合 計	151人	373人

新型コロナウイルス感染対策のため4・5月はボランティアをお断りしたため、ボランティア参加者数が減った。再開後も自らの判断で控える方がいて、年間を通して参加者数は大きく減少した。物品提供のボランティアにはたくさんの方々が参加してくれたが、学習支援・調理ボランティアには、昨年からの継続者がほとんどで、新規は1名のみだった。

②ボランティア参加者の職種等

学習・体験活動支援

	職種等	人数
1	退職教員	1人
2	現職教員	2人
3	高校生	3人

調理支援

	職種等	人数
1	主婦	6人
2	現職公務員	4人

③参加頻度が高かったボランティア

学習・体験活動支援ボランティア

敬称略

氏名	回数	参加状況
花澤 昌利	20回	4年目。元小学校校長。ほぼ毎週土曜日定期的に参加し、積極的に利用者の学習支援をしている。利用者とコーディネーターやボランティアの人数を把握して、手が余る時は自ら環境整備をしている。
原田 珠希	10回	3年目。高校3年生。コロナ禍であったことと自身の大学進学準備などで昨年の24回からは参加日数は減ったが、やりくりをして意欲的に参加してくれた。中学校の国語の教諭を目指しているが、見事にその資格が取得できる第一志望大学を早々に決めて参加してくれた。長くお付き合いした利用者にとって良きロールモデルになってくれると思う。
林 理奈	5回	原田さんに誘われて参加してくれて3年が過ぎた。やはり自身の受験のことがあり昨年からは参加日数が大きく減ったが、多忙の中やりくりして参加してくれた。看護師を目指し、看護学校を受験して見事合格。原田さん同様、利用者たちの良きロールモデルになってくれると思う。

(調理支援ボランティア)

氏 名	回 数	参 加 状 況
天野 晶子	34回	参加4年目。木曜日を中心に、月3～4回の頻度で参加。多くのボランティア仲間を募り、連れ立って参加してくれている。仲間たちと自主的にローテーションを組み、ほぼ木曜日の支援を埋めてくれている。木曜日を希望するボランティアが増えたため、他の週に回って担当してくれることも多くなった。
久保田恵子	34回	参加4年目。木曜日を中心に、月3～4回の頻度で参加。「ゆーすぽーと」のボランティア活動を各所で広めてくれて調理や物品提供の新規ボランティアを増やしてくれている。リサイクル活動にも熱心に取り組んでいて、「ゆーすぽーと」の廃棄物の多くを資源ごみとして整理してくれている。
下田千枝美	14回	参加 4 年目。東金市役所子育て支援課で非常勤職員として「母子・父子自立支援員」の仕事をしていて、多くの利用者をつないでくれている。預けた責任があるからと何かと心配りをしてくれている。親の介護をしながらも、時間を確保してボランティアを続けてくれている。

9) 学習支援の状況

(1) 学習の習慣づくり

通所してきた子ども達には、最初に今日やることの確認をして、それぞれに課題を設定させる。学習支援の場がない環境でも自分で学習に取り組めるように、課題を与えず自ら選択させることを主眼としている。部活動などで遅い時間に参加してくる子もいるが、必ず机に向かわせてから夕食にしている。

(2) 宿題の支援

「ゆーすぽーと」に通所する子どもの約15%は長期欠席者である。家庭環境や学力が低いことなどが要因になっているが、学校で出された宿題ができずに気後れして、それがきっかけになって登校を渋る子もいる。そこで、通所してきた子どもには到着一番に宿題に取り組ませ、確認をしている。

宿題の中でも、長期休業中の多くの宿題が負担となって、休業明けに長期欠席に陥る大きな要因となっている現状があった。各地でその支援活動が行われているが、「ゆーすぽーと」利用の子ども達も同様であり、特に困難と感じている宿題がポスターなどの絵画作品と作文・読書感想文であり、これまでは、長年それらの教科を専門にしていた教職 OB や現役教師にお願いして指導していただいていたが、コロナ禍の今年度の夏休みは期間が短縮され、宿題も減らされてその心配は減少した。

(3) 調べ学習の支援

教えられることに依存しないように、子ども達の質問には即答せず、辞書や参考書を与えている。初期段階ではコーディネーター側で適切な辞書・参考書を与えその利用方法を教えているが、徐々に自分で必要な辞書や参考書を探させるようにしている。時には備え付けのパソコンやタブレットも使用させている。体験活動を通して、実物・実体験も重視するようにしているが、やはりコロナ禍で、その場も減ってしまった。

(4) 個の学力に応じた支援

学校の長期欠席者は、学年や単元の学習内容がすっぽり抜けている。「私、休んでいたからわからない」と誰の前でもあっけらかんとして学習に取り組む子どももいるが、ほとんどの子どもは下の学年の学習をしていることを隠したがる。そうした子ども達への個別の支援体制に配慮している。また、学習を体系的に教える手立ても必要なため、教科の専門性も重視して対応している。

(5) 高校進学に対応した支援

ここは、生涯を通して学習していくために必要な資質である自学自習の習慣を養うことを眼目に活動していて、高校進学を希望する受験生のみを対象にした学習支援の場ではない。しかし、今年度も受験対策を目的の駆け込み需要があった。全員が経済的事情で塾通いがままならない子ども達であり、子ども達にとっては塾代わりを期待している。目の前のニーズにもしっかりと応えて、受験に対応する支援にも力を注いだ。

①教科指導を主としたコーディネーターの配置

曜日	教科	コーディネーター名	備考
月曜日	英語	内田 智子	
	社会	藤田 実	
水曜日	数学	四之宮 学	
	英語	内田 智子	
	社会	藤田 実	
木曜日	理科	澤本 良昭	理科は無料塾開始後土曜日のみ
	社会	篠崎 健一	
土曜日	理科	澤本 良昭	
	社会	藤田 実	

②受験生を主とした特別の講座を開設

今年度は、中学生の部活動との両立、サービスの広域化を意図して、無料塾「+すいっち」の活動(詳細は後述)を実施したため、特別講座は昨年の半分以下に減らして実施した。

2020年度「学び舎・ゆーすぽーと」受験対策講座

回	月	日	曜日	時 間	教 科	担 当	場 所
①	12	5	土	9:00～12:00	国語	小久保晶子	ゆーすぽーと
②	12	12	土	9:00～12:00	社会	藤田 実	ゆーすぽーと
③	12	19	土	9:00～12:00	国語	小久保晶子	ゆーすぽーと
④	12	26	土	14:00～17:00	社会	藤田 実	ゆーすぽーと

※一部既習の内容がある講座は2年生も受講した。

③教科指導以外の支援

- ・進路選択の面談
- ・面接の練習
- ・作文練習

④支援の結果

	進 学 校	受 験 校		
		公立高校	私立高校	
			前期入試	後期入試
A 女	千葉県立 O 高校	◎	—	—
B 女	千葉県立 T 高校	◎	○	—
C 女	私立 B 高校	—	専願 ◎	—
D 女	千葉県立 M 高校	◎	—	—
E 女	千葉県立 K 高校	◎	—	—
F 男	私立 H 高校	—	専願 ◎	—

◎は合格で決定進路 ○は合格

今年度より公立高校の学力検査が、前期・後期の2回から1回になった。
経済的に併願が許されなかったA女、D女の二人は極度のプレッシャーがあったに違いないが、よく頑張り合格した。

<学習風景>



<受験講座>



10) 食事提供の状況

経済的に困窮すると、家計を回すための手立てとしてまずは食から手が付けられてしまう傾向にある。食事の質を落とし、次に量まで手が付けられる。経済的な困窮が利用条件の「ゆーすぽーと」の利用者は、体格的に痩せている子の割合が高い。栄養状況を反映してか、逆に肥満傾向の子も多い。それに、発達障害が影響しているのか、落ち着きがなく多動傾向の子どももいる。そのため、「ゆーすぽーと」では食事の提供を重視し、可能な限り子ども達の食育条件を整えていきたいと願っている。

活動日の週4回は、夕食・昼食のいずれかを提供している。午後3時半からの通常活動日は夕食、長期休業中の午前9時からの活動日は昼食を提供している。週4回の食事提供については、家庭での食事の機能を損ねてしまわないかと懸念したこともあったが、多くの利用者が置かれている家庭の食事状況や親子関係などから推察すると、提供回数が多いことのほうに益があると判断して今年度も4回提供で実施した。学習習慣作りの第一歩の効果もある。ほぼ学習習慣がなく食事時間ギリギリに通所して来ている子どもがいたが、食事の回数を重ねてくると、早目に通所して机に向かうようになった子どももいる。そうした効果もあり週4回の食事提供を実施している。

昨年度、特殊事情があって弁当の提供も一部で行った。母子家庭で、母親が深夜勤務という生活サイクルのため、親子で食事の場面が夕食しかないので食事を摂らせないで帰して欲しいという要望があったので、果物やおやつを持たせて帰宅させていた。しかし、子どもとの会話中に食事メニューの多くがカップ麺であることが分かったため弁当を持たせて帰したことがあった。それに対して母親からすぐに感謝の言葉が寄せられた。喜ぶ様子が必要性を表しているのだろうと推測して、以後3人分の弁当提供を続けてきた。初期は週1回の提供だったが、コロナによる学校休校と接客業の母親が自宅待機になり収入が途絶えてからは週4回提供してきた。

今年度は、コロナの感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により、その影響を受ける家庭が増加し、食事提供の形態の変化が余儀なくされた。4・5月、「ゆーすぽーと」では密集を避けるため小学生の利用を控えていただき、必要に応じて弁当配付の措置をとった。中学生は自習室としての利用を認め、食事提供を行った。

二人のコーディネーターが協力して弁当を作りそれぞれの家庭に配布して、その後「ゆーすぽーと」を利用している中学生と高校生に食事提供をした。コロナの家計への影響も深刻で、家族への支援も必要となり、利用者の母親や父親、それに弟妹への弁当の提供も行うようになった。

(1) 提供食事数

通常の食事提供	およそ 2,000食
弁当での食事提供	およそ 900食

①通常の食事提供

「ゆーすぽーと」利用者はほぼ全員が食事を摂るので、「ゆーすぽーと」の延べ利用者数とほぼ同数と考えられる。その他に、朝食を食べていなくて空腹を訴えている子どもには提供した。

②弁当の提供

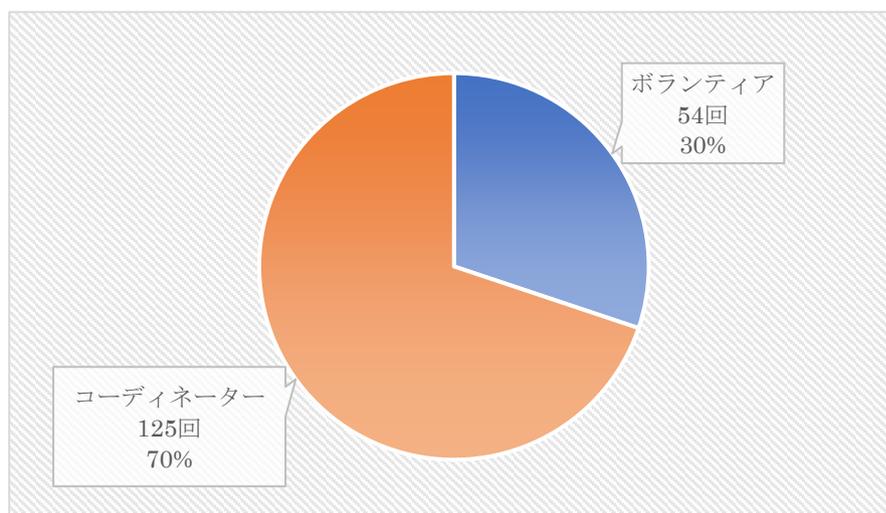
提供家庭数(提供人数)	8家庭(25人)
内頻度の高い提供家庭数(提供人数)	4家庭(14人)
年間延べ提供食数	903食
年間延べ提供家庭数	387家庭

月別弁当提供数(延べ数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
食数	99	142	64	26	37	68	100	83	75	65	70	74
家庭数	32	46	22	14	21	34	41	38	38	32	35	34

(2) 食事の調理者

今年度の活動日は184日。そのうち、体験活動で作ったものがそのまま食事になることがあったので、その5回を除いて年間を通して179回の調理が必要だった。コロナの影響で昨年度より大幅に減少したが、固定した調理ボランティアのメンバーが、自分たちでシフトを作って木曜日の担当をほぼ埋めてくれた。また、月1回は必ず参加してくれるメンバーがいて、助けられた。月に平均すると5〜6回程度応援いただけた。残りの調理はコーディネーターで対応した。



(3) 提供食事メニュー例

10月のメニュー(夕食)

日	曜日	メニュー	食数	弁当数	担当
1	木	むね肉塩糍き、かぼちゃ煮物、ナス中華味、みそ汁	9	3	V
5	月	チャーハン、オニオンスープ	10	6	C
7	水	カレーライス、ゆで卵、カルピスゼリー	14	7	C
8	木	肉じゃが、ニラ玉、ポテトサラダ、みそ汁	8	6	V
10	土	鶏のから揚げ、野菜素揚げ、オニオンスープ	2	2	C
12	月	中華丼、みそ汁、柿	13	2	C
15	木	ドライカレー、野菜の和え物	11	3	V
17	土	チキンライス、トマト、中華スープ	7	2	C
19	月	牛丼、みそ汁、柿	12	5	C
21	水	鶏肉フライ、さつま芋天ぷら、冬瓜の煮物、みそ汁	17	7	V
24	土	アイデア袋ラーメン(兄弟で自炊・体験活動)	10	1	C
26	月	三食丼、トマト、みそ汁、柿	9	2	C
28	水	コロッケ、目玉焼き、キャベツ千切り、みそ汁	16	6	C
29	木	ミックスフライ、じゃがいもきんぴら、みそ汁	11	4	C
31	土	鶏むね肉の塩こうじ焼き、春雨中華サラダ	16		V

※26日は、無料塾「+すいっち」大網教室の弁当 13食も調理・搬送

※31日は、地元のパン屋・粉桜さん提供のハロウィーンクッキー付き

※Vはボランティアが調理 Cはコーディネーターが調理

2月のメニュー(夕食)

日	曜日	メニュー	食数	弁当数	担当
1	月	恵方巻き、みそ汁、みかん、落花生	18	11	C
3	水	中華丼、サラダ、みそ汁	15	3	C
4	木	酢豚、人参胡麻和え、スープ、ヨーグルト	11	6	V
6	土	カレー、人参と大根の和え物、みそ汁、りんご	4	0	C
8	月	牛丼、生卵、大根の酢漬け、苺	13	6	C
10	水	三色丼、人参と大根サラダ、みそ汁、みかん	14	3	C
11	木	白菜ロール、ほうれん草ハンバーグ、みそ汁、みかん	6	1	V
13	土	海鮮丼、みそ汁、りんご	9	2	C
15	月	チキンナゲット、大根と人参の煮物、みそ汁、みかん	10	3	C
17	水	カレーライス、人参ゼリー、苺	10	4	C
18	木	八宝菜、人参しりしり、みそ汁、人参ゼリー、苺	13	7	V
20	土	里芋とベーコンの炊き込み、目玉焼き、みそ汁、苺	5	2	C
22	月	チャーハン、大根サラダ、みそ汁、みかん	12	6	C
24	水	ちらし寿司、唐揚げ、みそ汁、みかん	7	4	V
25	木	鱈フライ、ひじき煮、里芋の京風煮、みそ汁、みかん	8	10	V
27	土	カレーライス、目玉焼き、みそ汁、揚げ餅	11	2	C

※2月は、みかんが多く提供されたが、これは下記の鴨川市の有機野菜農家より提供されたものである。

※苺も多く提供されたが、ふるさと納税返礼品とボランティアの皆さんからの差し入れである。

※大根、人参、里芋メニューが続いたが、みかんと同じ鴨川市の有機野菜農家からの提供物である。

(弁当のメニュー)

ほぼ、その日に提供する献立と同じもので作って提供。早めに帰宅する子どもや、不足した場合は作り置きで冷凍していたものを提供する場合もあった。弁当は、基本的にコーディネーターが作った。

(4) 食材について

- ・「ゆーすぽーと」の拠点は水田や畑に囲まれている土地柄、主食のコメは全て寄贈品で賄えた。余剰の米の一部を寄贈者にお断りを入れて生活困窮している利用者の家庭に支援した。主食の変化に焼きそばやパスタは購入したが、うどん、そうめんなどは多く寄贈していただいた。また、東金市名産のグーラーメンも寄贈(※ふるさと納税返礼品)していただいた。
- ・野菜もたくさんの寄贈品が寄せられる地域である。しかし、高温で生育が悪かったために寄贈していただけるものが少なく購入せざるを得なかった。冬は暖冬だったため、大量の野菜が届けられ、十分に賄えた。野菜も支援に回すことができた。市内の水耕栽培農家の今関さんより、通年、サラダ菜をふんだんに提供していただいて、毎食の飾り食材はもちろん様々にアレンジして使わせていただき、重宝している。
- ・肉は全て購入した。
- ・魚は贅沢な切り身魚(サーモン、キンメダイ、銀鱈、鯖、鰯など)をたくさん寄贈(※ふるさと納税返礼品)していただいた。しかし、残念なことに金山寺味噌漬けの高級魚はあまり子どもたちの嗜好に合わず、塩鮭や鰯・鰯・秋刀魚などを購入した。
- ・卵は年間を通して、月に 100 個を寄贈(※ふるさと納税返礼品)していただいた。少し価格が高めの安心安全にこだわった「酵母卵」だった。活動の趣旨を理解してくださった養鶏農家の林さんは毎回たくさんのおまけを付けてくださったので、子どもたちのたんぱく源は十分に確保できた。
- ・調味料はほぼ購入しているが、味噌は利用者が「体験活動」で作ったものを利用した。手前味噌と言うが自分たちの味噌は格別のように感じているようだ。また、地域柄味噌を自家製のお宅が多く、時々寄贈してくださる。酢はふるさと納税返礼品でまかなっている。
- ・果物も地域柄多くの寄贈品がある。特に西瓜、ぶどう、梨、苺などが多い。昨年度はほぼ購入していたみかん、りんごもすべて差し入れてまかなえた。
- ・嗜好品もほとんど寄贈品でまかなうことができた。ふるさと納税返礼品で、チーズケーキ、プリン、マシュマロなどをいただいた。今年は、東京より定期的に高級で珍しいお菓子が届けられ、子どもたちは大喜びだった。これはコロナの副産物だった。歌舞伎役者さんに差し入れられたお菓子だったが、楽屋で頂くことが出来なくなって、マネジメントをされている和田桂さんが送ってくれたのだ。毎年子どもたちがひそかに心待ちにしている粉桜さんのハロウィークッキーやクリスマスケーキ(今年はドイツのクリスマス定番のお菓子「シュトレン」)も頂けて大満足だった。
- ・今年度は新たな展開もあった。ボランティアさんが新たなボランティアさんをつなげてくれて思ってもいなかった支援ルートができた。鴨川市在住の自然食

研究家の吉度ちはるさんの働きかけで、鴨川の有機野菜農家さんから野菜を提供していただけることになった。送料は吉度さんがFBでクラウドファンディングを立ち上げ、募ってくださった。上述のみかんは、実際は吉度さんが遠路運んできてくれたものだったが、このプランの先行的試みの一環だった。

- 今年度は、台風被害もなくあたたかい秋で、食物の生育には好条件がそろい、農家にとっては歓迎されるべきはずだったが、皮肉にも獲れすぎが悩ますこととなった。隣接する八街市の農家で大根を掘って出荷すればするほど赤字が膨らんでしまうので、トラクターで耕してしまうという情報を聞き伝えた方が、つなげてくれて大量の大根を提供していただけることになった。スタッフで八街市の畑に出かけ、100本ほどいただいてきた。お土産に人参も大量に頂いた。そのことは「日本農業新聞」の取材を受け掲載された。

※ふるさと納税返礼品とは、東金市に高額なふるさと納税をされた方で返礼品を受け取らずに寄付を申し出た人がおり、その一部を財政課が「ゆーすぽーと」に向けてくれたものである。示された金額内で、いただいた返礼品リストの中から「ゆーすぽーと」で選択した。市はそれぞれの返礼品の出品者に発注し、支払いを済ませて、納期は「ゆーすぽーと」とそれぞれの出品業者と相談して納品していただいた。出品業者の方々が活動の趣旨を理解してくれて、月毎、年に数回、必要に応じてなど弾力的な納品に協力してくれた。

<食事風景>



<提供したメニュー例>



<お弁当メニュー>



<調理風景>

スタッフと1年生のお手伝い



ボランティアの調理風景



11) 社会体験活動

「ゆーすぽーと」を居場所として機能させるためには、子ども達が「行きたい」、「行ってもよい」と感じる魅力的な要素がなければならない。そのため「話しを聞いてくれる人がいる」、「塾のように勉強を教えてくれる」、「おいしい食事がある」などの魅力的要素を備えるべく活動・努力しているが、一層子ども達に魅力的な場だと思ってもらえるように、イベントとして様々な「社会体験活動」を提供している。

また、「社会体験活動」を居場所の一要素とするだけでなく別建てで重要視している。それは、学力と共に将来生きていく力となる「非認知的能力」を育むのに有効だと注目しているからである。非認知的能力は、「自己に関わる心の力」(自尊心、忍耐力、動機付け、自己効力感、達成目標など)と「社会性に関わる心の力」(共感性、向社会性、感情知性)があり、最後までやり抜く力やコミュニケーション力も非認知的能力だと言われおり、利用者身に付けてほしいと強く願うからである。

しかし、新型コロナウイルス発症者の急増に対応して政府が発出した緊急事態宣言下に活動を開始した今年度は、「ゆーすぽーと」の活動すらままならない状況だったので昨年度とは大きく違った。地域の感染者状況の見極めや感染対策の措置を講じて再開できたのは利用者の夏休みに入ってからであり、3か月遅れでのスタートだった。子どもたちの中にたまったストレスもここまでという、見極めの時期でもあった。

「ゆーすぽーと」外に出かけず、密集を避けるために屋外でのプログラムから恐る恐る再開していった。感染予防のためには、マスクを外して食べる体験は極力避けなければならない判断材料だったが、「ゆーすぽーと」で日常的に行っている食事提供を工夫して「体験活動」に結び付けて実施することにした。「学び舎・ゆーすぽーと」の運営委員会の席上で委員の方から、今年度は「食べる体験に偏っていませんか」とのご指摘を頂く状況でもあった。

何か一つでも体を動かす体験させてあげたいと、最終回にボルダリングの活動を企画して、参加者を募っているところだが、やはり、子ども達は待ちに待っていたかのように多くの参加希望が寄せられている。

新型コロナウイルスの影響で、昨年度9回あったボランティアさんの企画・立案してくれた「持ち込み体験活動」が、今年度はゼロになった。そのこともあり、活動数も全15回で昨年度の半分以下の状況となった。

以下に掲載した15回のような特別に計画した体験活動だけでなく、「ゆーすぽーと」では日常的にもたくさんの体験を意図的に経験させている。また、意図しなくても、利用者の多くの子どもが特別でないような体験が、特別な体験になっている子どももいると思われる。

(1) 体験活動一覧

NO	体 験 名	実施日	曜日	講師名	参加数	備考
1	そうめん流し大会	8/8	土	—	12人	
2	メダカすくい体験	8/10	月	井上琉翔	12人	
3	バーベキュー大会	8/17	月	天野晶子	16人	
4	アイディアラーメンづくり	10/24	木	—	10人	
5	さつま芋掘り体験	10/31	土	戸田勝久	17人	市内・源
6	さつま芋収穫祭	11/23	月	—	13人	
7	本格イタリアン体験	12/5	土	小澤翔太	15人	
8	餅つき大会	12/24	木	伊藤しづの	17人	東金中央 公民館
9	恵方巻き体験	2/1	月	原 秀子	15人	
10	受験生エール飯	2/13	土	鈴木淑子	9人	
11	味噌づくり体験	2/27	土	久保田恵子	8	
12	非常食体験	3/6	土	—	12人	
13	レストラン体験	3/17.18	水・木	佐久間俊雄	22人	カフェ きり株
14	卒業を祝う会 焼きそば・ホット ケーキづくり体験	3・25	木	—		
15	ボルダリング体験	3/25	木	山本浩志		市内・家徳

※備考に活動場所が未記入の活動は全て「ゆーすぽーと」で実施している。

(2) 体験活動内容

No.	体 験 名	体 験 内 容 等
1	そうめん流し体験	体験活動を一度も経験することなく夏休みを迎えた子どもたちに、何か体験させたいと思っている中で、発案されたのがこの活動だった。暑い屋外での体験だったが、久しぶりの解放感と連帯感で参加者の反応が良く、大喜びだった。

2	メダカすくい体験	これも屋外での活動ということで、企画された。密を避けるために、兄弟・姉妹以外は一人ですくう体験で少し寂しい状況だったが、水の季節に喜んで取り組んだ。すくったメダカは、個人の水槽に入れ各家庭に持ち帰って観察することにした。
3	バーベキュー体験	やはり、屋外での体験が条件で候補に上がった。しかし、炎天下での活動だったため、暑さと熱さに耐えきれず次第に室内に潜り込んでしまう子が続出してしまい、残されたのは講師とスタッフだけになってしまった。窓を全開にして、汗を拭きだして食べた経験は思い出深いものになったと思われる。
4	アイディアラーメンづくり体験	袋ラーメンを栄養的にバランスがとれた食事として、家庭でも食べられるようにとの思いで計画した活動である。好きな種類の袋ラーメンをグループで選び、スタッフが用意した野菜中心の具材を使って作るラーメンである。具材は好きなものを使って良いと説明してあったが、ほとんどのグループがすべてを使い切っていた。食べながらある子どもが満面の笑みを浮かべて発した「これ、本当に僕が作ったラーメン……。美味しい……。」の言葉が今も耳に残っている。グループ構成は、偶然、一組以外は兄弟、姉妹、日常的に交流しているいとこの組み合わせで、活動できた。
5	さつまいも掘り体験	「ゆーすぽーと」内での活動が続いていたので、子どもたちに伸び伸びとした活動を提供したいと思っていたところにタイミングよく、農家の知人から、さつまいも掘りのお誘いを頂き実施した。我慢の生活を送っていた子ども達が、秋の好天、土にまみれて活動する姿は喜びに満ちていた。
6	さつまいも収穫祭	自分たちで収穫した作物の味は格別のはずと、ボランティアの皆さんが、さつまいもづくりの夕食づくりをしてくれた。さつまいもの炊き込み、さつまいも汁、大学芋、天ぷらなどこれでもかと、さつまいもメニューが並んだ。子どもたちも、さつまいも掘りに汗を流したシーンを思い出し、噛み締めるように味わっていた。

7	本格イタリアン体験	調理ボランティアを名乗り出てくださった人が、長年一流ホテルでシェフをされていた現役の調理人だったので、お願いして実現した活動である。どの分野の料理でも可能ということだったが、普段の料理であり出てこないイタリアンを希望した。ありきたりのナポリタンもメニューもあったのだが、一味も二味も違って、食した子ども達やスタッフも感嘆し、舌鼓を打っていた。
8	餅つき体験	機械でつく餅だったが、つくたての餅を講師の方にちぎってもらい、納豆餅、きな粉餅、あんこ餅、辛味餅、甘辛醤油餅など様々な味付けで堪能していた。つくたての味は格別のように、どの子どもも定量を超えて食べていた。思い出の味としてしっかり定着してくれていることを願っている。食べた後は、「ゆーすぽーと」の正月用のお供え餅と雑煮用の餅を作った。今年度は、家族への土産用の餅も作った。密を避けるため、広い空間を確保できる市の中央公民館に場所を移して実施した。
9	恵方巻き体験	例年、子ども達が講師に手ほどきを受けながら巻いた恵方巻きを食べていたのだが、今年度はコロナ対策のため、講師の方に作っていただいた。プロお手製の見た目のきれいな恵方巻きをいただいた。作っている様子は遠目に見学できるようにしたが、子ども達にとっては、どちらがおいしかったか。今年の方角、南南東をしっかりと確認して沈黙で食していたが、何を祈っていたか。受験生は合格祈願だったのであろう。
10	受験生エール飯体験	10日後に控えた公立高校の学力検査を前に、受験生を励ますために、そして、下級生には受験を身近に感じてもらうために実施した。昨年は勝ち飯を意識して、かつカレーで励ましたが、今一つの評判だったので、受験生を中心に希望メニューを募ったところほぼ一致して、お刺身を希望した。このことを講師の方にお伝えして、振舞われたのが、ちらし寿司だった。ちらし寿司に使われた彩のアボガドを食した一人の子が「初めて食べた。こんな味なんだ」とつぶやいていたのが印象的だった。試験10日前ということ

		で、作る講師の先生には衛生面で最善の策をお願いし、食す受験生たちには十分すぎる間隔を確保した。
11	味噌づくり体験	「ゆーすぽーと」の食材調達を兼ねて恒例となった味噌づくり体験も3回目になった。今では、「ゆーすぽーと」で使われる味噌は、すべて子ども達お手製の手前味噌になっている。大豆と麴と塩だけで作って樽に詰め込んでいたものを約半年寝かせて開けた瞬間に味わった舌の感覚は忘れがたいものになるに違いない。
12	非常食体験	食材にと、賞味期限が近付いた「非常食」を頂いた。せっかくなので、非常食体験としてすべて頂いたキットで完結するように指示して、子ども達に作らせて見た。同封の手順を読み、意見を交換しながら作った。非常時にはそのまま食べて食べられる状態に仕上がったが、おいしくいただくためにはもう少し温めたいとの声が上がり、キッチンで温め直していただいた。
13	レストラン体験	「ゆーすぽーと」のお隣さんにオーナーと奥さんで切り盛りする老舗カフェがある。以前から、子ども達に差し入れを頂いたり、けがをした子どもを手当てしてもらったりと親切にして頂いていた。そのカフェ「きり株」さんに子ども達個人個人が自分で、メニューを選び、お金を支払う体験を申し出て、快諾していただいて実現した。子ども達用に価格を抑えた特別なメニュー表をこしらえて対応して下さった。一般客に配慮し、密を避けるため2日に分けて実施した。最初は、恐る恐る出かけて行った子ども達だったが、おいしい料理をいただいたこともあるが、自分で選び、お金を支払う体験をして、達成感を味わった様子でどの子どもも笑顔で帰ってきた。そして、自分の選んだメニューのことや友達との出来事を楽しそうに語ってくれた。後日談で、高揚感そのまま帰宅して家族にも話していたことを伝えられ、感謝された。

14	卒業を祝う会	「ゆーすぽーと」は、一度利用申し込みをした子どもは、利用中止の申し出がない限り高校卒業まで登録者扱いとしているが、いったん中学校の卒業を機に、卒業を祝う会と称して、送別会を実施してきた。例年、下級生が企画し、ゲームなどで交流してにぎやかに実施していたが、今年度はメッセージカードの贈呈と少し豪華な会食であった。
15	ボルダリング体験	今年度は、食に関する体験活動に偏ったきらいがあり、体を動かす体験を模索していたところ、ボルダリングを紹介してくれる人があった。見学をさせてもらったところ、広々として、換気も十分行える環境にあり、営業時間外なら協力していただけることになり、計画した。

1. そうめん流し体験



2. メダカすくい体験



3. バーベキュー体験



4. アイディアラーメンづくり体験



5. さつまいも掘り体験



6. さつまいも収穫祭



7. 本格イタリアン体験



8. 餅つき体験



9. 恵方巻き体験



10. 受験生エール飯体験



11. 味噌づくり体験



12. 非常食体験



13. レストラン体験



(3) その他の日常活動の体験

社会体験活動のような特別企画した活動以外にも「ゆーすぽーと」には下記のようなたくさんの活動があり、子ども達は積極的・意欲的に取り組んでいる。そして、子ども達がこの日常の活動からたくさんのことを学び、成長できるように考え、大切なものとして位置付けている。「ゆーすぽーと」にはたくさんの来訪者があるが、買い物などちょっとした用足しでスタッフが不在の際にも丁寧に対応する姿が幾度となく報告されている。

残念ながら、今年度はコロナ対策のため制限されることが多かったが、習慣化している子ども達はスタッフが手薄になった隙をみて活躍してくれた。上級生から下級生へのスキルの伝承も少しずつだったが確実に行われていた。

- ・調理の手伝い
- ・配膳の手伝い
- ・毎日の食後の片付けや食器洗い
- ・活動後の学習室やトイレの清掃
- ・買い物の手伝い
- ・布巾やタオルの洗濯
- ・洗濯物の取り込みとたたみ
- ・雨戸の戸締り
- ・節目の大掃除
- ・庭の草取り
- ・草花や農業体験で植えたプランターの水やりや収穫
- ・調理の手伝い
- ・来訪者への対応

野菜洗い①



野菜洗い②



庭で夏野菜づくり



学習室の掃除



送迎車の清掃



調理の手伝い



玄関の掃除



12) 相談支援の状況

(1) 相談内容

- ・ 高校進学等進路に関すること
- ・ 経済的困窮に関すること
- ・ 学校生活のこと
- ・ 不登校のこと
- ・ 家族間の虐待に関すること
- ・ その他

(2) 相談方法

- ・ 対面での面談
- ・ 電話での相談
- ・ 送迎時のチャンス相談 3世帯は意識して必ず会話を心掛けている。
- ・ 相談などを意識していない低学年の子どもたちの会話の傾聴ときめ細かな行動観察を心掛けている。

(3) 相談数

保護者・・・12人 延べ30回以上
利用者・・・面談では15人 延べ40回以上

13) アウトリーチの状況

登録者で「ゆーすぽーと」の利用が長期に途絶えている子どもが複数いる。その上に学校も全欠状態の長期欠席になっている子どももいる。また、利用者の兄弟で引きこもり状態になっていて保護者が不安を抱き相談が寄せられている子どももいる。

すでに登録をして利用経験ある子どもには、電話やメールで連絡を取ったり、活動日や開始時間が記載されている「出欠表」や体験活動のお知らせと一緒に手紙を送ったりして参加を呼び掛けてきていた。また、SSWや訪問指導教員と連携して参加の呼びかけをしてもらったりもしてきた。

今年度はアウトリーチの試みとして、利用が途絶えがちな子どもを訪問して話して行くことを行ってみた。また、送迎の際にはできるだけ保護者と話すように心がけて愚痴を聴いたり、相談を受けたり、子どもへの対応方法を伝えることを行って来た。家族と話す機会が多くなって新たな情報が収集できたり、子どもの会話に出てくるがお会いしたことのない家族と出会うことができたり、利用者理解に役立った。

14) 送迎の状況

サービスを周知したこともあり、利用者数は格段に増えた。また、利用には自力通所が前提だったのが、送迎も可となったので利用者の範囲が広がって登録者数も増加することになった。特に生活保護を受けている家庭の利用がしやすくなった。

送迎対応はコーディネーターからの呼びかけ、利用保護者からの依頼で行った。迎えは自宅に迎えに行く事が基本だったが、仕事中の母親に配

慮して学校への迎えや学童への迎えも受け入れた。そのため、学校や学童保育と連携して全面協力してもらった。送りは全て自宅への送り届けて保護者と面会して引き渡した。

月	迎 え		送 り		活動 日数
	延べ 利用数	延べ 利用家庭数	延べ利用数	延べ 家庭利用数	
6月	12人	6	14人	7	8日
7月	19人	11	20人	12	13日
8月	30人	19	28人	18	16日
9月	26人	18	32人	18	16日
10月	40人	26	43人	31	16日
11月	35人	24	29人	18	16日
12月	38人	29	40人	30	15日
1月	37人	25	42人	27	15日
2月	42人	27	45人	25	16日
3月	63人	40	73人	43	16日
合計	342人	225	366人	229	147日

※4・5月の緊急事態宣言時は小学生の利用を停止したため、サービスはなかった。

※小学生家庭10件、中学生家庭3件の利用があった。

※迎えの場所は、自宅、学校、公設学童など様々だったが、送りは、全て自宅だった。

※送迎とも依頼される家庭は4件で、送迎どちらかは、歩いてきたり親が迎えに来てくれたりした。

※一日の最大送迎数は、送迎6人、家庭9人だった。

2. サテライト拠点（キッズふくおか）の概略

1) 拠点の場所・名称

①通 称 「キッズふくおか」（東金市東中島 297）

②開設時間 平日…15:00～18:30（時々土曜や祝日に活動あり）
長期休業中…8:30～18:30

③開設日数 週4～5日

2) 支援体制

①コーディネーター

保育士と児童養護施設職員経験者など非常勤職員3人がシフト制をとり、一日1人以上の体制で支援。

②ボランティア

福祉関係者、主婦、芸術関係

3) 支援内容

<支援対象者概要>

3人の子どもと障がいのある親、要介護の祖母が同居する家庭で、生活保護世帯。3人の子どもが不登校。親戚はいるものの疎遠。

2019年度助成事業期間中に、親が亡くなり、3人の子どもと祖母の4人暮らしとなる。

(1) 相談支援

① 相談内容

- ・ 子どもの不登校解消及び学校生活に関する支援について
- ・ 子どもの自宅を中心とした生活の支援について
- ・ 祖父母の支援について
- ・ 金銭管理や支払いに関すること
- ・ 未成年後見人について

親の死後、法的な親権者が必要な為、未成年後見人を付ける諸手続きを他機関と連携しながら支援してきた(今年度、NPO 法人 3.11 こども文庫の監事である弁護士が未成年後見人に決まった)。

② 連携機関

- ・ 東金市(子ども支援課、社会福祉課)
- ・ 東金市教育委員会
- ・ 小学校
- ・ 上総児童相談所
- ・ 弁護士
- ・ 病院
- ・ 市内福祉施設及び介護事業所
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 中核地域生活支援センター
- ・ NPO 法人 3.11 こども文庫おひさま

③ 相談頻度

- ・ 平均して週に2~3回、主に保護者からの相談(ちょっとした日常生活の助言から、重要な相談への対処まで)。
- ・ 子ども達に対しては、相談してきたら丁寧に聴き取り、一緒に考え、生きる力を育てるよう心掛けている。その他普段の生活で、何気ない日常の発言や態度等の観察を心掛け、必要に応じて声掛けや支援を行っている。一緒に考え話し合い決める。家庭内の大事なことを伝える際は、場を設けてしっかり話し合っている。

(2) 居場所

① 基本コンセプト

◆ 安心して過ごせる安全な居場所づくり

- ・ここが安心、安全な場所だと感じてもらえるように、そばに居て関わり続け、信頼関係を築いてきた。
- ・子ども達が色々な大人から大事にされる経験を沢山して、自己肯定感を高めていけるような関わりを心掛けている。生きる力を育む場となるよう支援している。

◆ 地域の中の居場所づくり

- ・自分達が住む地域の住民（大人も子どもも）との交流を重視して活動している。通って来ている子ども達を地域で浮いた特別な存在にせず、孤立させないことが大事だとの思いから、交流の場を設けている。
- ・上記を踏まえ、おひさま文庫が立ち上げた放課後クラブとキッズふくおかが連携して、支援活動をしている。

② 居場所利用実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
日数	19日	20日	17日	19日	17日	17日	17日	12日
延べ人	56	43	42	40	42	48	46	26

12月	1月	2月	3月	合計
13日	12日	14日	19日	196日
28	30	32	39	472人

③ 地域交流プログラム

- ・コロナ禍の影響で体験活動はなし

(3) 食事提供

子ども達の健全な成長の為、決まった時間帯に栄養バランスのとれた食事を摂ることや、登校前に朝食を摂れる環境を整えている。生活リズムを整え、活気が生まれ、登校・遊び・学習への意欲を高めることに繋がると考えている。

① 提供食事数

- ・利用者は必ず食事を摂るので、利用数と同程度だが、学校給食がない

時や長期休業中は昼夜2食提供している。

- ・登校を促すため朝食支援も行っている。学校の日は利用数と同程度だが、長期休業中は起床のリズムが崩れ、自宅で簡単に済ませて来ることがあり、キッズふくおかで朝食を摂らないこともある。

②食事調理者

昼・夕食は、小規模多機能ホームふくおかの家のスタッフが調理。

朝食については、材料は自費購入してもらい、朝食作りはキッズふくおかスタッフがやっている。

(4)アウトリーチ

①子どもに対して

◆不登校支援

- ・段階的に登校を進め、昨年度から登校できるようになった。ひきこもり傾向の子ども以外、元気に登校している。
- ・コロナ休校明けから登校支援は学校が担当して、欠席も多くひきこもる傾向があったが、11月中旬から休みなく登校するようになった。

◆自宅ひきこもりの訪問支援

- ・感染症対策で学校が臨時休業になった際、子どもの1人が家から外出しなくなった。無理にキッズふくおかへ来所させず、週2～3日コーディネーターが家庭訪問を行って、会話や散歩を一緒にする中で、食事や睡眠等の体調に関わる情報を得るよう心掛けた。
- ・ひきこもり傾向のある児童の訪問支援。自分から入浴をしないため、入浴の促しを行い、支援の日には毎回入浴している。

②家庭に対して

◆祖母に対して

- ・家族や日常生活の困りごと等、様々な相談を受け止める。
- ・話し相手、様々なトラブル対応、探し物を見つける等、電話で対応したり、必要があったら家庭訪問をして支援。

(5)送迎支援

①送迎実施状況

- ・年度途中から保護者が一緒に帰れなくなった為、朝晩の暗い時間帯は送迎を行っている（冬の間は毎日）。
- ・「ゆーすぽーと」での、学習支援や社会体験活動に参加する時は、距

離的に自力では行けない為、送迎を行っている。

(6) 一時保護

児童養護施設のような自宅(生活の場)や関係性から完全に切り離す保護ではなく、良い関係性は維持継続しつつ、自宅での生活サイクルも維持した形での保護に心がけてきた。

しかし、支援を行う中では、危うさを感じる場面も多々あり、家で過ごすことが難しい時には、おひさま文庫の「一時避難場所の提供」支援を活用し、時々ではあるが宿泊を含めた避難をしている。

4) 今後のサポートについて

親の死後、子ども達の自宅での生活は増々不安定となったが、未成年後見人が決まり、地域の様々な関係機関が協力して、子ども達のよりよい生活を支え見守ってきた。地域で生活を続けたいという子ども達の強い思いと、その子ども達の思いと生活を支えてくれるNPO法人3.11こども文庫おひさま(以下、「おひさま文庫」という)というサポーターを得て、おひさま文庫を中心に様々な関係機関が協力して、子ども達の地域での生活を支えていく。

これからも子ども達に支援の手は不可欠で、多岐にわたる生活支援は、次年度に向けておひさま文庫に移行していくことになる。

Ⅱ 他市町村での支援の場づくり

1) 展開の経緯

本法人では早い段階から、「学び舎・ゆーすぽーと」の機能を、より多くの支援を必要としている子ども達や家庭に届けたいとの思いを有していた。その思いと、昨年度の報告書で挙げた課題中の①中学生の学習時間の確保、②子どもの固定化と新規利用者のためらい、③活動の広域化の3点の課題解消を目指し、模索する中で始まった。

課題の①は部活動と学習の両立を実現させてあげるために開催時間を遅らせる。②は生活と学習を切り離して、入り込みやすくする。③は、サービスを広域化したい思いと、現状、東金市の中で手詰まりになっている状況を打開することだった。

一昨年度、「学び舎・ゆーすぽーと」を紹介する講演の場をいただいて、お話しさせていただいたところ、反響があって、「学び舎・ゆーすぽーと」の誘致の話をしていただいた。運営費などの制限もあり、すべての機能を広げることは不可能だったので「学習支援」の部分だけを切り取って、その依頼に応じることにした。誘致の話をしてくださった自治体関係者が会場設定など全面的に協力してくださって実現した。

もう一件は、ゆーすぽーとのボランティア活動を通しての展開だった。

離れた地域からのボランティアだったので、自分たちも地元で何かできないかと思案されていたので、試みに一緒やってみることで始まった。

2) 名称

無料塾「+すいっち」

3) 実施自治体と場所・開始時期

市名	場所	開設時期
東金市	学び舎・ゆーすぽーと	7月29日～
大網白里市	大網白里市福祉会館研修室	8月3日～
千葉市	レンタルカフェ KKduo	9月7日～

4) 実施内容

	東金教室	大網教室	千葉教室
対象者	生活保護・準要保護家庭、及びそれに準ずる家庭の中学生。翌春に受験を控える3年生を優先し、定員に余裕がある場合は2年生、1年生も受け入れ		
募集方法	学校を通してチラシの配布		生活困窮者自立支援の相談窓口や市のHPで紹介
開催曜日	水曜日	月曜日	月曜日 (祝日も)
時間	平日：18:30～20:30 祝日：13:30～15:30		通年： 18:30～20:30
定員の目安	10人 (Max 15人)		3人 (Max 5人)
スタッフ数	3人～4人		2人
軽食提供	ゆーすぽーとで調理	市中央公民館調理室でボランティアが調理、市内パン屋さんの協力も	会場がカフェなのでスタッフがそこで調理

5) 実施回数及び人数

	東金教室	大網教室	千葉教室
後援	東金市 東金市教育委員会	大網白里市 大網白里市教育委員会	千葉市 千葉市教育委員会
登録者	12人 中3は9人、 他は中2	13人 全員が中3	2人 中2
実施回数	28回	29回	24回
延べ参加者	168人	269人	32人
平均参加者	6人	9人	1人
軽食提供	28回	26回	24回
ボランティア延べ数	0人	7人	およそ30人

※東金教室・大網教室は、定数に余裕があり、通える利用者には2重登録を認めていて、東金教室に大網教室から4人通っていた。

<学習風景>

東金会場



千葉会場



大網会場



6) 利用生徒の進路結果

東金教室（全員が「ゆーすぽーと」利用者のため再掲）

	進 学 校	受 験 校		
		公立高校	私立高校	
			前期入試	後期入試
A 女	千葉県立 O 高校	◎	-	-
B 女	千葉県立 T 高校	◎	○	—
C 女	私立 B 高校	-	専願 ◎	-
D 女	千葉県立 M 高校	◎	-	—
E 女	千葉県立 K 高校	◎	—	—
F 男	私立 H 高校	—	専願 ◎	—

大網教室

	進 学 校	受 験 校		
		公立高校	私立高校	
			前期入試	後期入試
A 男	千葉県立 O 高校	◎	○	-
B 男	千葉県立 O 高校	◎	○	—
C 女	千葉県立 I 高校	◎	○	-
D 男	私立高校	—	専願 ◎	—
E 女	沖縄県立 K 高校	◎	—	—
F 男	千葉県立 O 高校	◎	—	—
G 男	千葉県立 O 高校	◎	○	—
H 男	千葉県立 T 高校	◎	—	—
I 男	千葉県立 O 高校	◎	○	
J 女	千葉県立 O 高校	◎	—	—
K 女	千葉県立 O 高校	◎	○	—
L 女	千葉県立 K 高校	◎	○	—
M 女	私立高校	△	◎	—

◎は合格及び決定進路 ○は合格 △不合格

「+すいっち」利用者 18 名（東金教室 5 名、大網教室 13 名）中、第一志望の高校合格が 17 名だった。1 名の不合格者も併願した私立高校に進学できた。千葉教室利用は、2 名の在籍者が中学 2 年生だったため受験対象者はいなかった。

Ⅲ 広報・啓発

本事業で実施した「学び舎・ゆーすぽーと」、「無料塾+すいっち（東金会場、大網会場、千葉会場）」のチラシを法人内で作成し、東金市、大網白里市、千葉市の市町村、教育委員会、学校等を通して子どもや保護者、関係機関への広報を行った。報告会や東金市社会福祉協議会等に協力をいただき、関係機関や地域住民の方々にボランティアの参加や寄付を募るための啓発を行った。

また、事業の中で関わった機関が、Facebook で本事業の広報・啓発を行っていただく等の協力や本事業が地域の方から野菜の寄付を頂いたことが日本農業新聞に載った。

Ⅳ 報告会

1) 中間報告会

開催日時：令和2年11月12日（木） 13：30～16：30

場 所：大網白里市保健文化センター

参加人数：25名

内 容：①基調講演

「子どもが夢と希望をもてる社会・地域づくりに向けて
～キッズドアの取り組みから～」

講師：東 操 氏 NPO 法人キッズドア教育支援事業部
チーフコーディネーター

②活動報告 ●学び舎・ゆーすぽーと
●無料塾「+すいっち」

③意見交換

2) “子どもの学習と生活支援”を考えるつどい（報告会）

開催日時：令和3年3月24日（水） 18：30～20：30

場 所：ZOOM 開催

参加人数：17名

内 容：第1部 子どもの学習・生活支援事業・活動の実際

「学び舎・ゆーすぽーと」「無料塾+すいっち」（東金市 他）
コーディネーター 藤田 実

いちほら生活相談サポートセンター（市原市）

センター長 大戸 優子

らいふあっぷ習志野（習志野市）

主任相談員 渡辺 伽奈

第2部 情報交換&意見交換会

V 報告書

本事業の報告書を 200 部作成し、東金市・東金市教育委員会、大網白里市・大網白里市教育委員会、千葉市・千葉市教育委員会等行政機関及び本事業に協力いただいた学校、登録ボランティア、寄付・寄贈者、介護・障がい福祉サービス事業所へ配布した。

VI 運営委員会

この事業をより効果的に実施するため、平成 29 年度より協力いただいている機関・団体を中心に運営委員会を組織し取り組んだ。

(メンバー)

No	所属・団体名	氏名
1	学び舎・ゆーすぽーと	藤田 実
2	学び舎・ゆーすぽーと	福島 邦英
3	学び舎・ゆーすぽーと・サテライトキッズふくおか	安井 瑞江
4	学び舎・ゆーすぽーと・サテライトキッズふくおか	鈴木 孝雄
5	小規模多機能ホームふくおかの家	村上 勝年
6	山武ボランティア協会	土肥 豊
7	東金市市民福祉部社会福祉課	吉井 理
8	東金市市民福祉部社会福祉課	土屋 良隆
9	東金市市民福祉部子育て支援課	林 喜美子
10	東金市市民福祉部子育て支援課	四之宮 幸太
11	東金市市民福祉部子育て支援課	内田 敏子
12	東金市教育委員会	古川 寛之
13	大網白里市 社会福祉課	高山 育男

14	東金市社会福祉協議会	北田 兼久
15	アグリライフ東金	伊藤 睦子
16	アグリライフ東金	土肥 恵子

[事務局（3名）]

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎 事務局長 太齋 寛
総合施設長 齊藤 操
総務企画課 川島 悠季

<第1回運営会議>

開催日時：令和2年6月17日 13:30～14:30

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：8名

- 議 題：a. 昨年度の事業報告について
b. 「学び舎・ゆーすぽーと」活動状況報告 ※4月～5月
・無料塾について
c. 「キッズふくおか」について
d. 今年度の計画について

<第2回運営会議>

開催日時：令和2年8月27日 13:30～14:30

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：10名

- 議 題：a. 「学び舎・ゆーすぽーと」の活動報告 ※6月～8月
b. 「キッズ・ふくおか」の活動報告 ※6月～8月
c. 「無料塾+すいっち」について

<第3回運営会議>

開催日時：令和2年11月19日 13:30～14:30

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：10名

- 議 題：a. 「学び舎・ゆーすぽーと」の活動報告 ※9月～10月
b. 「キッズ・ふくおか」の活動報告 ※9月～10月
c. 「無料塾+すいっち」について
d. 中間報告会について

<第4回運営会議>

開催日時：令和3年1月20日 13：30～14：30

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：11名

- 議 題：a. 「学び舎・ゆーすぽーと」の活動報告 ※11月～1月
b. 「キッズ・ふくおか」の活動報告 ※11月～1月
c. 「無料塾+すいっち」について
d. 令和2年度事業報告会について
e. 令和3年の事業について

第2章 事業評価

•

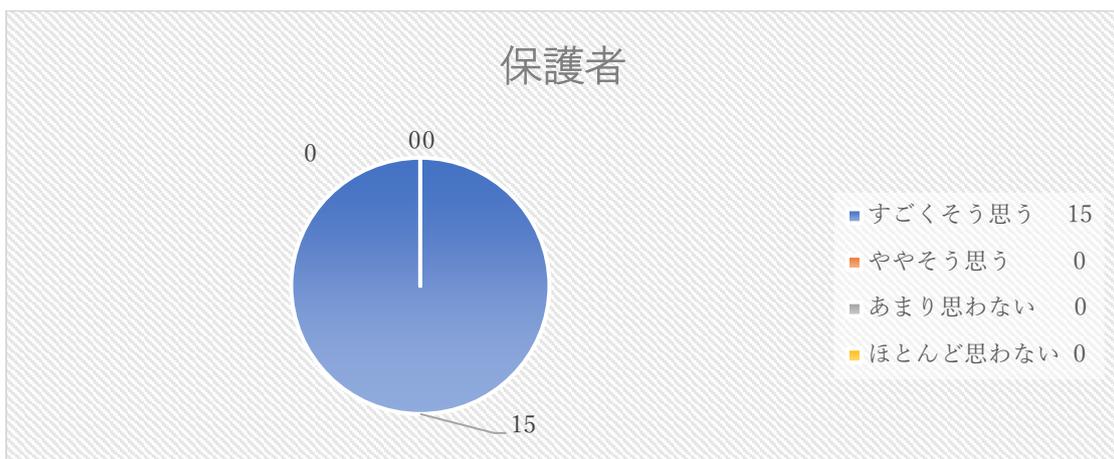
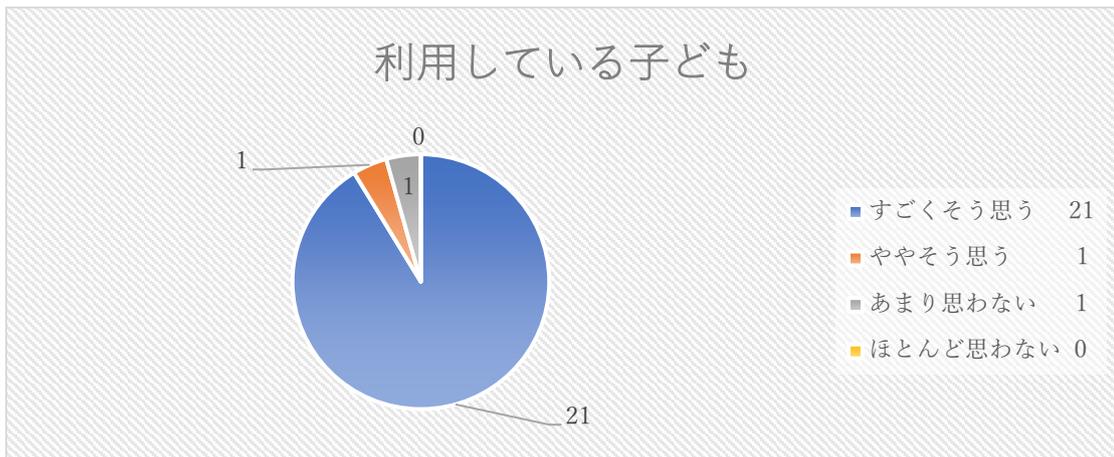
1. 子ども・保護者の評価

1) 根付いた「ゆーすぽーと」の必要性

「ゆーすぽーと」の存在意義について、今年度も、「ゆーすぽーと」に関わる全ての方々を対象に範囲を広げてアンケートを実施した。利用している子どもとその保護者に加えて、関係する機関および普段繋がりのある専門職の方々、ボランティアの皆さん及びスタッフである。コロナ対策や時間が足りなかったことで、郵送での実施だったこととボランティアの総数が減ったため、昨年よりやや回答が少なかった。

子どもとその保護者には、「ゆーすぽーとがあつてよかったか」の問で、その他は「存在の必要性」を問うた。言葉には多少の差があるが「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の意味の4択から選んでもらった。

「キッズふくおか」の子どもとその保護者、およびスタッフは含まれていない。



全ての対象者から存在の必要性を感じる回答が得られた。そして、多くの方々がその必要性を強く感じられていることが受け取れた。中でも、その存在の必要性を強く認めているのが保護者の方々で、全員が「とてもそう

思う」と回答している。

また、関係機関で、特に相談に関わる機関・職の方々が「受け皿」としての存在意義を強く認めてくれている。「ゆーすぽーと」があるので、相談を受けやすく、具体的な支援ができるので助かるという声が複数寄せられている。

利用している小学1年生が、「あまり思わない」と気になる選択をしていたが、入学後1か月ほどで不登校になっている子どもで、親の強い希望で利用したケースである。確かに学習には取り組めないし、他の子どもとコミュニケーションがとれず、ひとりで部屋を駆け回る状況が続いていたので理解はできる。しかし、来所と同時にメニューを確認し、食事を楽しみに行っている様子も見られ、お替わりも良くしてくれていたのもう少し高い評価をしているのではないかと思っていたが、学習面での遅れがストレスとなっているかもしれない。同学年が他に4人いるので意識していることも影響していると思われる。昨年度、やはり低い評価の小学1年生がいたが、今年度は高い評価をしてくれていたのもう少し気長に付き合っていきたい。

【利用している子どもの声】

- 中3 私にとってのゆーすぽーとは「心休まる場所」です。ドアを開けて挨拶したら、あたたかい空気が迎えてくれることや少しの悩みも聞いてくれる先生方や友達、勉強中に聞こえてくる小学生の元気な声が、荒んだ心を優しく丸くしていくように感じます。・・・人との関わりの大切さや、人のあたたかさを知りました。ゆーすぽーとに参加しなければ、知れなかったことだと思います。
- 中3 ゆーすぽーとは大切な場所でした。なぜかというと、いつ行っても暖かく迎え入れてくれる第二の自分の家のように思えるからです。・・・志望校に合格できたのもゆーすぽーとのおかげです。家で食べるごはんも好きですが、ゆーすぽーとのご飯も大好きでした。毎回栄養バランスを考えた料理を作ってくれて、すごくおいしかったです。・・・ゆーすぽーとに出会えて本当に良かったです。ゆーすぽーとの先生たちには感謝の気持ちがたくさんあります。私にとって、ここはとても大切な場所です。
- 中3 ゆーすぽーとは、とても心地が良い場所です。一人でする勉強より友達とする勉強、友達と笑いながら食べるご飯、小学生の笑い声に、私はとても安らぎを感じていました。受験の相談も真剣に聞いてもらえました。私の不安な気持ちを受け止め、前向きになれる言葉をくれる先生のおかげもあり、私はこの受験を良い結果で終えることができたのだと思います。
- 中2 ゆーすぽーとに入って約3年半くらい経ちましたが、入ったばかりの自分の学力と比べると急激に上がったように感じます。ゆーすぽーと

は勉強だけでなく、人とのコミュニケーションがとれるため。幅広い年代のお話を聞くことができ、いろいろな人の考え方を理解できる場だと思います。・・・ゆーすぽーとに長い間通い続けたことで、学習習慣が身に付き、家で勉強するようになりました。ゆーすぽーとの方々が作る料理は、栄養バランスがよくとても美味しいです。食事をとるときでもみんなと話ができ良い経験になります。

- 小 4 ゆーすぽーとは私にとって家以外で勉強や友達と話ができる楽しい場所です。これからも、できるだけ休まず通ってたくさんの思い出をつくりたいです。
- 中 2 勉強が終わった後には、手作りの美味しい夕食があります。夕食の後の片付けは、協力して洗い物などを分担して行っています。将来自分が自立できるような環境にもなっていて感謝しています。
- 小 5 ここでは、宿題をやったり、勉強したり、お手伝いをしたり、その他にもいろいろなことができとても楽しいです。
- 小 2 ゆーすぽーとはとても楽しいところです。なぜかという、べんきょうもできるし、みんなであそべるからとても楽しいです。

【保護者の声】

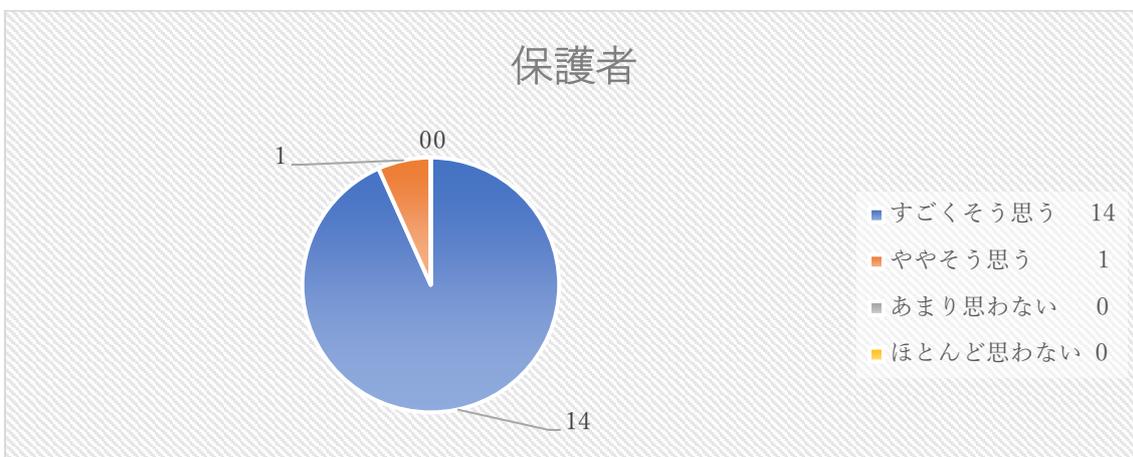
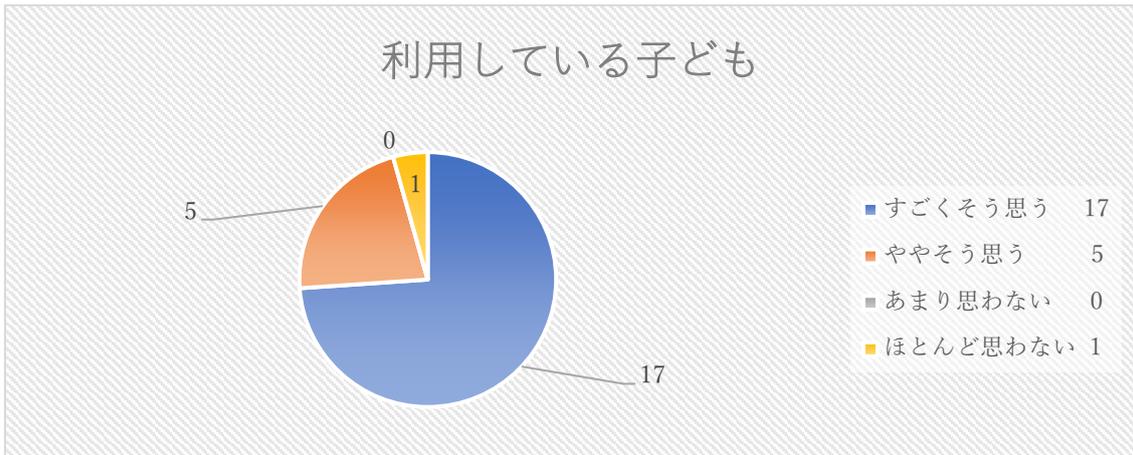
- 小 3 「今日はゆーすぽーとだ！夕飯なんだろう？」と利用日は朝からワクワクしています。ママー、今日はゆーすぽーとでねー。〇〇ちゃんが～、〇〇先生が～と、学校よりゆーすぽーとでの話をたくさんしてくれます。子ども達だけでなく、私のことまで気にかけていただき感謝しかありません。私の拠り所にもなっています。先生方の顔をみると安心します。夕飯や送迎までしていただき、いつも申し訳ありません。利用料集金してもいいと思います。
- 中 2 私事ですが、身内が近くにいない者にとっては、子どもの逃げ場所、相談に乗ってもらえる所があるのが、親にとってはとてもありがたく思っています。また1年、お手数をおかけしますが、よろしく願いいたします。
- 中 3 妹や弟がたくさんいるので、家庭内で居場所がやはりない状況です。一緒に暮らしていても家族はバラバラです。そんな中、ゆーすぽーとに通い始めて良くなってきたのですが、家庭内に入ると元に戻ってしまいます。しかし、将来の夢に向かって一步一步がんばっています。色々な苦しみがありました。変わって来てくれて、良かったと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

- 小1 ゆーすぽーとに行けば友達がいるし、好きな先生に会えるのが楽しみで、行くのを楽しみにしています。ゆーすぽーとでみんなで食べる食事もおいしくたのしくてしかたがないようです。通わせてとても良かったです。いろんな行事もたのしみになっているようです。ゆーすぽーとから帰ってくると明るく元気です。これからもよろしく願いいたします。
- 中2 経済的に余裕がなく、子どもに接してあげられる時間も少ない家庭なので、ゆーすぽーとの存在は、とてもありがたいです。子どもも孤独になることもなく、社会性も身に付きました。また、学校の勉強にも遅れることなく、積極的に自習するようにもなりました。ありがとうございます。
- 小4 祝日に私が仕事で、子どもたちだけで留守番になってしまう時や社会体験活動日を中心に利用させていただきました。子ども達だけの留守番だと終日家にこもりきりになり、ゲームの時間が多くなってしまうので、半日でもゆーすぽーとで親以外の大人や友達と過ごす機会をいただき、とても有難かったです。食事を提供していただける点も、朝にバタバタと昼食づくりをしない日があると思うと、気持ちに余裕が持てました。
- 小2 季節ごとに行うイベントに参加するのを本人はとても楽しんでいました。家庭ではなかなか体験させてあげられない事も先生方のおかげで、充実した日々が送れています。ゆーすぽーとに来ているお友達や先生方に会えるのが楽しみで、勉強なども自宅とは違って集中して取り組める大切な場所になっています。コロナ禍ではありますが、子供達が笑顔で集えるゆーすぽーとが、今後も継続していただけると幸いです。

2) 居場所も定着

子どもと保護者に、「ゆーすぽーと」が居場所の機能を果たしているか次の質問をした。子どもには、「楽しく安心して楽しく過ごせる場だったか」と問い、保護者には、利用した後のお子さんの様子から推し量っていただいて、「お子さんにとって楽しく安心して過ごせる場だったと思うか」と問うた。「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の4択から回答してもらった。

ボランティアとスタッフにも、「ゆーすぽーとが子どもの居場所になっていると思われませんか」と設問し、子どもや保護者と同様4択から選択してもらった。併せて、「あなた自身はゆーすぽーとに居場所を感じるか」と問うてみた。やはり、4択から回答してもらった。



「ゆーすぽーと」は楽しく安心して過ごせる場所になっているかの問いに、子どもの95パーセントの子たちが「そう思う」を選択している。

中学生や長期継続利用の子どもは「とてもそう思う」の高いプラスの評価が多いが、小学生、特に低学年の子どもは「ややそう思う」を選択する子どもが多かったし、マイナス評価の子もいた。2)で「あまりそう思わない」と回答した子どもが、さらに低く「ほとんど思わない」を選択していた。アンケート以降、少し他の子どもとも接点が増え、名前を呼びあう関係になってきているので、次年度に期待したいと思っている。

ボランティアとスタッフは、全員が居場所になっていると評価している。子どもの思いと少しギャップがあるが、子どもの笑顔と飛び交う笑い声の要素が評価を押し上げていると思われる。ボランティア参加者や訪問者のどなたもが口をそろえて「子どもたちが明るいですね」言ってくれている。

境遇から想像できないほど、「ゆーすぽーと」で過ごす子ども達の表情や言動が明るい。学校や家庭で生きづらさを感じている子ども達が、ここにいる間は笑顔を絶やさない。同じような境遇にあると理解し合っている子ども達は、飾らず、開けっ広げに会話を楽しんでいる。

保護者の方々にも子どもの思いが伝わり、安心されて肯定的に評価されているものと思われる。

【利用している子どもの声】

小5 もう一つの楽しみは、色々な学校の人達と話ができる事です。小学1年生から中学3年生まで、年齢の離れた人達から楽しい話や面白い話が聞くことができます。

中3 私にとってのゆーすぽーとは「心休まる場所」です。ドアを開けて挨拶したら、あたたかい空気が迎えてくれることや少しの悩みも聞いてくれる先生方や友達、勉強中に聞こえてくる小学生の元気な声が、荒んだ心を優しく丸くしていくように感じます。・・・人との関わりの大切さや、人のあたたかさを知りました。ゆーすぽーとに参加しなければ、知れなかったことだと思います。

中3 ゆーすぽーとは、とても心地が良い場所です。一人でする勉強より友達とする勉強、友達と笑いながら食べるご飯、小学生の笑い声に、私はとても安らぎを感じていました。受験の相談も真剣に聞いてもらえました。私の不安な気持ちを受け止め、前向きになれる言葉をくれました。

小4 ゆーすぽーとにかよっていたおかげで、お友だちがたくさんできました。

3) 学習習慣の定着と学力向上

子どもとその保護者を対象に、「ゆーすぽーと」の学習支援の成果が出ているか、二つの質問をした。①「学習習慣が身についたか」と②「学習成績が向上したか」の二つの設問で、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の4択から回答してもらった。ボランティアとスタッフには「学習習慣が身についていると思われるか」の設問をした。回答は利用者と同じ、4択から選んでもらった。

- ①学習習慣が身についたか
- ②学習成績が向上したか



グラフから読み取れるように、比較的利用期間の短い子どもが多かったことと、子どもは自身に厳しく「学習習慣が身についたか」と「成績が上がったか」の設問についていずれも、「そう思う」と回答したのは80パーセント前後だった。それでも、昨年度よりは10ポイントほど上がっている。保護者は学習習慣については高い評価をしているが、期待値が高い学習成績についてはやや低めに評価している。

しかし、客観的に見ているボランティアやスタッフは、歩みは小さいが確実に子どもが学習習慣を身に付けてきていることを実感している。家庭や学校でなかなか認められて褒められる機会が少ないと思われる子ども達にしっかり寄り添い、具体的な行動や成果をしっかり褒めて、自信を育む配慮が必要と感じる。

中には、学習習慣がしっかり定着し、学校で高い評価を得て自信を募らせ、強い動機付けを得ている子どもがいて、学期末ごとに高評価の通知表を持って来て見せてくれている。2年生学年末の「オール5」の通知表には、スタッフ一同が驚き・感動した。

この子の「ゆーすぽーと」での過ごし方が、他の利用者に良い影響をもたらしてくれている。

【利用している子どもの声】

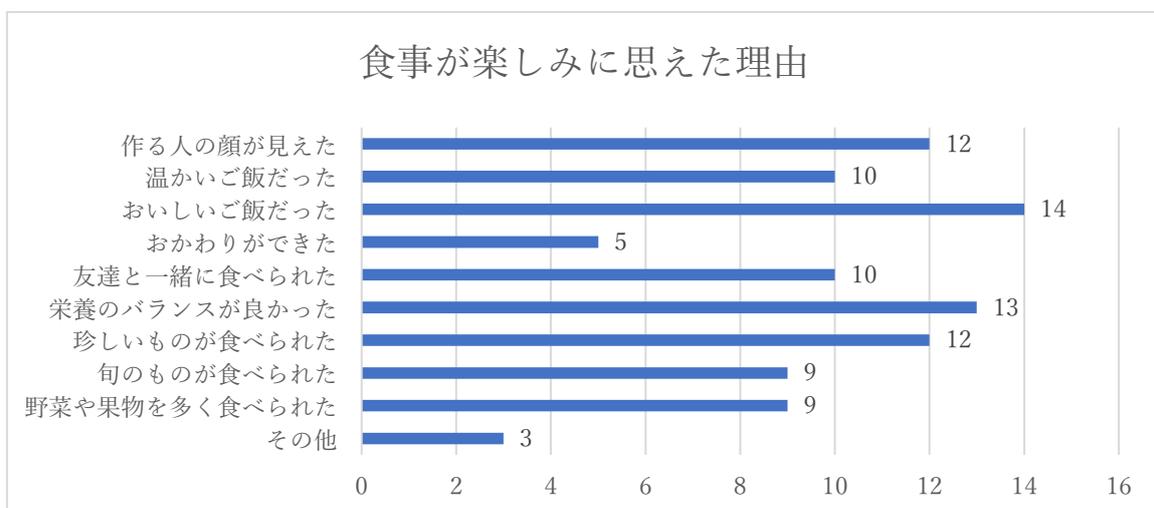
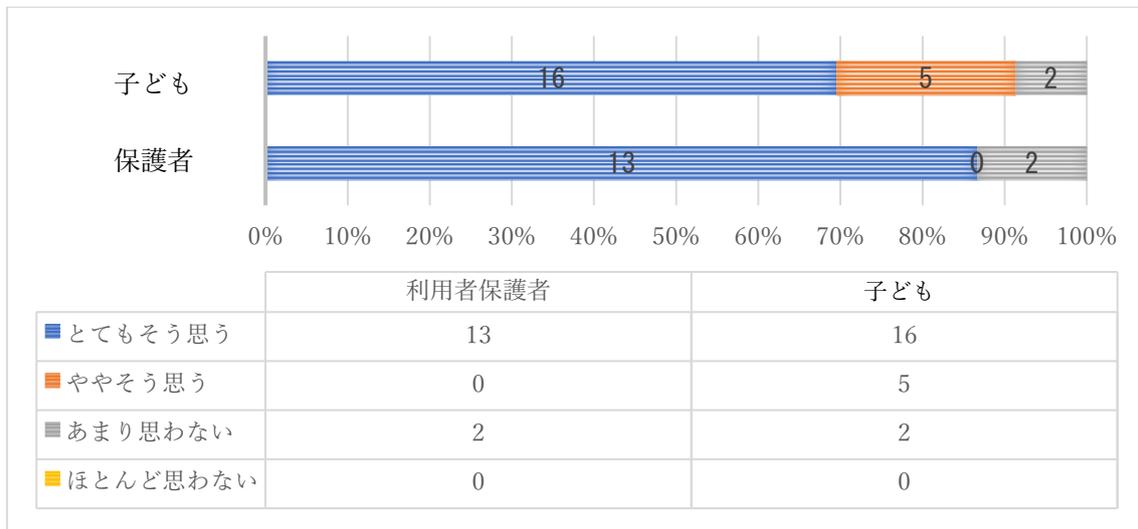
- 中2 ゆーすぽーとに入ってから約3年半くらい経ちましたが、入ったばかりの自分の学力と比べると急激に上がったように感じます。
- 中2 ゆーすぽーとには、数学・英語・漢字などのプリントがあり、自由にとってやっていいという、自分にとってものすごく勉強するのに良い環境だと思っています。学校でのプリントで出た問題がいくつも入っており、テストの点数もかなり上がって来ていて嬉しいと感じています。
- 小4 私はゆーすぽーとがある日は、ほとんど休まず出席しています。ゆーすぽーとでは、ドリルを中心に学習しています。分からない所は先生方に教わりながら進めています。私は、算数は得意ですが、漢字は覚えるのが苦手で、すらすら書けないので、これからは漢字練習に力を入れてがんばります。
- 小5 ゆーすぽーとは自分のペースで勉強できる場所です。学校だと、全体のペースについていけなくて、ちゃんと理解できなかったりするけど、ゆーすぽーとなら分からないところがあったら、気軽に先生に聞くことができ、とても分かりやすく教えてくださるので、確実に頭の中に入れることができます。……家では誰にも見られていないので、ついスマホをいじったりします。ゆーすぽーとなら友達同士で教えあうことも出来ます。ゆーすぽーとは私の大切な学び場です。

小4 ゆーすぽーとは、わたしにはとても大切な場所です。なぜなら、ゆーすぽーとがなければ、わたしは勉強ができないままでした。ゆーすぽーとは、国語・算数・社会の勉強をおしえてくれて、そのおかげで勉強が大すきになりました。

小3 ベンキョウがうまくできるようになって、ベンキョウがすきになりました。先生はベンキョウがわからなかったりすると、おしえてくれます。

4) 食事提供が居場所の有効なツール

利用している子どもには、「ゆーすぽーと」が提供する食事に対して「毎日楽しみだったか」と質問し、その保護者には「楽しみしている様子だったか」と質問をした。それぞれ、「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「ほとんど思わない」の4択から回答してもらった。また、子どもには「食事が楽しく思えた理由」も質問した。



前年度の1月頃までは、支援者に寄贈していただいた昔懐かしい卓袱台を囲み、「いただきます」と大きな声を揃え、会話を楽しみ、「ごちそうさまでした」と心より感謝する子ども達の食事風景だった。今年度は一変して、アクリル板で遮断されたブースの中での個食で、会話もなく、感謝の声も小さく心の中でつぶやくのだった。それでも、子どもは食事を楽しみにして参加し、喜んで食べてくれた。「ゆーすぽーとがあつてよかったか」の設問に、「ほとんど思わない」と回答した小学1年生は、この設問だけ「すごくそう思う」に回答し、その理由に「おいしいご飯が食べられたから」を上げていた。まずは、食事目当てで通い続けてくれることからとの気持ちで、長いスパンで関係を築いていきたい。

「ほとんど思わない」と回答した子どもは、普段の食事時の様子から予想がつきそうな小学1年生と2年生だった。それぞれ、理由に、「おなかがあんまりすいていないから」と「しずかで、たのしくなかった」を上げていた。偏食傾向があり、日常的に食事量の少ない2人である。

子ども達から聞き及んでいる食事風景を想像されて、保護者の多くは「すごくそう思う」と評価してくれている。しかし、保護者の中にもお二人の方が「ほとんど思わない」を選択されていた。ひとは、上記の2人の回答者の一人であり、スタッフと共通の悩みを共有している子どもである。一人は予想外の回答者だった。子どもは、食事の時間がギリギリでも駆け込みで参加しておいしそうに食べてくれている。回答には、「すごくそう思う」を選択している。保護者が「ほとんど思わない」と回答した理由として、「食べてきたものを聞いても、おでん、チャーハンなどは言いますが、いつも『何の料理かわからない』と言うので」と記述している。反抗期の真ただ中であまりコミュニケーションがとれていない様子である。本人はおかわりもしている所以对しては心配していない。

子ども達の日常的な会話から、カップ麺などのインスタント食が多い食事、野菜や果物がほとんどない食事風景が浮かび上がってくる。そうした習慣の中でできた偏食や好き嫌いの多さが目立ち、汁物を好まず、野菜はほとんど受け付けられない子どもがいる。

そんな子どもに、野菜が大切なことを伝えて励まし食べるように勧めていることが苦痛になって、上述のマイナス評価となっているようだが、長い付き合いの中で少しずつ改善することを願っている。

子どもが「食事を楽しみに思えた理由」の最上位にあげているのが、「おいしいご飯だった」、「栄養バランスが良い」の選択肢だった。このことから、子どもが家庭で普段食べている食事を想像できるような気がする。そして、食事提供の必要性を痛感する。昨年度2番目に多く、15人が選択した「友達と一緒に食べられた」が、今年度は10人に減少した。これも、コロナ禍の影響だったと推察する。

「作る人の顔が見えた」も多く選択されているが、お腹を空かして通所してきた子どもは、挨拶を兼ねて、台所に直行してくる。メニューとだれが作ってくれるのかを確認してから所定の席を確保するのが日常の行動になっている。しかし、今年度は、調理中の子ども達の入室を禁止しているので、ボランティアとの接触が少しそがれてしまっている。また、調理ボランティ

アの多くがご飯を作り終えた後に、子ども達と一緒に食事をしてくれていたのができなくなり寂しいものがある。

「珍しいものや・旬のものが食べられる」も多数選択されているが、ありがたいことに、多くの支援者が寄せて下さっている。一般家庭より、早く季節を先取りした食事をいただいているかもしれない。旬のものや珍しいものを提供する際には、その食材に関する情報を積極的に話しかけるようになってきた。しかし、食べることに夢中で、話を聞いていないように見えていたが、実際はしっかり耳を傾けていてくれたようだ。大人同士の食材などに関する会話をよく聞いていることも物語っている。

【利用している子どもの声】

- 小4 ゆーすぽーとで食べるご飯は美味しいです。いろんな人たちが作ってくれるごはんをみんなと一緒に食べるのが一番楽しいです。
- 高1 ご飯をみんなと話しながら食べるのが私の中では一番楽しみです。美味しいし、みんなとワイワイして食べる機会がないから～。
- 中2 ゆーすぽーとで出るご飯はとても美味しくて、ゆーすぽーとに来るのが楽しみです。
- 中1 ゆーすぽーとのご飯はとても美味しいです。特に美味しいメニューがあって、その時はみんながたくさんおかわりをしています。
- 小6 ご飯が美味しかった。お腹いっぱい食べちゃった。
- 中1 旬のものが食べられるのでうれしいです。

5) コロナ禍でも工夫して子ども達が喜ぶ社会体験活動を実施

「ゆーすぽーと」を利用している子ども達は学力が低い子が多い。子ども達との日常会話や生い立ちをたどるとどの子どもも厳しい家庭環境で育って来ていて、テストで測れる学力である「認知的能力」を育まれていない。利用開始時の観察から、学力を育む背景として有用な自尊心や忍耐力などの「非認知的能力」も低いことがうかがえる。貧困などの厳しい家庭環境ゆえに、一般家庭では当たり前の多くの「経験」が欠落していることも大きな理由だろう。

そこで、「ゆーすぽーと」では可能な限りたくさんの社会体験活動を実施したいと考えており、例年たくさんの体験活動を仕組んできた。近年では賛同するボランティアや関係機関の方々からも様々な体験活動が提案されるようになってきていた。

しかし、今年度は状況が大きく変化して、活動を大きく制限されてしまった。子ども達が楽しみにしていることがよく分かっているのに、企画したい思いは強かったが、「緊急事態宣言」まで発動されるコロナの感染拡大の状況で、活動の継続さえ危ぶまれて、4月～7月までは全く計画できなかった。

3密やソーシャルディスタンス等の予防対策が施されるようになった8月頃から、活動の必須事項と考えている食事提供を再開した。その後も多くは、食に関する体験に終始してしまったので今年度はアンケートから省いたが、低学年の作文のテーマは体験活動に関する事だった。利用している子どもへのアンケートが、3月25日に体験した「ボルダリング」より以前だったため触れられていないが、体験後であったら全員がそのことに触れていたことが予想できる。時間を忘れ嬉々として壁に這いつくばっていた。こうした場面が多く提供できる日々が来ることが待ち望まれる。

【利用している子どもの声】

小3 おもちつきをしたり、メダカすくいをしたりいろいろな思い出がありました。

小5 畑に行つての芋掘りや公園でのサッカーなどとても良い思い出です。これからもたくさんの行事が出来る事を楽しみにしています。

小4 一ばんすきな行事は、いろいろなおいしいごはんが食べられたことです。

小1 ぼくがうれしかったことは、おもちをたべたことです。いろんなしゅるいがありました。なつとうをかけてたべたもちがおいしかったです。

小1 ぼくがたのしかったのはみそづくりです。みそをつくったときはたべたしています。みそができたらすぐたべたいです。

小1 べんきょうのほかによつたおいもほりやこうえんにいつてのボールけりやおにごっこが、とてもたのしかったです。

小1 わたしがたのしかったことは、おもちをまるめてつくつたことです。だいこんやいもをがんばつてあつたこともとてもたのしかったです。

6) 日常活動の時間は減少したが伝統は確実に伝承

「ゆーすぽーと」の売りだつたちゃぶ台を囲んでのにぎやかな食事風景は、密回避のために小学生と中学生以上の子どもとに分けて、しかも学習機を利用した分散した静かな光景に変化した。そのため食事の時間が長引いてしまい、追い立てるように帰宅させているような状況で、「ゆーすぽーと」で大切にしていた子ども達自らの片付けや掃除の時間が確保できなくなつてしまつている。

想像するには、ここを利用している子ども達の多くは、調理の手伝いや後片付け、洗濯、掃除機かけなどの家事をおそらく家ではやつていないことも想像でき、やる場面もない子どもが多いと思われる。「ゆーすぽーと」では

当番や分担を決めているわけではないが、子ども達はそれらに進んで取り組み、みんなで協力して行っている。時にはやりたいことが重なってもめていることもある。感染症対策のため今はやらせていないが、不思議なことにトイレ清掃が奪い合いだったが、譲る子がいて無事収まっていた。

子ども達の中には、家庭環境のためやむなく家事を義務付けられている子どももいて家事に手馴れた子どももいる。そんな子どものやり方を真似て頑張り、すっかり手馴れてきている子どもも多い。子ども達同士のそうした生活の知恵の伝達に力強さを感じるし、「ゆーすぽーと」の伝統になってきていることに喜びを感じる。

宿泊こそしないが合宿のような濃い共同生活を通して、「ゆーすぽーと」の日常の中から子ども達は多くの学びを得て、逞しく成長して、自立の一步を踏み出しているように感じる。

追い立てて帰しているが、中学生や小学校高学年の中には、時間ギリギリまで進んで洗い物や掃除などを行ってくれている。再掲になるが、スタッフの心を読んだような文を綴ってくれている子どもがいた。利用し始めて日の浅い、男子である。

中2 夕食の後の片づけは、協力して洗い物などを分担して行っている。
将来自分が自立出来るような環境にもなっていて感謝しています。

7) 相談活動の定着

アンケートはとらなかったが、今年度も多くの相談活動を実施してきた。今年度の子どもの特徴として小学校低学年が多かったため、子どもの相談はほぼ横ばい状況だった。また、中学生の相談のほとんどは進路の相談だった。利用開始が受験間近の子どももいたことから、積み上げた相談ができなかった。

保護者との相談活動は増加したが、愚痴を受け止めるような聞き役に徹することが多かった。それでも、少しは気を紛らわしてくれて前に向かう力になってくれていれば幸いである。

8) 保護者支援の充実

「ゆーすぽーと」利用家庭の7割以上が母子・父子世帯である。その内の1世帯が母親の病気等で生活保護を受給しているが、多くの割合で準要保護の適用を受けながら母親が懸命に働いている。コロナ禍で離婚して6歳と2歳の子を育てている父子家庭のケースもあった。その家庭のほとんどの人が非正規での就労で、低賃金や不安定な身分に置かれているため、ダブルワークや急な残業への対応などで疲弊したり苦慮したりしている。

そうした事情に配慮して、一昨年度から個別ケースで始めた活動時間外の預かりを事前に周知して積極的に預かるようにした。転職で勤務先が遠くなった母親も気兼ねなく預かれるようになってほっとしている様子だった。

送迎サービスも周知して行うようにしたところ、依頼が増え、その送迎先も多様化していった。重い病気になり患っていて通院治療することが多い母親が、診察の都合や車の渋滞で学校への迎えが遅れそうになった時は、SOS

を発信し学校への迎えを依頼してきている。助かったと喜びの声を届けてくれる。

送迎していると、保護者の疲れ切った様子も目撃することが多い。母親の車はあるのに部屋は真っ暗な状況で、子ども達と不審な面持ちで扉を開けると、テーブルに突っ伏している母親の姿があった。気づいて、「ありがとうございます。疲れちゃって、ご飯を作る気にもなれず寝てしまいました」という。奥では暗い部屋でお菓子を食べながらテレビをみるちびっ子の姿があった。次回送りの際に届けた弁当への素直なリアクションが喜びと感謝の大きさを物語っていたような気がした。繰り返すことになったが、母親の元気も増し、精神的にも安定してきたように思える。

前述の父子家庭への週2回の弁当提供も続けている。利用している子はいつも残しているが、父親と保育園に通う妹は喜んで食べてくれている様子。育児と家事と仕事に追われ疲れ切っていた父親にも笑顔が戻ってきている。仕事が早く終わった日は迎えが早く、子どもと一緒に食事をするこももあった。

また別の家庭へは、日常的に弁当による食事支援を行っている。がんを患って通院生活を送っていたが、さらに転倒骨折して車いす生活になってしまい、家事がままならなくなって相談を受けたことが始まりで続いている。

9) 送迎の充実

昨年度後半より始めた送迎サービスは、今年度大幅に依頼が増えた。その理由は、①小学校低学年の子どもの利用が増えたこと、②生活保護家庭の不登校児童への対応、③コロナ禍での保護者の生活の変化などがある。

今年度は小学1年生が5人、2年生が3人、3年生が1人利用した。内保護家庭が2家庭あったため需要が増した。

また、年度途中SSWと訪問相談教員がつなげた不登校の子どもが「ゆーすぽーと」の活動日の全日利用が決まり回数が増えた。生活保護家庭の3人の子どもが不登校になっていたが、内、小学生2人が「ゆーすぽーと」の利用を承諾したが、離れた地域の学区だったため、送迎が必要だった。そして、送迎があったからこそ、2人は皆勤状態で利用している。兄はほぼ学年の学習内容を履修して、自信を取り戻しつつある。また、教委・学校と協議の上、2人の「ゆーすぽーと」利用日は出席扱いになっている。そのことも2人の、特に5年生の子どもには励みになっているように思われる。

コロナ禍で転職を迫られ、その職場の勤務時間もまばらになり送迎を必要とする家庭もできた。

送迎過程での副産物もある。①送迎時間が子どもの相談の時間になっている。運転するコーディネーターと子どもが2人きりになる周りに誰もいないシチュエーションが子どもの心を開くのか、家族の事、学校でのことなど色々悩みを吐き出してくれたり、素直な感情を見せたりしてくれている。②家庭の情報が得られる。兄弟姉妹で利用する家庭が4家庭あるが、車中でのそれぞれ二人の会話の中に新しい情報がたくさん得られている。③保護者へのアウトリーチ的な役割になっている。保護者に会えたら、必ず会話を交わすことを心がけている。ゆーすぽーとでの相談では、子どもや他の保護者の

目や耳が気になり話せないことも遠慮なく相談できる利点があり、突っ込んだ内容の話も聞けるようになってきている。

10) 保護者の望む「ゆーすぽーと」の機能

	とても	まあまあ	あまり	ほとんど
① 子どもの居場所	15	0	0	0
② 学習習慣の定着	10	5	0	0
③ 学力向上支援	8	7	0	0
④ 宿題支援	10	5	0	0
⑤ 高校進学支援	11	4	0	0
⑥ 人間関係力の向上支援	13	2	0	0
⑦ 食事の提供	10	4	1	0
⑧ 体験活動の提供	14	1	0	0
⑨ 子どもへの相談	15	0	0	0
⑩ 保護者への相談	10	4	1	0
⑪ 礼儀・しつけの定着支援	12	3	0	0
⑫ 生活力向上	15	0	0	0
⑬ 時間外の預かり	7	4	3	1
⑭ 送迎支援	7	3	2	2
⑮ その他	0	0	0	0

とても . . . とても必要
 まあまあ . . . まあまあ必要
 あまり . . . あまり必要ない
 ほとんど . . . ほとんど必要ない
 生活力 . . . 食事作り・清掃・片付けなど

保護者の皆さんの多様なニーズがうかがえる。ある人にとっては、とても重要なことが、ある人は全く求めていないこともある。⑬、⑭の必要ないと回答しておられる方は全て中学生の保護者である。立場が違くとニーズが違ってくるので、難しいところがあるが、できるだけ個々のニーズに沿った支援を心がける必要がある。食事の提供に関しては申込時に希望を聞いて提供しているのだが、必要ないと回答されておられる方がいた。理由を伺って対応していきたい。

2. 関係機関・ボランティアの評価

1) 「ゆーすぽーと」に対する関係機関・専門職の評価

今年度もたくさんの機関と連携させていただき、「ゆーすぽーと」の運営を支援してもらった。今年度は、「ゆーすぽーと」の機能を他地域に広げて支援を開始したので、関係していただける機関にも広がりがあった。そして、連携のあり方にも幅や深まりがでてきた。

年度末の多忙の中、しかも急な依頼だったにも関わらず、私たちのアンケートに誠実に回答していただいた。関係機関の皆さんには、①機関にとっての「ゆーすぽーと」の必要性、②「ゆーすぽーと」とのつながりの度合い、③「ゆーすぽーと」が利用者や家庭に良い影響を与えているか、④「ゆーすぽーと」に期待する機能について、「とても」、「やや」、「あまり」、「ほとんど」の4択から選んで回答してもらった。

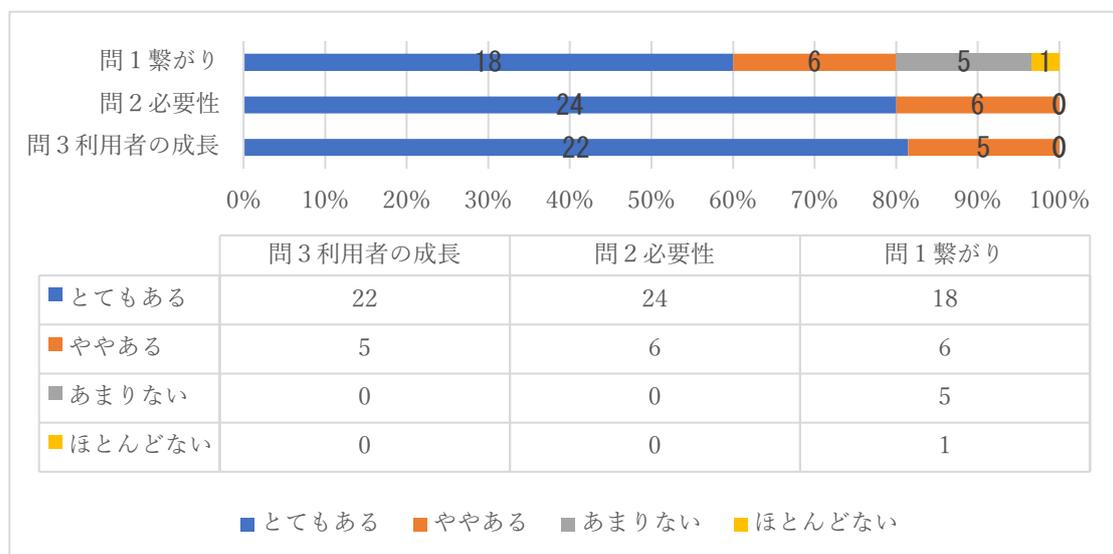
問1の繋がりについては、強度に違いがあるが、8割の機関が繋がりを意識してくださっている。しかし、利用者が在籍している学校や最も関係が必要な部署との繋がりが「あまり」、「ほとんど」の回答があったことは反省しなければならない。

問2の必要性は全機関が「とても」、「やや」と回答し、「とても」と必要性を強く感じて下さっている機関が8割あった。

問3のそれぞれの機関から見て、利用者やその家庭に良い影響があったかの問いには、3機関が「分からない」と回答されたが、他の機関はあったと回答している。

問4の期待する機能で強く望まれているのが、順に居場所の提供、学習習慣の定着、子どもへの相談、コミュニケーション能力の向上、保護者への相談などだった。

後に掲載する関係機関や専門職の方々の声などと総合すると、多くの方々が「ゆーすぽーと」の必要性を認めて下さり、その機能を評価していただいて、経済的困窮や虐待などで、成長が心配される子どもの受け皿として考えて下さっていることが理解できる。



問4 期待する機能

	とても	やや	あまり	ほとんど
① 居場所	30	0	0	0
② 学習習慣の定着	25	5	0	0
③ 成績向上	11	16	2	1
④ 宿題支援	10	19	1	0
⑤ 高校進学支援	14	15	1	0
⑥ コミュニ力向上	22	8	0	0
⑦ 食事提供	20	8	1	0
⑧ 体験活動の提供	17	10	2	0
⑨ 子どもへの相談	24	6	0	0
⑩ 礼儀・しつけの定着	11	19	0	0
⑪ 食事作り・片付けなどの力	16	12	2	0
⑫ 保護者への相談	21	9	0	0
⑬ 時間外の預かり	10	18	2	0
⑭ 送迎支援	12	11	7	0
⑮ 困窮家庭への食糧支援	11	14	4	0
⑯ その他	0	0	0	0

とても・・・とても思う
あまり・・・あまり思わない

やや・・・やや思う
ほとんど・・・ほとんど思わない

【関係機関・専門職の声】

- ・ゆーすぽーとが存在するおかげで、支援家庭が落ち着き（親は楽に、子どもは元気になる）、子どもが社会の親（スタッフ）に大切にされている感覚は親を元気にして親が安心して自らの課題に取り組んでいくことができます。私に対しても信頼が醸成されて、少々親に対して課題を出しても受け入れてくれるようになり、助かっています。ゆーすぽーとで社会性を身に付けた卒業生は、困難に遭っても対処できる力が養われていることと思います。ありがとうございます。-母子・父子自立支援員-・仕事をしていく上で、いつも頭の片隅に「ゆーすぽーと」の存在があります。今年度はつなげるケースはありませんでしたが、紹介したいケースがあるとき、事前にお電話するといろいろ相談にのってくださるので、とても助かります。北総地域の学校で勤務していますが、「ゆーすぽーと」のような事業が充実していないので、東金市はありがたいと思っています。

—SC—

- ・虐待につながりやすい家庭の児童や生活に困窮するなどして居場所のない児童にとっての受け入れ先としての役割に非常に助かっています。一方で、行政からの紹介を受け、「何とか支援したい」と考えていただくあまり、ゆーすぽーとの能力以上の負担を与えてしまっているのではないかと思うところがあります。

—子育て支援課—

- ・昨年 SSW として活動を始めてから、多くのご家庭、子どもを受け入れていただき感謝しています。SSW が関わるご家庭は、誰が悪いのでもなく、生活が未熟な状況で、子ども達の持つ力を成長させるということがとても難しい中、当たり前の生活・学習の場として、ゆーすぽーとさんがあるだけではなく、人とのかかわり、心の発達を支援していただける環境であることがありがたいです。相談に行って、私自身が勇気づけられ、子どもに、また、保護者を支援するエネルギーをいただきました。

—SSW—

- ・東金市にとってなくてはならない機関の一つだと感じています。他地域で「ゆーすぽーと」、「+すいっち」の話をしたら、「すごいね！東金市は進んでいる・・・」と言われました。～ 何かと連携、ご協力をいただき心強く思っています。

—教育相談員—

- ・山武郡市に大変手厚い子ども支援を行ってくださる場所・存在に感謝いたします。教員として現場にいた時は、このような子ども達の居場所について知らないまま仕事をしていました。今年度から訪問相談を担当することで、初めて知ることができ驚きの連続です。お世話になっている子ども達の変容を見守るものとして、このような居場所が山武郡市各地区、または北部・南部に存在してほしい。あったならば、あの子・この子が支援され成長できるのではないかと考えてしまいます。特にすばらしいと感じるのは送迎・食事です。子どもの力ではどうすることもできない部分に手を差しのべていただけること、本当にありがたと思っています。このような取り組みが他地区にも広がってほしいと願います。

—訪問相談教員—

- ・当機関に通級する児童・生徒はそれぞれに、さまざまな家庭の事情で悩みをかかえている子どもが少なくありません。そこで、貴機関と連携して、学習のサポートやきめ細かな生活支援をしていただけることは、たいへん心強く感謝しています。今後とも息の長い活動と連携をお願いしたいと思っております。

—ハートフル指導員—

- ・今年度は教育相談センターとしての関わりはほとんどありませんでした。しかし、相談に来所された方の中には、ゆーすぽーとで支援を受けているのだという方もいらっしゃる、子どもや保護者が支えられているのだということを感じていました。コロナのことなどもあり、今まで以上に心配りされながら運営されていたことと思います。これからも地域に根差し、①～⑯のようなたくさんの機能を備え、家庭を支えていただけたらと思います。学校としても、家庭の問題はなかなか踏み込めない部分でありますのでありがたいことです。また、報告書を拝見し、ゆーすぽーとで身に付け

た力を基に夢に向かって進む子どものことを知り、子どもにとって大切な場であることを実感しました。

—教育相談センター—

- スタッフの方が工夫し、子ども達にとって居心地のよい居場所づくりに努めていらっしゃるのので、訪問すると皆さんの生き活きとした笑顔が見られ、子ども達にとって必要な場所になっていることがうかがえます。また、保護者に寄り添った関りもされているので、子ども達だけでなく、ご家庭にとって、更に地域の中でも重要な存在だと思えます。今後とも地域の中で、子ども達の居場所としての大切な役割を担ってほしいと思えます。

—障害相談支援事業所・相談支援専門員—

- 本市の生活困窮者対策に新しい風を吹き込んでいただき感謝しております。社会を明るくする運動のミニ集会での藤田先生の講義で、ゆーすぽーとの活動内容を知りましたが、「+すいっち」で直接関わるようになってから、よりゆーすぽーとの活動の重要性を感じました。大綱にもゆーすぽーののような子どもの居場所があれば、と思っているところです。

—大網白里市・福祉課—

- 本当に本市の子ども達がお世話になっています。より連携させていただくと同時に、学校教職員とつなぐことや情報の共有に努めてまいります。また、教育委員会として、本市としてできることがないか提案してみたいと、担当として思っております。

—東金市教育委員会・学校教育課—

- 生活に困窮している世帯を対象としていることから、当該活動を広く周知することが難しいことは、一緒に活動をさせて頂いた中で理解できました。しかしながら、活動に賛同される方も多く、ボランティアとして協力をしたいと感じているとの意見を耳にすることから、事業を実施する部分と周知する部分の運営を切り分けられれば良いなと感じました。少ない財源と人材の中で大変だと思えますが、行政側でできる役割があれば、成果が出るように立ち回りたいと考えます。

—大網白里市福祉課—

- 貴事業に励まし助けられている子ども、ご家庭が多くあります。日々の活動ありがとうございます。子どもや家庭を支えるためには、さまざまな機関や団体、あるいは私的なつながりを広げて、多くの目・手で励まし、助けることが必要だと思えます。その子や家庭にとって今一番必要なものは何か、緊急的に必要なものは何か、一番のネックになっているものは何か等々、現在やっつけてくださっているように、個々に寄り添った支援を今後も宜しくお願い致します。

—小学校校長—

- ・本校の児童は、ゆーすぽーと始め様々な関係者の支援により、通常通りの登校ができるようになってきました。また、不登校により空白となっていた学びも、何とかうめることができ、学習成果も急上昇しています。家庭の支援が今後の課題です。学校が主体となって見守り、支援体制を整えていきたいと思ひます。

-小学校校長-

- ・児童相談所、社会福祉課、学校教育課、自立支援員、子育て支援課等との関係と、その子どもの在籍する学校との連絡協議（情報交換）が定期的とまではいかななくても、できると良いと思ひます

-高校・副校長-

- ・様々な課題を抱える生徒や保護者に寄り添っていただきありがとうございます。ゆーすぽーとでお世話になっている生徒たちの様子をうかがったり、学校での様子をお伝えする場があったり、情報の共有ができたなら、よりよいのかなと思ひます。

-中学校・教頭-

- ・限られているだろう予算の中で、諸活動をしていただいて大変感謝しています。一人の生徒がお世話になっていて、ありがとうございます。長欠の生徒ですので、今後少しのことでも情報交換できれば幸いです。

-中学校・校長-

- ・今年度は、本校生徒がお世話になることは少なかったと思ひますが、かつて、どれほど助けていただいたか、力になっていただいかは存じ上げています。お世話になった生徒の中には大学進学のお知らせをしてくれた生徒もいました。家庭に居場所がなく、親に放っておかれ、生活の規律がつかれない生徒のたいへんな援助となっていました。ぜひ継続していただき、また助けていただけますとありがたいです。

-中学校教頭-

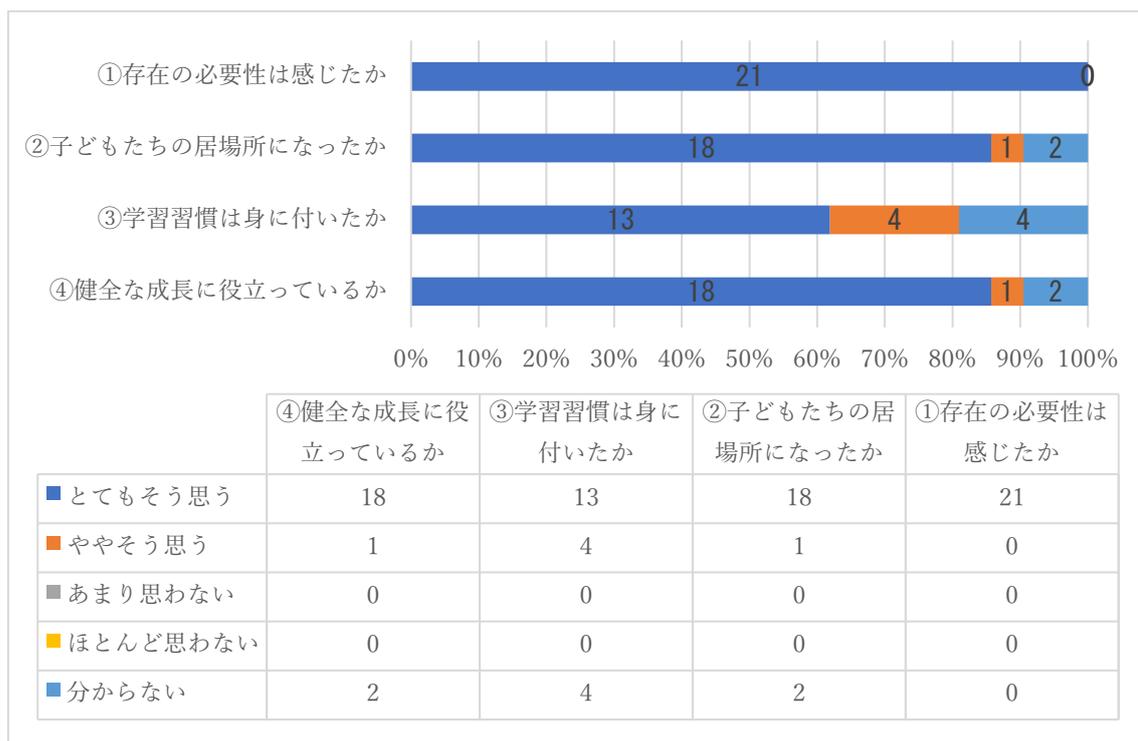
連携した機関・専門職

	機関・専門職名	備	考
1	東金市市民福祉部 社会福祉課		
2	東金市市民福祉部 子育て支援課		
3	東金市教育委員会 学校教育課		
4	東金市教育委員会 生涯学習課		
5	東金市総務部 財政課		
6	東金市家庭教育相談室		
7	大網白里市 社会福祉課		
8	大網白里市 子育て支援課		

9	大網白里市 生涯学習課	
10	大網白里市教育委員会 管理課	
11	千葉市教育委員会	
12	山武郡市広域行政組合教育委員会	
13	ハートフルさんぶ・東金教室	適応指導教室
14	東金市社会福祉協議会	
15	大網白里市社会福祉協議会	
16	千葉市社会福祉協議会	
17	千葉県東上総児童相談所	
18	千葉県子どもと親のサポートセンター	
19	城西国際大学	
20	植草学園大学	
21	市内幼・小・中学校	
22	関係高等学校	
23	関係市外小中学校	
24	訪問指導教員	県で配置 1名
25	スクールソーシャルワーカー (SSW)	県で配置 3名
26	スクールカウンセラー (SC)	県で配置 3名
27	子どもと親の相談員	
28	支援員	
29	フリースクールありのまま	
30	こころん	生活困窮者自立支援事業
31	ふげん塾	不登校・ひきこもり支援
32	千葉県教職員組合山武支部	
33	千葉県学校生活協同組合	
34	中核地域生活支援センター	
35	母子父子自立支援員・婦人相談員	
36	障害相談支援事業所 相談支援専門員	
37	千葉県山武健康福祉センター	

2) 「ゆーすぽーと」に対するボランティア・スタッフの評価

今年度は、継続して参加していただき、利用している子どもの姿を間近でご覧になっているボランティアの方が多かったため、スタッフと同じ設問でアンケートを取らせていただいた。ボランティアの中に物品提供の方やボランティアを始めて間もない方もいて「分からない」と回答されている方もいる。ボランティア14名、スタッフ7名の回答。



間近で見ている方皆さんが「とてもそう思う」を回答しており、少し肩の荷が下りる思いである。

⑤期待する機能

	とても	やや	あまり	ほとんど	分からない
①居場所	21	0	0	0	0
②学習習慣の定着	18	3	0	0	0
③成績向上	13	6	0	0	2
④宿題支援	15	5	0	0	1
⑤高校進学支援	18	2	1	0	0
⑥コミュ力向上	19	1	0	0	1
⑦食事提供	19	1	0	0	1
⑧体験活動の提供	17	4	0	0	0
⑨子どもへの相談	19	2	0	0	0
⑩礼儀・しつけの定着	13	7	0	0	1
⑪食事作りなどの生活力	19	2	0	0	0
⑫保護者への相談	16	4	0	0	1
⑬時間外の預かり	11	8	1	0	1
⑭送迎支援	10	9	0	0	2
⑮困窮家庭への食糧支援	11	8	0	0	2
⑯その他	0	0	0	0	0

とても・・・とてもそう思う
あまり・・・あまり思わない

やや・・・ややそう思う
ほとんど・・・ほとんど思わない

分からない・・物品提供や始めて日の浅いボランティアからこの項目の要請があった

居場所の機能は皆さんが「とてもそう思う」と回答されていた。それ以外の機能では、各々評価が違っていたが、全体的に「そう思う」とその必要性を認知して下さっておられる。皆さんで「居場所」の定義を、そして「居場所」を成り立たせる要素は何かなど、意見交換や情報共有をしていく必要があるように感じた。

【ボランティアの声】

- ・地域の困っている子ども達のために将来を見すえた、学校では出来ないことを多岐に渡って支援している活動は本当に素晴らしいとおもいます。子ども達もしっかりあいさつが出来て元気いっぱい。スタッフの方に信頼を寄せている姿を感じます。月一度の食事作りで微力ですが、お手伝い出来て嬉しいです。
- ・食事づくりのお手伝いをしました。台所に音読をしにきたり、献立を聴きに来る子どもがいたり、とても可愛かったです。食事作りをしながらも、子ども達と関わる場面があり楽しい時間でした。また、他のボランティアやスタッフとの新しい出会いもお手伝いに行く楽しみの一つです。
- ・先生方は勉強だけでなく、送迎をしたり、各家庭に色々な配慮をしたり、大変なご苦労だと思います。食事のお手伝いで、少しでもお役に立てればと思っています。皆さんから届いた新鮮なお野菜や卵を使い、行事食を作ったりします。子ども達の笑顔が楽しみです。
- ・昨年からのコロナ騒動の中、感染者を出さず活動できたことうれしく思っています。
- ・コロナの中で、親の状況も大変だと思います。相談できる場、子どもが学習できる場、食事もできる場として、今後もよろしくお願いします。
- ・小中学生の利用者の勉強支援の場、学校や家ではない一つの居場所となっていると思います。また、定期的にあるいろいろなイベントが子どもたちにとって良い経験になっていると思います。食器の配膳、片付け、掃除などを自分からやることで、習慣づけに繋がっていると思います。
-高校生ボランティア-
- ・子ども達と一緒に生活する中で、沢山の事を学び成長することができました。
-高校生ボランティア-

- ・サポーターの皆様の活動に敬意をもってしています。コロナ禍で子ども達の学習・生活環境は、大変悪くなっていると思います。子ども達の居場所・話し相手になっていただだけで、大きな役割を果たしていると思います。あまり無理して、役割を広げて、パンクしない様にと 생각합니다。長く続けていける方策を優先していただきたいものと思っています。

3) 「ゆーすぽーと」への支援の拡がり

①ボランティアの定着

3年4年と長期にボランティアに参加してくださっている方が10人を超える。そして、そのメンバーが主体的にかかわってくださっている。調理ボランティアを年間通して週を決めて(木曜日)活動してくださっているグループがある。数人でシフトを組んでほぼ埋めてくれるので本当に助かっている。また、このグループは、スタッフではなかなかメニューに上がりにくい献立を選んで作ってくださっており、魚の日を決めて、鰯や鰯をさばいて調理してくれている。月1回水曜日に決めて活動してくださっている3人のグループもある。このグループは常にクリスマスなどの行事食を心がけて調理してくれている。手作りの飾りなども用意してきてくれて華やかな食事を演出してくれている。どちらのグループも食材の買い出しから準備して下さり助けられている。しかも、活動費のことを考慮して、できるだけ安いスーパーを探し出して購入してくれている。

月1回は必ず参加してくれる自治体職員もいる。ポジティブな生き方をされており、その姿を見てスタッフも勇気づけられている。調理に手慣れており、リクエストに応じて作り置き総菜にも応じてくださっている。

②ケース会議の開催

過去には児相案件の情報提供という立場でケース会議に参加したことがあったが、公的機関によるケース会議に招聘されることはなかった。今年度途中に登録した不登校になっている3人兄弟(小5、小1、中2)に関わっている機関が一堂に会して、現状の共有とこれからについて話し合った。現状「ゆーすぽーと」の利用は、小学生のみだが、中学生に対しても利用を促す動きをしている。

子ども達の支援を「ゆーすぽーと」に依存し過ぎていることを心配した、市教育委員会の担当の計らいだった。大きな前進を感じる。

③クラウドファンディングの足掛かり

「ゆーすぽーと」でボランティアしてくださっていた人の中には、思いがあっても、コロナ禍の影響で参加できないでいる方も多いが、禍中でも参加してくださっている方もおられる。継続されている方も中断している方も皆さん意識高く支援してくださって、熱量高く多くの方々に「ゆーすぽーと」の活動を喧伝してくださっている。

「ゆーすぽーと」の食材の項でも述べているが、熱量高いボランティア伝道師の一人の思いに触れた鴨川市在住の吉度ちはるさんの提案が思い

がけないものであり、これからの「ゆーすぽーと」に光明をもたらすものだった。始まったのは、「送料基金」のクラウドファンディングである。自然食研究家の吉度さんが、つながる有機野菜農家の皆さんに獲れすぎた野菜や規格外の野菜の提供を呼び掛け着払いで発送してもらう段取りをつけてくださり、その送料を募るものだった。吉度さんのFBを通しての呼びかけにすぐに反応があり、募金が寄せられた。たくさんのヒントをいただいた。

④活動の趣旨に賛同して恒例のバザー収益を分けて寄贈

②と同様ボランティアさんがつなげてくれて動き出したものである。「ひとりさんのファンの集まるお店」という名のお隣山武市にあるお店を舞台に始まった動きである。知らなかったのだが、ひとりさんとは「銀座まるかん」の創業者の斎藤一人さんで日本の名だたる実業家なのだそう、で、「ファンの集まるお店」のオーナーはその斎藤一人さんのお姉さんだそう。そのお店の社員さんとボランティアさんにつながり、社員の柴崎恵子さんが個人的に物品提供をしてくださっていることを知ることになったオーナー小野十美子さんも提供に加わってくださり、例年他の目的で行って来た店のバザーの収益を分けていただけることになった。勝手な推測の解釈があるかもしれませんが。

⑤団体による協力の取り組み

大網白里市更生保護司会・女性部の皆さんが、無料塾「+すいっち」大網教室の食事作りを団体として取り組んで下さり、次年度以降も継続していただけるという心強いお言葉をいただいている。「+すいっち」大網教室立ち上げのきっかけとなったのが、この団体の研修会で「ゆーすぽーと」の取り組みをお話しさせていただいたことである。この場に事務局の社会福祉課職員の皆さんも居合わせて話を聞いてくださっていた。貧困問題に対する熱量の高い複数の職員から強いアピールがなされて、活動の広域化を考えていた法人が動かされたものであった。塾がオープンされてまもなく研修会の主催者として協力したいとの申し出があり、取り組みが始まった。部会の皆さんが、地区で割り当て食事作りを担ってくださった。また、この取り組みには、食事作りの拠点となる中央公民館・調理室の提供をしてくださった大網白里市教育委員会生涯学習課の協力が原動力となった。

⑥活動の広域化により支援企業に拡がり

コロナ禍大変な思いをされている企業・団体が多い中、今年度も多くの企業・団体などから支援していただいた。活動の範囲が広がり支援してくださる企業・団体に拡がりがあった。子どもにとって「ゆーすぽーと」利用の動機付けとなる魅力的な体験活動を計画するチャンスもいただけた。また、金銭的な支援もいただくことができ、次の活動の幅を広げることも可能になった。

(支援していただいている企業・団体)

企業・団体名	協力内容	所在地
愛華ツーリスト	コロナの大打撃を受けている渦中にもかかわらず、利益のない1日傷害保険の手続きをしてくださった。	東金市
有限会社オートウイル	例年、バスや運転業務を格安で提供してくださり助けられていたが、コロナ被害の大打撃を被った業種の一つでもあり、感染対策のため今年度はお願いするチャンスはなかった。	茂原市
大里総合管理株式会社	例年、たくさんのイベントにお誘いいただいてきていたが、コロナの感染対策のため今年度はお願いするチャンスがなかった。	大網白里市
直売場 しいの木	例年、ブルーベリー狩り体験の場を提供してくださっていたが、コロナの為今年度は中止。定期的に米や野菜を提供してくださっている。	東金市
道の駅 みのりの郷東金	本来なら、ふるさと納税返礼品は一括して購入して、受け取らなければならないのだが、事情を汲んでくださり年間を通じて、必要に応じて配達してくださっている。	東金市
株式会社 小川屋味噌店	道の駅同様、年3回ほどに分割して納入してくださっている。数種類がパックになった魚の切り身を購入しているのだが、お願いして、魚種を揃えていただいている。残念ながら年度途中で廃業された。	東金市
林養鶏場	やはり、道の駅同様。納入時期を弾力的にいただいている。1月一箱100個を定期納入していただいている。しかも、常におまけつきである。	東金市
KK Duo	今年度より始めた無料塾「+すいっち」千葉教室の会場として破格の料金でお借りしている。オーナー自ら教え、提供の食事を調理してくれている。	千葉市
株式会社 房総教材社	体験活動の際にたくさんの教材や画材などを提供してくださった。参考書や問題集なども大量に提供してくださった。	東金市

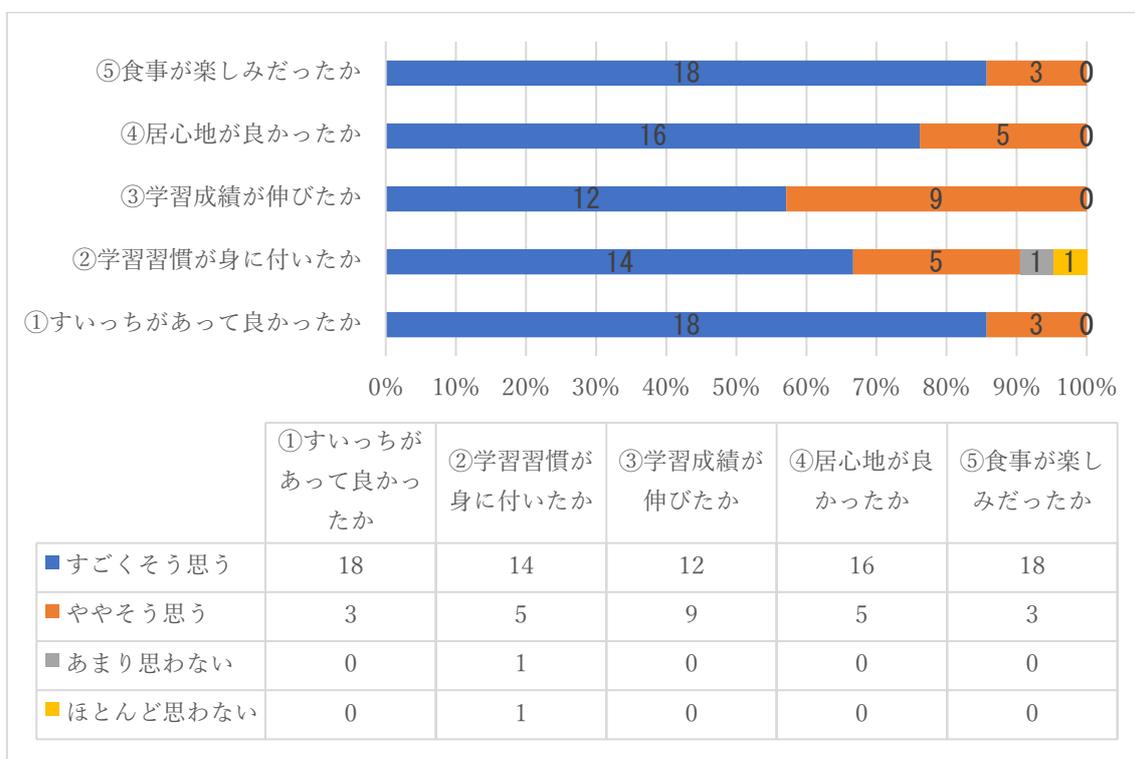
千葉県教職員組合 山武支部	「ゆーすぽーと」の活動を地域の教員に紹介してくれ、ボランティアの発掘に協力してくれている。	山武市
千葉学芸高校	無料塾「+すいっち」を民間の塾の一つとしてカウントしてくれて、入試説明会などの案内や資料の提供をしてくれている。文房具などの提供もしてくれている。	東金市
粉 桜	今年度は、ハロウィンクッキー、クリスマスのお菓子シュトーレンを 40 名分の提供を受けた。また、無料塾「+すいっち」大網教室に軽食としてパンの提供をしてくださった。下記のパン屋さんも紹介していただいた。	大網白里市
ベーカリー ルッツルエン	無料塾「+すいっち」大網教室の軽食として格安でパンを提供してくださった。月 1 回のペースでの提供で大変助けられた。	大網白里市
東金洋菜出荷組合 代表 今関弘	平成 28 年の開所以来、通年でサラダ菜を提供してくださっている。ハウスの水耕栽培の為に比較的極暑、極寒の気候に影響されず、常に緑物を届けていただいている。おかげで、四季を通して食事の提供に彩を添えることができている。	東金市
カフェ きり株	お隣さんで普段から利用している子どもたちにあたかなまなざしを向けてくださって親切にいただいている。今回「レストラン体験」として協力していただいた。	東金市
クライミングジム 猿吉	大通りに面している施設。紹介してくれる人があってお話しすると「ゆーすぽーと」の活動に共感して下さり、講師料のみで大勢の子ども達を受け入れてくれることになった。	東金市
大網白里市 更生保護司会 女性部	無料塾「+すいっち」大網教室の立ち上げに大きな貢献をしてくださったばかりか、食事作りを部員で分担して担ってくださった。皆さんの作ってくださった美味しい食事に励まされて、子どもたちは頑張り、全員高校合格ができた。	大網白里市

戸田屋	造園業を営む会社で、「ゆーすぽーと」の初期段階から備品の寄贈、体験活動の支援、食材の提供など様々な支援を続けてきている。今年度は多額の寄付を寄せてくださった。ご自分で決めている代金以上の金額を支払ってくださる奇特なお客さんがいて、そんな時にふらっと立ち寄り寄付してくださった。受験を頑張って「ゆーすぽーと」、「+すいっち」を巣立った子ども達にお祝いの記念品を贈らせていただいた。戸田基金で数年先まで贈り続けられそうだ。	東金市
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----

4) 無料塾「+すいっち」に対する評価

東金・大網・千葉教室の利用者を対象に、①「+すいっち」があって良かったか、②学習習慣が身に付いたか、③学習成績が伸びたか、④楽しく居心地が良かったか、⑤食事が楽しみだったかの5つの設問でアンケートを実施した。

「すごくそう思う」、「ややそう思う」、「あまりそう思わない」、「ほとんど思わない」の4択で回答してもらった。東金教室以外は郵送で実施したため、100%の回収とはならなかった。



「+すいっち」があって良かったかの設問には、さすがに希望して参加してきているので全員が「すごくそう思う」、「ややそう思う」と回答してその意義を認めている。まだ2年生の参加者2人と親に強い勧めで重い腰を上げた受験生の一人が「やや」を選択していた。学習習慣が身についたかの設問に「ほとんど」、「あまり」と回答した子どもは、学習への取り組みに表れていて、スタッフの中で議論されたこともあるが、通ってきているだけで前進と認めて「良し」とした。成績が伸びたかの設問には、入試結果が示してくれていると判断したい。多くのボランティアや市内ベーカリーの協力を得て実現した軽食提供は、参加者全員が喜んでくれていて安心した。休んだ子どもの分も嬉しそうに受け取ってくれる子どももいて、軽食提供が利用者の参加へのモチベーションアップの一因にもなっていたと推測している

【「+すいっち」利用者の声】

- ・「+すいっち」に通うようになってから家で自習する習慣が身に付きました。おかげで成績も上がり、無事に第一志望の高校に合格することができました。このような場があることを知ることができて良かったです。
- ・「+すいっち」に参加して、自分が苦手なところを色々教えてもらえて、無事第一志望の高校に合格することができました。受験の日、今までの力を発揮できるか不安なこともありましたが、どの教科も最後まで落ち着いて取り組むことができました。苦手だった計算問題も解くことができたのでうれしかったです。本当に、僕たちにいろいろ教えていただきありがとうございました。また、僕たちに夜食を作ってくくださった方やパンを作ってくくださった方、本当にありがとうございました。どのご飯も、パンもとても美味しかったです。もう食べることができなくなってしまうので悲しいですが、あの味をわすれないようにしたいです。
(最多出席者、大網・東金教室利用)
- ・初めて塾に通って、不安なこともあったけれど先生方に優しくしていただいたお陰で、「+すいっち」に行くことが楽しみになりました。おいしい夕食も楽しみでした。約半年通って得たものは多かったです。本当にお世話になりました。
- ・もともと勉強するのが得意ではなかったけど、「+すいっち」に通い始めてから、学習習慣がついたので良かったです。食事もおいしく楽しみの一つでした。
- ・私は「+すいっち」に参加して、毎週決まった時間に課題をする時間を設けてくださったので、以前よりも勉強する習慣が身につきました。先生方やボランティアの方々、食事などを提供して下さったたくさんの方々のおかげで、以前より勉強に集中することができ、成績を上げ、志

望校に合格することができました。「すいっち」を卒業しても、身につけてくださった勉強の習慣を途切れさせることなく、これからは「大綱すいっち一期生」としてがんばりたいと思います。休憩時間、なかなかもどってこなかった私たちを、何も言わず優しく見守ってくださってありがとうございました。

- ただ成績をあげるための援助を行うだけでなく、応援や心配をしてくださって、温かい気持ちになります。ここに参加しなければ出会うことがなかった人達と会話や食事を楽しむことができうれしいです。得意ではない問題も先生にすぐ質問ができる環境なので挑戦できました。教えていただきありがとうございました。
- 1年生のプリントをやったり、分からないところをすぐに聞ける環境で、とても勉強しやすかったです。
- 学習する・しないに関係なく、行く事に意味があると思って「+すいっち」に行っていたが、ボランティアの高山さんのおかげで勉強ができるようになったと思う。(高山さんは大綱白里市福祉課の職員で勤務終了後・上司の飯高さんと「+すいっち」に立ち寄り積極的に子ども達に関わってくださった。特に、進路が定まらず学習に打ち込めない子と粘り強く会話を繰り返して、進路への意欲を引き出してくれた)
- もともと勉強することが嫌だったけど「すいっち」に参加して、苦手だったところを先生にたくさん聞いて分かるようになると、少し問題を解くことが楽しくなってきた気がします。いろいろな先生方から沢山教えてもらったことを高校で生かしていきたいと思います。
- 一人で勉強するよりも友達と勉強した方が集中できるので、とても良い環境で勉強できました。ご飯もおいしかったです。
- 「+すいっち」に参加することができて、とてもよかったですと思います。「+すいっち」に参加して、勉強をみてもらったおかげで、テストで良い点をとれるようになりました。勉強を教えてください先生方は、とてもやさしく、丁寧に教えてくださったので分かりやすかったです。
- 次はみんなでゆっくりたこやきしたいです。みんなでつり行きたいです。数学が今年ずっと0点でしたが、11点まで上がりました。自分の好きなオタク話を否定しないで聞いてくれる人がいてうれしいです。小1の時の同級生に会えました。バスの使い方を知りました(なれてきました)。コロナで会えない人がいるので、コロナ消えて下さい。

(千葉・中2)

【「+すいっち」利用者の保護者の声】

- ・勉強だけに限らず、色々と相談にもものっていただいて、本人も気がまぎれた所もあったようです。参加させて良かったと思います。ありがとうございました。
- ・小学生から基礎的な勉強がわからなかった為、ずっと本人は辛かったと思います。もっと早く知っていれば勉強や本人にとっての居場所がもっと早く見つけてあげられたと思います。本当にお世話になりました。感謝しております。
- ・この度は+すいっちに娘を参加させて頂き、誠にありがとうございました。当初、私一存での参加に近いところがあった為、最初の頃は”嫌々参加させられている“気持ちの強かったと思うのですが、皆様の温かいサポートや丁寧なご指導により、少しずつ参加への自主性が育ってきた様に感じています。不登校気味であった学校へも、その自主性が良い方向へ向かい、今では週のほとんどが通学できる様になり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも親子共々よろしくお願い申し上げます。(千葉・中2)
- ・9月から参加させて頂き、約半年大変お世話におなりました。勉強が苦手な家でまったくといっていいほど勉強をする子ではありませんでした。「+すいっち」に参加させて頂いてからは、意欲的に「+すいっち」に行く毎週楽しみにしていました。成績としてすごく伸びたわけではありませんが、娘が勉強に向き合ったという事が私は一番うれしく思います。先生やボランティアの皆さん本当にありがとうございました。
- ・無料で勉強を教えていただき、軽食まで出してもらって本当にありがたかったです。本当にありがとうございました。
- ・+すいっちの先生方のお陰で分からなかった部分も少しずつ理解し、無事大網高等学校に合格する事が出来ました。長いようで短い期間でしたが+すいっちに通っている息子はとても楽しそうで充実した時間を過ごす事が出来ていたと思います。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも+すいっちを必要とする子がいると思います。私の息子のように・・・。それと私もです。あと夜食を提供していただいた方、作っていただいた方々にも感謝しております。本当にありがとうございました。
- ・色々と本当にお世話になりました。課題以外の勉強が本当に苦手でしたが、+すいっちに通わせて頂く中、徐々に自学が出来るようになったなど感じていました。無事に志望校に合格出来たのも+すいっちのお陰だと

思っています。本当に感謝しております。ありがとうございました。

- ・今回は「+すいっち」を学校から紹介されました。夏ごろに話し合いましたけど、本人の気持ちがだんだん行きたい気持ちになりました。それで、私がおなじ学校の子が何人ぐらいいるのかなと思いました。いろいろ聞いてみると、本人が行きたい気持ちが強かったのでお世話になりました。今回は私立、公立の方もお陰様で合格しました。ありがとうございました。今回は皆様先生のお陰でお食事も本人が喜んでいました。パン屋さんにも何回もいただいたみたいでありがとうございました。短い間でしたが色々な経験と、先生方にもお世話になり本当にありがとうございました。これから先も大変だと思いますが、これからもこういう塾があるといいと思います。
- ・無料塾本当にありがとうございました。毎回楽しみで行っていたのが親の私からでもわかる位でした。何かもらって帰ってくると「先生からもらったんだ」とうれしそうに食べてました。高校合格したのも先生方のおかげだと思っております。今まで本当にお世話になりました。今年度もまたあれば、弟のほうもよろしくお願いいたします。
- ・定期的に通うことで生活のリズムができ、本人も楽しみにしている様でした。授業ではなく個別に課題に取り組み、ご指導いただけただので、本人のペースで学習することができました。学校では理解できなかったところも「今日わかったよ」と話してくれたこともあります。学校とは違う学びの場として本当に有意義だったと思います。軽食も参加者と一緒に食べるのを楽しみにしていました。新型コロナの感染が心配でしたが、無事過ごすことができて良かったです。無料塾でしたが、会場費や会費の負担や先生方へのお礼を何らかの形で出来たらよいと思います。志望校に合格し新しい生活をむかえられるのも、皆様のサポートのおかげと大変感謝しております。ほんとうにありがとうございました。

【「+すいっち」の関係機関・専門職の声】

- ・今回のような高校進学に向けた学習支援の取り組みが、市教育委員会、市内中学校の協力・理解のもとに実施することができ、新たな子供たちの居場所が設けられたことは評価できる。金銭給付による支援よりも、勉強を教えることを端とする居場所の提供や生活相談など人的支援により子ども達の成長を支える事業の重要性を再認識した。

—大網白里市・社会福祉課—

- ・コロナ禍で様々な制約がある中、子ども達のために活動を継続して下さりありがとうございます。市でも生活困窮世帯向けの無料学習支援を行っていますが、対象要件や定員があり、またさまざまな事情でそこへ通えないお子さんもいらっしゃいます。そのようなご家庭にとっては貴団

体のような無料塾が地域にあると、選択肢が広がり、子どもの将来につながると思います。

—千葉県こども家庭支援課—

- ・市子育て支援課では、児童虐待未然防止に対し取り組んでいます。貴機関を利用する児童の中で気になる家庭や児童自身からのSOSの声があった時には、子育て支援課へ情報提供いただけるように協力をお願いしたい。

—大網白里市子育て支援課—

- ・当機関に通級している生徒は定期的な登校ができないためにどうしても中3になり高校受験を考え始める時には、学習の遅れに直面し焦りや、諦めを感じてしまう子どももあります。進路を具体的に考え出した時、学習の支援を受けられる事は、本人にとって大変心強いことだと思います。これからも御相談させていただくケースがあるとおもいますので、よろしく願いいたします。

—ハートフルさんぶ東金教室—

- ・子育て支援の中で、子どもが中高生となり進学が視野に入る段階になると、進学費用捻出が親の課題となります。国の支援が、低所得世帯に給付金が支給される等充実して親にとっては経済的に助かることで安心と希望をもたらせます。「+すいっち」では個別指導により、また同じ課題を持つ仲間がいることにより、民間の進学塾にはない教育者であり「社会の親」が対応して下さることで、「人が育っていく」場と認識しております。子どもが大切にされていること・変容していく姿を見ることは、親は楽になり余裕ができ家庭が安定します。子どもが複数の場合は、弟妹のモデルとなりスイッチ（やる気）が自然と入ると思われます借金をして進学し就職後返済に追われる生活が待っているのを避けることも視野に入れると本事業が子どもたちの明るい将来に寄与していただくものです。長く継続していくことを切に祈ります。

—東金市子育て支援課—

- ・本市のたくさんの生徒がお世話になり、ありがとうございました。生徒たちが継続して通っていたことから、子ども達のニーズにしっかりと合っていたものだと思います。ご指導いただきました関係の皆様へ感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

—大網白里市教育委員会・管理課—

- ・とてもありがたい取り組みであると思います。塾に通うことのできない子、学習習慣が身に付いていない子、恵まれない家庭の学習環境等、子どもたちが個々に抱える面を、このような場、機会があることで、違った将来・進路にもつながると考えます。

—東金市教育委員会・学校教育課—

- ・本校2年生Sが大変お世話になりありがとうございます。お陰様で、相変わらず欠席はあるものの生活の様子は落ち着きが見られると聞いています。これも「+すいっち」の色々な方にお話を十分聞いていただいたり、アドバイスをいただいているお陰と存じます。今後ともよろしく願います。学校もできることは頑張っていきたいと思えます。

—千葉・中学校長—

- ・本会施設を有効に活用していただき、利用者及び家族が本会を知るきっかけになり、本会としても大変ありがたく思えます。

—大網白里市社会福祉協議会—

- ・お世話になっております。学校以外のところで子供達が自分らしくいられるのは、とてもありがたい事です。今後は情報交換等、連携ができたらいいなと思えます。よろしく願います。

—中学校教頭—

【「+すいっち」のボランティア・スタッフの声】

- ・子ども達が一生懸命勉強に取り組んでいる姿を見て、みんながんばっている「+すいっち」があつて良かった。先生方の熱意を感じました。
- ・今年「+すいっち」の軽食作りに関わり地域の方々の温かい思いやりに触れ合うことができました。ほんの少しの時間の食事作りでしたが、受験生の学習の真剣な取り組み場・地域の方々と共同作業で新しい時を過ごすことができ日々の生活が前向きになりそうです。お世話になりありがとうございます。今後ともよろしく願います。
- ・子ども達はとてもまじめに学習していたと思えます。若い学生ボランティアもいると、生徒はより意欲が高まるように思えます。今のボランティアの先生方も親身になり温かく接していて素晴らしいと思えます。
- ・今回初めて参加させて頂きとても楽しく食事作りが出来て良かったです。機会がありましたら参加したいと思っています。
- ・残念ですが私はまだ2回しか食事を作っていませんし子どもの様子を見ることも出来ていないのでアンケートに記載するだけの経験がないので申し訳なく思えます。でもこの活動は子ども達にとってなくてはならない場所であると確信しています。スタッフの方々は大変なことも多いと思えますが、末永く続けて頂けるよう祈ります。私も自分の出来ることでおつき合いをさせて頂きたいと思っています。よろしく願います。コロナ禍にあり神経をいつも人々に使い心身の疲労もあると思えます。皆様には身体ご自愛なされてお元気でいてください。

- ・塾は必要だと思いますが、私はまだ全部の質問に答えられなくてすみません。生徒の姿を見ておりませんので。しかし、協力はしたいと思っています。
- ・人間関係が希薄になりつつある今、子ども達の笑顔が増えたことが何より嬉しく思います。親や学校以外の人と接する機会（斜めの関係）は学習面だけでなく、心の成長にも大きな糧となっていると思います。國分さん（千葉教室スタッフ）の人としての優しさ暖かさ、そして教える立場としての忍耐力に頭が下がります。
- ・いつも活動に参加させて頂いてありがたいと感じています。大して何もできませんが、無理せず長くお手伝いしていけたらと思いながら参加させてもらっています。子ども達と料理や食事をする機会があるのは、キャリア教育の一貫としても大切なことなのかなと思います。
- ・「塾」という名がついていることに若干の？あり。現状は自学を中心にサポートをする場でありいわゆる自習室の提供といった感じ。参加生徒の状況によっては、自学が難しい場合もあるので来年度以降も今までと同様に運営できるとは限らないので工夫が必要と考える。
- ・生徒、教師、父母三者に信頼関係が出来ていることが生徒の行動から推測されます。
学校（校長、担任）が生徒たちに目を向けているということがあってもよいと思います。（自分の子どもの経験から）ここでの生徒の姿を見ると又新しい視点が出てくるのではないのでしょうか。生徒に関わる人たちにPCR検査が出来るようになるといいですね。私の子どもは中1でネフローゼを発症しました。旭病院に入院し院内学級に通っていました。この時の会話で子どもの在籍している学校関係者が来たことない。学級では1/40なのに忘れ去られている。忙しいのは分かるが院内学級の先生と話をしたことがあります。
- ・中3向けの塾は、学生が自分のやるべきことをしっかりわかっていると思うが、中2、中1向けとなると、自習に近くなり、勉強の習慣につなげるのが少し難しいと思いました。
- ・とても良い仕組み・活動と思います。支えてくれる人がいればこそですね。現在、中学2年生2人、最初は基礎ができてなかったですが、マンツーマンに近い指導で追いついてきそうな手応えを感じています。一緒に料理したり食事したりも信頼の醸成に効果大です。予算の問題はありますが、何とかなっています。

3. 報告会等の評価

1) 中間報告会アンケート集計

日 時：令和2年11月12日（木）13：30～16：30

場 所：大網白里市保健文化センター

参加者：21名（内、アンケート回答者14名）

①あなたのことを教えてください。

	男性	女性	無回答
性別	7	6	1

	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
年代	0	1	1	3	1	8	0

	0～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
経験年数	3	0	2	0	3	6

	県・市町村	教育	福祉	その他	無回答
職種	3	1	5	2	3

②今回の内容はいかがでしたか？

◆東さんの基調講演

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
8	4	1	0	1

<理由>

- ・学ぶ機会を得られる可能性がわかった。
- ・居場所とは、空間的居場所、活動場所「心」の場所なのだと思います。
- ・幅広く取り組んでいること、実際に取り組んでいる方からのお話しありがとうございました。
- ・とても分かりやすいご講演に感謝いたします。もう少し具体的なことを伺えたらと思った。
- ・子どもの貧困率がこんなに高いと思っていませんでした。一人親

家庭 7 人に 1 人とは、悪い環境になって、子どもたちが学習し、成人して一般の暮らしができるような社会づくりが必要だと考えました。貧困になるのは、自己責任でなく、社会に責任があると思いました。いろいろ広く活動していることに驚きました。貧困を断ち切ることが、結局良い循環をつくることができると感じた。

- ・児童手当があまりにも少ないことに、恥ずかしながら知らなかったです。シングルマザーを自己責任にしているのでしょうか？私にできる支援があればと思いました。
- ・中身の濃い内容であった。その中で、所得分配効果が弱く、日本の未来を担う子どもたちに再分配されていなく、後期高齢者の自分にとって耳が痛かった。
- ・日本の子どもの貧困の背景を明確に分析しており、わかりやすかった。他人事ではなく、関心を持つことで、周りにも伝え、地域で子どもたちを支えていければと思う。・事業をつくっている方の話はとても刺激的でした。

◆学び舎・ゆーすぽーとーと中間報告

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
10	2	0	0	2

<理由>

- ・現在、変革を遂げていることが良く分かった。
- ・大網白里市にも学習支援の本格的な場所ができてとても嬉しいです。
- ・胸の中のもやもやが少し取れほっとしました。
- ・藤田先生は、規模が小さいと仰っていましたが、この規模ならではのきめ細かな対応、なにより「家族」が見えることに私は安心した思いがした。例え貧困で苦しく辛くとも社会の最小単位は家族であるように思いがあることから、子どもたちの力を伸ばすことはもちろんだが、保護者を含み家族を大切に考えていらっしやることに、ゆーすぽーとの存在や活動が広がっていくことを願うと同時に少しでも応援できたらと思う。
- ・活動の詳細を聞き、コロナ禍の中の苦労が分かりました。年々事業も増えて、これからの活動も期待します。無料で学習したり、食事の提供など苦労を痛感しました。
- ・すいつちの活動はすごいですね。子どもたちが学びたいという意欲を感じました。
- ・具体的で分かりやすく、活動そのものが素晴らしいと思いました。毎年、ゆーすぽーとが進化しているので、すごいなと思いました。
- ・家庭的な活動が子どもたちの安心に繋がっていることが話や写真の様子から感じられました。事例（子どもの生活状況）に合わせた

きめ細かな取り組みは、ゆーすぽーとならではだと思いました。

- ◆今回の報告会に参加されて、実際の現状等を知りどう感じましたか。また、今後子どもの貧困問題を解決していくにあたりどのようなことが必要だと思いましたか。
 - ・高齢分野にはお金が流れるが、子どもにはなかなかお金が使われない。持続的または地域に根付いた活動拠点の必要性があると考えた。
 - ・具体的な地域づくりと連携。
 - ・大きな課題ですが、人を信じるのが大切だと話を聞いて感じました。
 - ・東さんのお話の中で触れられたと思うのですが、8050問題の原因の一つに不登校があると思う。その解決に繋がる居場所型学習スペースや学び舎・ゆーすぽーとが大きな力になると思う。
 - ・継続が大切だと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。
 - ・子どものたちの貧困については、行政やボランティアの力が重大であると思いました。手の届いていない家族にこのような活動を広めていけたらよいと思いました。プライベートなどのところで活動の難しさも感じました。
 - ・経済的貧困は、人間関係の貧困と大きくリンクしていると感じています。家族の中や地域社会の中で、関係が円滑で、助け合っている関係があれば良いと考える。深刻な貧困にまで進まないのでもないかと日々不安を感じています。これに行政やNPOがどう関わるかが大切。
 - ・現状を知らない人がほとんどだと思う。個人的には、社会の有志ボランティアで子ども食堂を始めたので、食事提供の場としてだけではなく、子どもの貧困について知ってもらったり、地域の人たちを支えるコミュニティの場にできればと思います。大変勉強になりました。

2) 「子どもの学習と生活支援を考えるつどい」のアンケート集計

日 時：令和3年3月24日（水）18：30～20：30

開催方法：ZOOM

参加者：14名（内、アンケート回答者4名）

①あなたのことを教えてください。

	男性	女性	無回答
性別	2	2	0

	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
年代	0	0	0	2	1	1	0

	0～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
経験年数	0	0	2	0	1	1

	保育士	学習支援	生活相談	行政	無回答
職種	1	1	1	1	0

②今回の内容はいかがでしたか？

◆子どもの学習・生活支援事業・活動の実際

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
3	0	1	0	1

<理由>

- ・就労準備に繋がって、事業を展開していること
- ・支えられる側から支える側へ
- ・生活支援事業は、市原、東金、習志野の皆さん、とても熱心にされている様子が伺い知ることができました。学習支援の様子があまり詳しく知ることができませんでした。
- ・日頃、障害・高齢分野で仕事をしているため、とても新鮮な情報で新たな視点を得ることができました。
- ・拠点となる場所、そこに集う人、そこで展開される事に現場の創意工夫があり、大変参考になりました。

③情報交換会&意見交換会

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
2	1	0	0	1

<理由>

- ・オフライン・オンラインの使い分けが大切ですね。県で一つのアカウントを共有して、事業所が交替で遠隔授業をしてニーズに応じて地元の事業所につなげるといいのかなと思います。
- ・みなさんのお話を伺っていて、「居場所を兼ねた学びの場づくり」の事業は、子どもや若者を中心に据えた多様な考えが交わる地域のプラットフォームに発展する可能性のある事業だと思いました。その多様な可能性が子どもや若者が放つ光なのかもしれません。

4. 今後に向けた課題

1) 各機関との連携強化と時間確保

連携不足にもどかしさを感じる場所があったが、雲が晴れたように多くの機関から連携強化の声が寄せられている。ありがたいことに、中心となって連携の仲介を申し出してくれる機関もあった。民間の歴史の浅い小さな団体から公的機関へのアプローチが難しかっただけに、今後は、積極的にその申し出に呼応し、定着させていきたい。そのためには、教育委員会・学校などと連携しやすいように曜日や時間などもう少しフレキシブルな対応ができるよう体制づくりが必要となる。

2) 利用条件を満たしている人への十分な周知

昨年課題としてあげた「利用条件の対象者への周知」は、無料塾「+すいっち」の活動開始で少し改善された。塾への誘いということで、チラシを配布しやすくなった点がある。しかし、そのチラシでつながってきて、面談時に発せられる親子の「こういう場所があることは知らなかった」、「もっと早く知りたかった」は、繰り返されてきたものである。「もう少し早く利用してくれれば、もっと力を付けてさせてあげられる」と感じながらも、情報周知の足りないことを後悔している。

子ども達の尊厳のためと思うためらいが広報の先送りになっているが、大網白里市役所福祉課職員の方のアンケート回答に有意な手掛かりを感じ、今後、知恵をいただいて実践してみたい。「事業を実施する部分と周知する部分を切り分けられれば良い」と提案された部分である。

3) コロナ禍での運営

前述したように様々な対策を講じて活動してきているが、感染に対する不安は付きまとう。スタッフが感染させてしまうのではないか、クラスターが発生したらどうしよう、さまざまな犠牲を強いられている学校に迷惑をかけてしまうのではないかなどと、不安がよぎる。そして、子どもの保護者や見守る関係機関の方々の声に押されるところはあるが、果たしてこの仕事が「エッセンシャルワーカー」なのかと自問するところもある。

同様な活動を運営している事業所との情報交換や感染対策について深めていきたい。

4) 無料塾「+すいっち」展開による「ゆーすぽーと」の立ち位置の変化

「ゆーすぽーと」の機能で受験生支援が大きな柱だったが、無料塾「+すいっち」を展開したことによってその機能の多くを移したいと考えている。現状は小学生低学年の増加で「学童保育」的な要素が色濃くなって、受験生の学習の妨げになっていたり、個別学習の場や相談の場の確保が難しくなっている。

限られた人数のスタッフが、教室を掛け持ちしている事情があるので完全な分割というわけにはいかないが、極力機能の分割を図っていきたい。

5) 機能を支える体制づくり

子どもとその家庭への支援に関する要望が様々なところから寄せられている。それでけ頼りにされているということ、地域に受け皿がないということなのだとして理解し対応している。そのため、この数年で、その役割や機能は膨大に膨れ上がっている。

一方で、この役割や機能を支えるだけの人的体制や協力者の確保が課題である。運営委員会のメンバーとも相談しながら今後の体制づくりを考えていかなければならないと考えている。

6) スタッフ間の情報・課題の共有化

スタッフが日替わり勤務の為、都度の報告や依頼になっており、時間差が生じて報告内容に差が出たり、時には失念して報告がなかったりもした。目的や利用者の情報を共有して、モチベーションを持って楽しく仕事ができるように定期的なミーティングを位置づけていきたい。特に、無料塾「+すいっち」は活動場所が違うので、ノウハウの交換を含めて、定期開催は必須と考える。

7) 拠点周辺の地域との関係づくり

拠点の近隣地域の方々とは良好な関係が築けていると安心していましたが、今年度、初めて地区住民と思われるご婦人から電話をいただいた。「子どもたちが公園を往来する際に走ることがあるので危険、そのことに対して指導者らしき人が注意をしていない」、「密と思われる室内でマスクをしないで話している子どもがいた」との話。もっともなことであったので、ありがたく拝聴し、改善する旨をお約束して話は終わった。しかし、後日、法人本部にも同じ内容で電話があった。子どもがいっぱい集まってくるがいったい何をしているのかと気がかりなのだろうと思われるので、活動の趣旨をお伝えするチャンスを見つきたい。

また、安全には細心の注意を払って活動するとともに、スタッフや高学年を中心に地域に役立つ活動なども計画していきたい。

8) 活動資金の安定化

利用者や保護者・関係機関には、いつも始めた責任があるから必ず続けますから安心してくださいと発信しながら、毎年年度末になると不安になる。スタッフの採用やシフト、それに利用者に伝える月計画などは待ったなしである。規模は縮小しても、安定した活動資金は必要でその工夫は喫緊の課題である。

9) 支援者・協力者への活動報告

今年度も課題として残してしまった。遠方にも支援の輪が広がり多くの人に助けられてきたが、十分な活動報告をすることができなかった。コロナ禍で報告会に積極的にお誘いすることができなかったことや、オンラインでの開催もスムーズな周知ができなかった。子ども達や保護者の声が伝わる報告を届けられるよう取り組みたいと考えている。

10) 利用登録が終了した子ども達へのケア

「ゆーすぽーと」の1期生に当たる5人が高校を卒業する年齢になって、登録を終了することになった。5人それぞれが各々の道で頑張り、希望の進路を開拓していった。定時制の4年に在学して、好成績を修めて頑張っている子どももいる。残念ながら中退してしまった子もいたが、その子も学び直しを決意している。

1期生の進路

	ゆーすぽーと後の進路	4月からの進路
A 女	県立高 全日制 商業科	千葉子ども専門学校
B 男	県立高 全日制 普通科	千葉県立高等技術専門学校
C 男	県立高 全日制 普通科	千葉工業大学 工学部
D 男	県立高 定時制 普通科	4年在学中 学年2番の成績
E 女	特別支援学校 高等部	学び直し

「ゆーすぽーと」の規定では、高校卒業年齢に達した時点で登録終了としている。しかし、まだまだ彼らには多くの試練が待ち受けていることが予想され、長期の見守りが必要と考えている。後輩へのモデルともなるので後輩を含めて同窓会を開いて、つながりを保って励ましていきたいと考えている。

第3章 今後に向けて（まとめ）

1) 実践を通じてみえてきたこと、感じたこと

当法人は、2017年度～2020年度の4か年にわたり、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮状態にある家庭の子どもや子育てが困難な家庭の子どもを中心に「学習支援、社会体験、居場所づくり、食事提供、相談支援、アウトリーチ、送迎支援、保護的支援」など多機能な支援を、出会う子どもやその家庭にあわせて、時機を見極め、適切なステージで必要な支援を実施してきた。

実際取り組む中で、子どもたちの表情が明るくなること、言葉数が増えること、物事へ取り組む意欲や関心が広がっていくこと、しっかりと進学ができたこと等、多くの成果が見えた。支援にあたる私たちも、子どもの支援を軸に、福祉や子ども、教育、地域の人・団体等が、一緒に課題を共有し、考え・取り組むつながりを作ることができた。

一方で、支援を求める子どもと家庭が多くあることに驚くとともに、そうしたニーズに応えるだけの受け皿づくりを、一定のエリア内で、個人情報を保ちつつ、限られた人材と財源等で進めることの難しさを痛感している。また、多くのニーズに応えていく中で、人数が一定以上となると、個々のニーズに応えにくくなる状況や集団の中で子ども同士の関係性が難しくなり、子どもの居場所としての機能が、一部の子どもには機能しにくくなる状況も実感した。

また、ファミリーサポートを行っている家庭については、包括的な支援が求められる中で、子どもの今望む暮らしを中心に据えて、子ども本人と家族、教育委員会、学校、福祉事務所、市のこども課等関係機関の連携や協働していく調整の役割の一翼を担えていることは、大きな成果であると感じている。

こうした取り組みは、ある意味ボランティアなものである。しかし、時に制度や仕組み、組織等の隙間を柔軟かつ迅速に埋められるのは、ボランティアだからこそかもしれないとも実感している。

一方で、過去の報告書でも示しているように、こうした取り組みを維持・継続をしていくためには、なんらかの財源や位置づけが必要であると考えている。

私たちが支援を通じて出会った子ども達やその保護者・家族の状況は、その人達固有のものでも、東金や大網白里、千葉市等の特有のものではなく、どの地域でも日常に起きていること、また誰しもの隣合わせにあるものであるため、他地域へ広げるためには、現行制度の見直し又は隙間を埋める仕組みづくりが必要である。

今後に向けて、当法人が取り組むべきは、4年間の実践をより深化させていくと同時に、支援やネットワークを途切らせないための事業化と財源の確保、社会的な仕組み化への提案だと考えている。

2) 次年度の取り組み

これまで同様、子育てが困難な状況にある家庭の子どもや困窮世帯の子どもの家庭を対象に、子ども一人ひとりが、夢や希望を持ち、生き抜く力を身につけることや、貧困や不安定な家庭環境の連鎖を断ち切るための直接支援、環境づくりをすることを念頭に取り組みを深めていきたいと考えている。

特に、より複雑に絡む複合的な課題を抱える世帯を支えるための子ども多機能型支援拠点の深化とその実践の紹介啓発を進めるとともに、大網白里市や千葉市に拡がった拠点とネットワークも生かしながら、共感者や協力機関・団体を増やし、「(仮称) 子どもサポートバンク」のようなものをつくっていききたいと考えている。

参考資料

＜教育・福祉関係機関用＞

2020年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
＜子ども多機能型支援拠点の普及・推進事業＞

学び舎 ゆーすぽーと

家庭内に多様な課題を抱える子どもや
生活困窮状態にある家庭の子どもに、

- ✿ 話せる場
- ✿ 社会・生活体験の場
- ✿ 学習習慣を身に着ける支援、
- ✿ バランスのとれた食事提供
- ✿ 保護者等への相談支援 等

子どもを包括的に支える活動を展開しております。

なにかございましたら、ぜひお気軽にご相談ください。
お待ちしております。

＜お問い合わせ先＞

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
学び舎・ゆーすぽーと

0475 - 86 - 6543

(担当：藤田・福島)

【利用対象】

基本、東金市内の小学生・中学生
※高校生及び市外からの利用は要相談

【活動日・時間】

月曜日、水曜日、木曜日、土曜日の週4日活動
平日：15：30～19：30
土曜：14：00～18：00
祝日：14：00～18：00
(※：学校の長期休業中は、9：00～13：00になります)

【活動概要】

- ①居場所の提供
- ②社会・生活体験の場
- ③学習支援
- ④食事提供
- ⑤相談支援
- ⑥その他

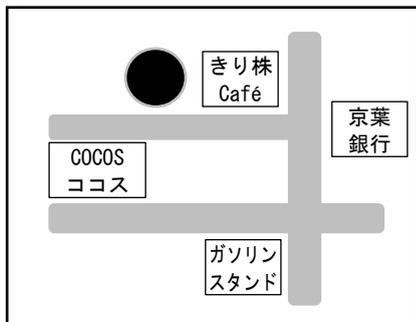
【利用方法】

家庭教育相談員、民生児童委員、学校関係、
各種相談支援機関、行政機関等からの紹介を
基本とします。

【料金等】

利用に伴う料金や実費負担はありません。

【場所・地図】



※東金駅より車で5分。
徒歩 15分
東金市東新宿 12-25



【サテライト運営】

東金市福岡地区で、地域密着のサテライト拠点も運営しています。

【運営】

学び舎・ゆーすぽーとは、独立行政法人福祉医療機構からの助成と地域・専門職のボランティア活動、多大な寄附・寄贈、子ども達の互助により運営されています。

<p>【連絡先】 学び舎・ゆーすぽーと 〒283-0006 千葉県東金市東新宿 12-25 Tel:0475-86-6543 Fax:0475-86-6544 E-mail:usp@vega.ocn.ne.jp 担当：藤田、福島</p>	<p>【運営法人】 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎 〒283-0802 千葉県東金市東金 425-2 Tel:0475-53-3630 Fax:0475-53-3631 http://www.chibasha.com 担当：川島、太齋</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



無料塾

+すいっち

「+すいっち」は、あなたのスイッチ（やる気）が入るきっかけを提供する中学生を対象とした学習の場です。そして、高校受験に備えて学力UPを支援する場でもあります。どうぞ、ご利用ください。

+すいっちの特徴

- 入会金、授業料、教材費など全て無料
- 進路に応じた個別指導
- 受験指導のベテランがお手伝い
- 数学や英語を中心に5教科の学習支援

場 所：東金市東新宿12-25「学び舎・ゆーすぽーと」
（ココス裏、カフェ「きり株」横の民家）

開所日：毎週 水曜日（祝日も実施）

時 間：18時30分～20時30分
（長期休業中・祝日：13：30～15：30）

申 込：お電話にてお願いします。質問・相談・見学も
お気軽にどうぞ。

電話：0475-86-6543 / 携帯：070-4083-7999

※受付日時

月・水・木・土曜日 15：00～18：00

運営法人：特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
千葉県東金市東金425-2 / 電話：0475-53-3630
後 援：東金市、東金市教育委員会



無料塾

+すいっち

「+すいっち」は、あなたのスイッチ（やる気）が入るきっかけを提供する中学生を対象とした学習の場です。そして、高校受験に備えて学力UPを支援する場でもあります。どうぞ、ご利用ください。

+すいっちの特徴

- 入会金、授業料、教材費など全て無料
- 進路に応じた個別指導
- 受験指導のベテランがお手伝い
- 数学や英語を中心に5教科の学習支援

場 所：大網白里市大網131-2「福社会館F2 研修室」

開所日：毎週 水曜日（祝日も実施）

時 間：18時30分～20時30分
（長期休業中・祝日：14：00～16：00）

申 込：お電話にてお願いします。質問・相談・見学も
お気軽にどうぞ。

電話：0475-86-6543 / 携帯：070-4083-7999

※受付日時

月・水・木・土曜日 15：00～18：00

運営法人：特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
千葉県東金市東金425-2 / 電話：0475-53-3630
後 援：大網白里市、大網白里市教育委員会

学び舎・ゆーすぽーと 中間報告会

「学び舎・ゆーすぽーと」は、
独立行政法人福祉医療機構(WAM)の社会福祉振興助成事業を受け、
2017年度から実施している事業です。地域に拠点と専門の職員を配置し、
「相談支援、居場所、学習支援、体験支援、食事支援、送迎」等の多機能支援を行い、
現状の問題からの脱却や子どもが自律できる力を育むことを目的に実施しています。

参加費
無料
事前申込必要

- 日時 2020年 **11/12** 木 13:30～16:30 (受付13:00～)
- 場所 大網白里市保健文化センター (千葉県大網白里市大網100番2)
- 定員 40名
- 対象 子どもの育成・地域支援活動に携わるボランティア・市民活動、教育関係者、
児童養護等の関係者、子どもの貧困・生活困窮者支援に関心のある方、自治体関係者
※Zoomでの聴講をご希望の方は、ご相談ください。

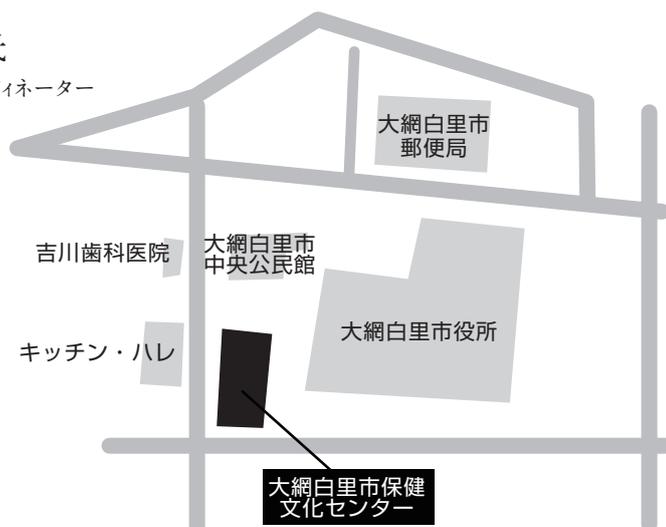
1 基調講演

「子どもが夢と希望をもてる社会・地域づくりに向けて
～キッズドアの取り組みから～」



講師 東 操 (ひがし・みさお) 氏

NPO法人キッズドア教育支援事業部チーフコーディネーター



2 活動報告

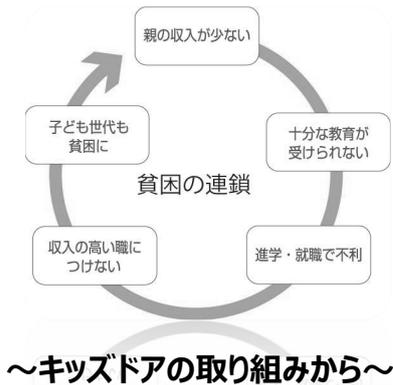
- 学び舎・ゆーすぽーと
- 無料塾「+すいっち」

3 意見交換

参加申込書 ※下記の参加申込書に記入の上、FAXにてお申込み下さい。なお、電話でのお申込みもお待ちしております。

参加者氏名 ①		所属	
参加者氏名 ②		所属	

子どもが夢と希望をもてる社会・地域づくりに向けて



1

キッズドアは、「子どもの貧困」解決に取り組むNPOです

わたしたちキッズドアは、貧困に苦しむ日本の子どもたちの社会へのドアを開けるべく、多くの大学生・社会人ボランティアと共に、子どもの教育支援に特化した活動を展開しています。

団体概要

名称	特定非営利活動法人キッズドア(NPO Kids' Door)
設立	2007年1月
理事長	渡辺 由典子
URL	http://www.kidsdoor.net

設立の背景

生まれてきた環境や災害によって、子どもたちの将来の夢や希望に不平等が生じる社会はおかしい、貧困などの困難な環境にある子どもたちにも、フェアなチャンスのある社会システムを作りたいと思い、キッズドアを設立しました。
進学をあきらめてしまったら、就職にも不利になり、収入の高い職に就く事が出来なければ、その子どもたちも、また貧困の問題を抱えてしまいます。この貧困の連鎖を断ち切る為に、子どもたちに進学する喜びを伝えたいとの思いから、子どものための無料の学習支援を中心に活動しています。



- 1 日本の子どもの貧困の背景と実態
- 2 キッズドアの活動と教育格差の背景
- 3 税の再分配の見直し
- 4 次の対策

3

新しい社会課題 日本の子どもの貧困の実態は非常に厳しい

日本の子どもの相対的貧困率は、先進国の中で上位
日本にも満足にご飯が食べられない子どもはいます。



1/7
子どもの7人に1人が貧困

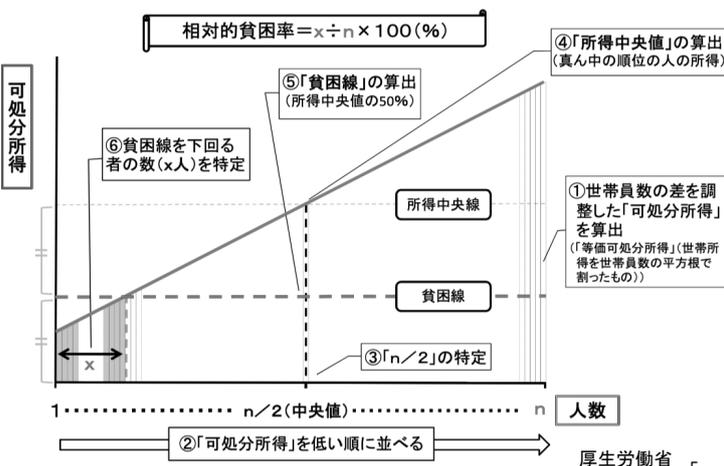
保護者1人+子ども1人
年間172万円未満で暮らす生活
OECD加盟34カ国中9番目



48.1%
ひとり親家庭の子ども
2人に1人は貧困です

ひとり親家庭の貧困率は、
OECD加盟34カ国中1番

4



相対的貧困とは

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準(貧困線)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合。

貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分の額。

最新の貧困線
2人世帯 約172万円未満
3人世帯 約211万円未満
4人世帯 約244万円未満

今日食べる物も寝る所も無い状況とまではいかないが、社会の標準的な所得の半分以下の所得しかなく、「周りの人は当たり前」にできている生活が、お金がないためにできない」という状態をさします。



6

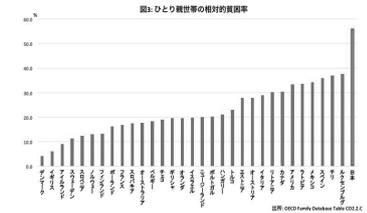
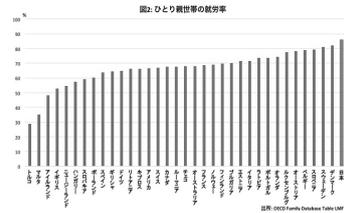
	母子世帯	父子世帯	児童のいる世帯
就業率	82%	85%	
	正規	68%	
	非正規	32%	
平均年間就労収入	200万円	420万円	708万円
平均収入*1	243万円	398万円	
世帯の収入*2	348万円	573万円	
正規職員の年間就労収入	305万円		
パートアルバイトの年間就労収入	133万円		

厚生労働省 平成28年度全国ひとり親世帯等調査結果報告より作成

7

ひとり親世帯の就労率
先進国 1 位

ひとり親世帯の相対的貧困率
先進国 1 位



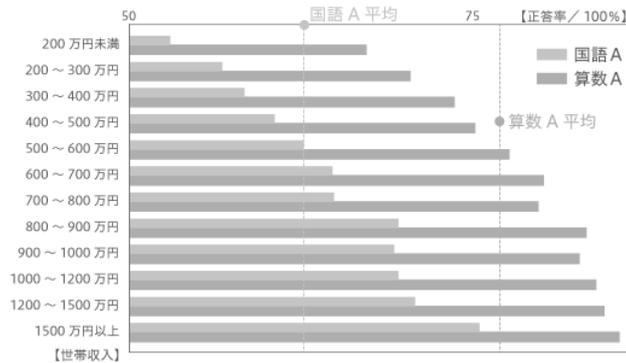
世界一働いているのに、世界一貧困な日本のひとり親
= 世界一のワーキングプア

子どもの貧困は自己責任ではなく、社会構造の欠陥が作り出している

8

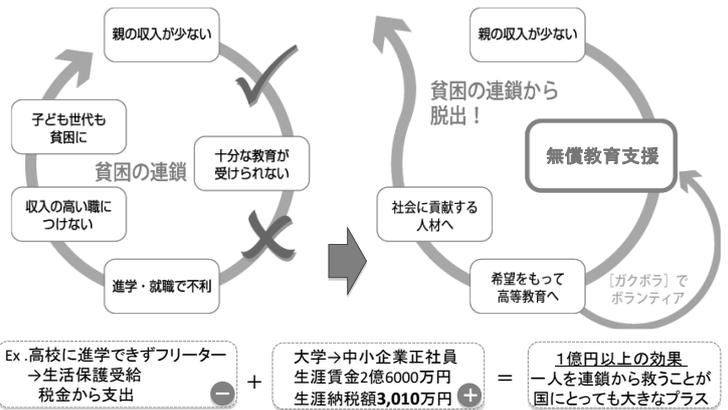
教育格差—親の収入で子どもの学力が決まる

世帯年収と子どもの学力(小学6年生)



出典：国立大学法人お茶の水女子大学「平成25年度全国学力調査の結果を活用した学力に与える要因分析に関する調査研究」
公益財団法人チャンスフォーチャイルドRENHPより

9



Ex. 高校に進学できずフリーター → 生活保護受給 税金から支出 $-$ + 大学→中小企業正社員 生涯賃金2億6000万円 生涯納税額3,010万円 $+$ = 1億円以上の効果 一人を連鎖から救うことが 国にとっても大きなプラス

日本財団の試算
現在15歳の1学年だけでも経済的損失は2.9兆円、社会福祉費の増加が1.1兆円

10

子どもの貧困課題の特徴

- 1 社会構造問題
自己責任ではない。自助努力では解決しない
- 2 福祉と将来的投資が両立する、新しい社会保障領域
- 3 福祉・教育・労働政策の融合が有効
- 4 子どもの貧困と少子化の原因は同じ
貧困層だけの問題ではない

11

- 1 日本の子どもの貧困の背景と実態
- 2 キッズドアの活動と教育格差の背景
- 3 税の再分配の見直し
- 4 次の対策

12

2019年度キッズドア無料学習会・居場所運営実績

事業数	学習会拠点数	登録生徒数	登録ボランティア数
21事業	76か所	1960名	1048名

高校進学 進学率100%
大学受験 東北大・北大・立教大学など難関校にも進学



塾や家庭教師に行かせられないというだけではなく
生活環境が大きく影響している。

住環境

家が狭く、勉強部屋がありません。宿題をやろうとすると、保育園の妹が邪魔をして、ドリルやノートをぐちゃぐちゃにしまいます

時間の貧困

母子家庭で、正社員につけないため、低賃金のパートをWワーク、トリプルワーク。子どもは家で勉強をみてもらうことができない

教育へのわずかな投資ができない

家にはパソコンがない。参考書や問題集を買うのも大変。模試が受けられない

学習支援事業の種類

アウトリーチ型学習支援・家庭教師型学習支援

公共交通機関がない地方や、集団に入ることが難しい子どもの家庭に、学習支援員が出向いて勉強を教える

塾型学習支援

週1回2時間など、曜日や時間を決めて、子どもを集めて勉強を教えている。受験対策など学習塾に近い形から、空いている時間に自由に来て勉強する自習室型、勉強だけではなく生徒が自由に過ごせる居場所に近い形態まで様々な事業がある

居場所型学習支援

物件を借り上げる等で、毎日子どもたちが来られる施設。学習支援のほか、食事の提供等の生活支援、様々な体験活動などを行う事業

クーポンや塾代の補助

学習塾や習い事に通う費用を負担する事業



塾型学習支援



居場所型学習支援

物件を借り上げる等で、毎日子どもたちが来られる施設。学習支援のほか、食事の提供等の生活支援、様々な体験活動などを実施し子どもの成長を支える。家庭に安心して勉強できるスペースがない、ひとり親家庭で親が仕事のため夜間及び放課後は子どもだけで過ごしている、虐待等、家庭基盤が脆弱な子どもたちの「第2の家」



平日
毎日午後3時～8時までオープン
夕食として軽食を提供
6時～8時 学習タイム
登録した子どもは毎日こられる

休日・夏季休暇・冬季休暇
毎日午前11時～午後8時までオープン
昼食・夕食として軽食を提供
6時～8時 学習タイム
様々な体験活動も提供
・職場体験
・ワークショップ
・企業との共同イベントなど

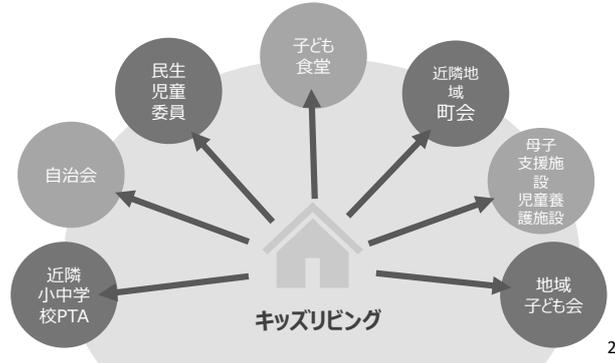
様々な体験活動を居場所内・外で実施することで、不足している文化的資本や社会関係資本を蓄積することを重視



19

地域との協力関係の構築

「親の自己責任論」による偏見がオープン当初はあったが、地域の関係者のみなさんが「居場所型学習会」と活動を通して関わることで偏見が払拭。「キッズリビング」に来ている子どもたちは、何も特別な子どもでもなくいい子ばかりだねという言葉をいただくようになりました。



20

2017~2018公益財団法人三菱財団の助成を受け、教育格差背景調査を実施
生活困窮家庭の子どもたちの学習習慣と学力から教育格差の要因を探る
(文部科学省の学力調査ではわからない)

- ・耳塚寛明教授
(元お茶の水女子大学基幹研究員/
現青山学院大学
文部科学省全国的な学力調査に
関する専門家会議座長など)
- ・株式会社インテジリサーチ

2018年10月2日
文部科学省記者クラブで
記者会見を実施



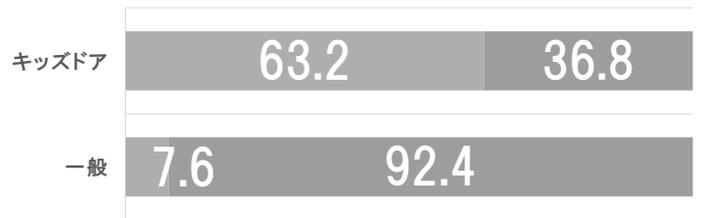
21

子ども貧困の実態

キッズドアの学習会に通う生徒及び保護者にアンケート調査を実施

ひとり親世帯の比率(%)

■ひとり親 ■二人親

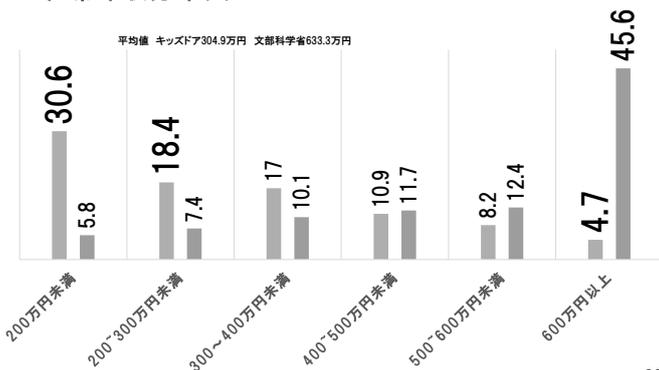


22

子ども貧困の実態

年収200万円未満が30.6% 300万円未満が49%

世帯年収分布(%) ■キッズドア ■文部科学省

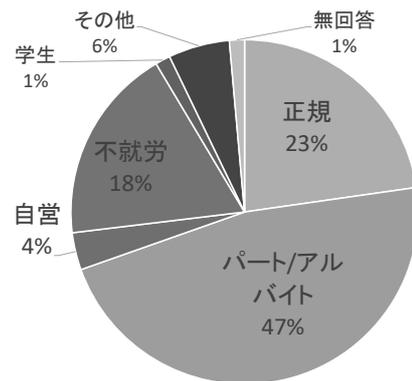


23

子ども貧困の実態

お子さんのお母さんの就労状況を教えてください。

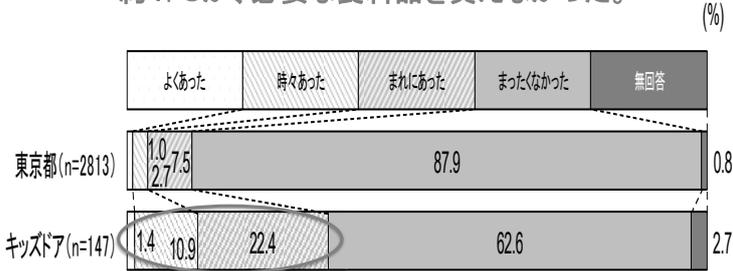
「パート・アルバイト」が47%と最も高い



24

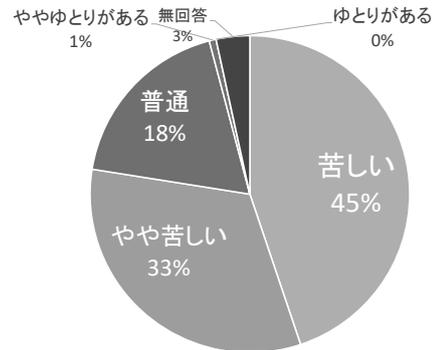
過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食糧が買えないことがありましたか。

約1/3が、必要な食料品を買えなかった。



現在のご自身の生活についてどのように感じていますか。

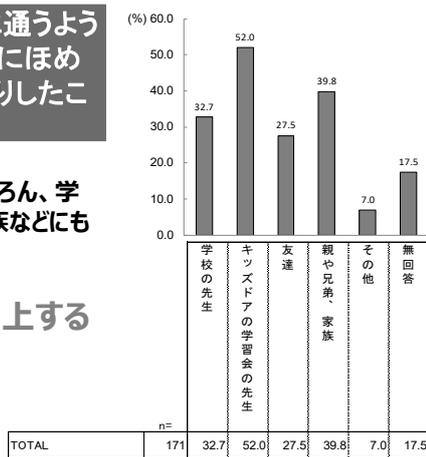
苦しい 45% + やや苦しい 33% = 78%



キッズドアの学習会に通うようになってから、だれかにほめられたり、認められたりしたことはありますか。

キッズドアのスタッフはもちろん、学校の先生、親や兄弟・家族などにも褒められる

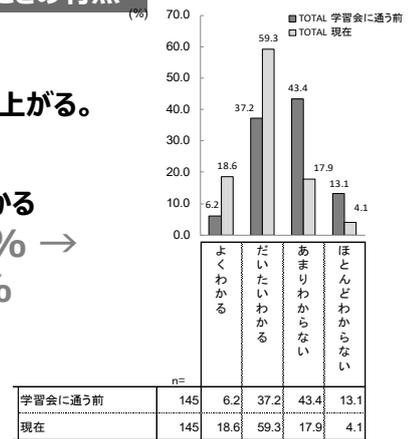
= 自己肯定感が向上する



学校の授業でわからないことの有無

学習会に来ることで、学校の授業の理解度が上がる。

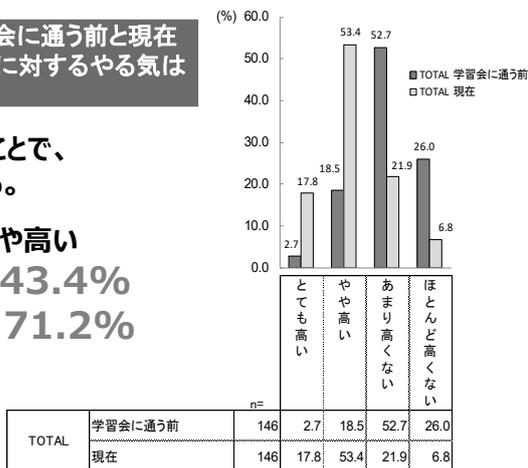
よくわかる+だいたいわかる (通う前) 43.4% → (現在) 77.9%



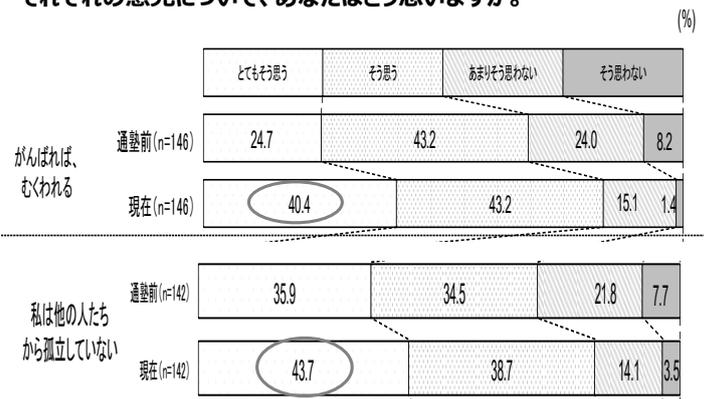
キッズドアの学習会に通う前と現在で、あなたの勉強に対するやる気はどうですか。

学習会に来ることで、やる気も上がる。

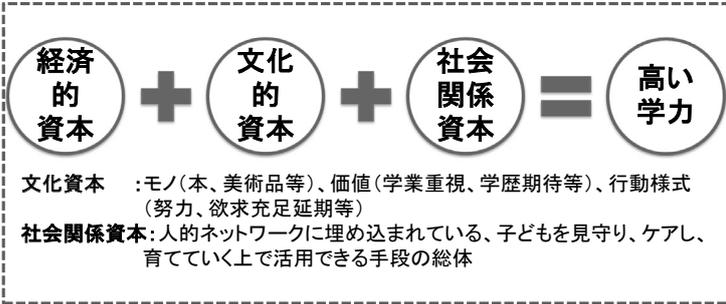
とても高い+やや高い (通う前) 43.4% (現在) 71.2%



学習会前後の意識の変化 それぞれの意見について、あなたはどのように思いますか。



経済的資本（学習支援や生活支援）に加えて、**文化的資本、社会的資本**を居場所で**充足**することで子どもの健全な成長・学力向上につながる



お茶の水女子大学・耳塚寛明教授調査資料より 31



- 1 日本の子どもの貧困の背景と実態
- 2 キッズドアの活動と教育格差の背景
- 3 税の再分配の見直し
- 4 次の対策

33

日本の所得再分配の特徴

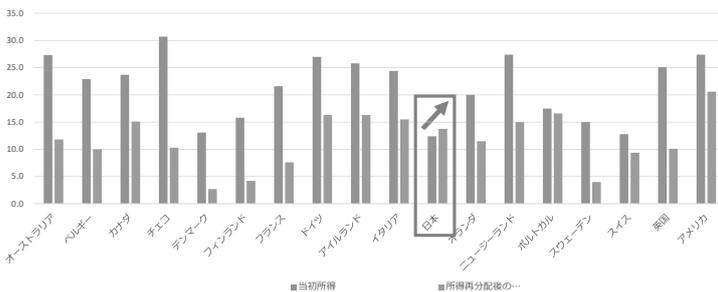
- 労働年齢層への社会保障給付が少ない
- 税による再分配が小さい
- 家族政策支出が少ない

⇒子どものいる世帯の貧困率が改善されない。

34

所得再分配効果が弱く、日本は、OECD諸国の中で唯一再分配後の貧困率が再分配前より高くなっている。

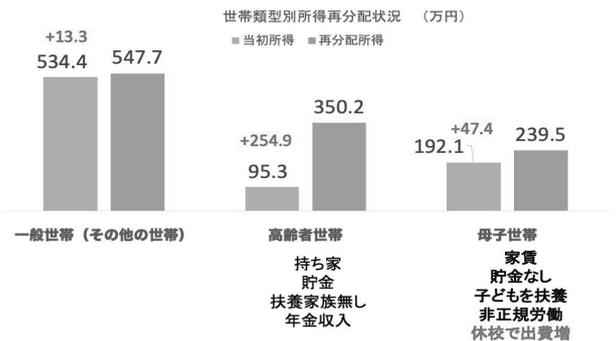
図表4-1-2 子ども貧困率、当初所得と再分配後の比較



出典：資料：OECD「Growing Unequal? (2008)」より厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室作成

35

日本は子ども・若者・子育て世帯への再分配が極端に少ない



平成26年所得再分配調査報告書(厚生労働省政策統括官/総合政策担当)「子どもの貧困 未来へつなぐためにできること」(水曜社)

36

1 日本の子どもの貧困の背景と実態

2 キッズドアの活動と教育格差の背景

3 税の再分配の見直し

4 次の対策

37

- 日本では未だ義務教育が中学校までなので、**中学卒業後の10代に対する養育や教育の支援がほとんどない**
- その結果、**低所得家庭の高校生世代（15～20歳くらいまで）は、生活費を自ら稼ぎながら勉強しなければならず、中退などにつながっている。**

児童手当	乳幼児 0-3歳 15,000円 3-6歳 10,000円	小学校 10,000円 第3子以降 15,000円	中学校 一律 10,000円	高校 0円 二番お金がかかる時に打ち切り	大学・専門学校 0円
主な支出	ミルク、おむつ ・医療無償拡大 幼児教育 無償化へ	食費	食費 住環境 制服 部活 塾	食費 住環境 通学定期 制服 部活 塾 等	
教育費用	乳幼児 幼児教育無償化	小学校 義務教育	中学校 義務教育	高校 公立高校無償	大学・専門学校 高額な私費負担 ↓ 給付型奨学金

1日も早く児童手当の高校生までの延長を

38

参考：諸外国の児童手当

- イギリスー児童手当16歳未満
全日制教育又は無報酬の就労訓練を受けている場合は20歳未満
- フランスー家族手当20歳未満
- ドイツー児童手当18歳未満
失業者は21歳未満、学生等（職業訓練課程にある者を含む）は25歳未満
- スウェーデンー児童手当16歳未満
（多子割増手当については16歳以上20歳未満の生徒にも）

平成21年9月11日 国立国会図書館 調査及び立法考査局 社会労働調査室・課
39

高校中退の経済損失試算

高校中退53000人/年

高卒資格がないため正社員になるのはむずかしい。
非正規雇用やニート・ひきこもり等で社会から孤立しがち。

高卒正規雇用生涯賃金 1億9000万円
高校卒フリーター 5540万円
ニート・ひきこもり 0円/さらに社会保障費の減額や納税なども。

高校中退を減らし正規雇用につなげれば莫大な経済効果
1億3500万円+α/人（1億9000万円-5500万円）
5万人の中退予防で6.7兆円+α

40

足立区 竹の塚 Reline (リライン)



現状の支援ー若者サポートステーション等

様々な理由で高校中退 ← ニート・ひきこもり 期間10年以上 経済的損失発生 (本人や家族も辛い) → 若者サポートステーション等(～39歳) 自立相談支援、就労支援等を実施。
社会からの逸脱期間が長いほど すぐに正社員になるのは難しい 結婚や子どもを持つのも難しい

社会的孤立の期間が長いために自立のためには大変な労力とコストと期間 (1年以上の支援が必要なケースも)

- 高校を中退した15～20歳の子どもに就労支援は厳しい。学力やソーシャルスキルに課題がある子どもも多い。
- 学び直しの場を用意して「高校卒業」の資格をとり、オントラックにのせる支援が必要

42

貧困の連鎖を断ち切り・大人の引きこもりを
予防するためには高校生世代を支えることが重要

高校や福祉機関と連携し

- ・中退前に学業フォロー
- ・中退後の切れ目ない支援

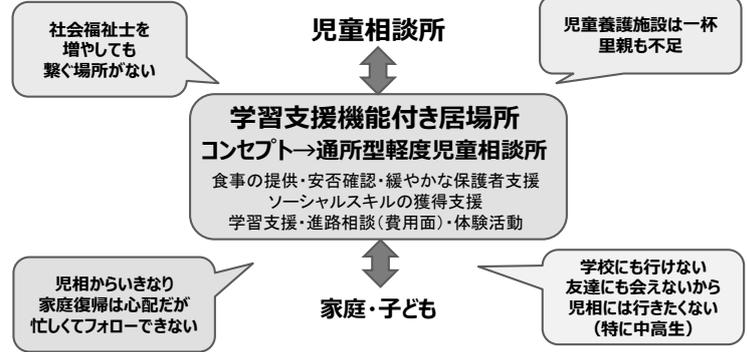
社会的孤立やブランクなく就職へ
(本人も家族も幸せ)

就労
結婚
出産等

早期の支援で、社会的孤立期間をなくし、
経済的損失と福祉支援を最小限にできる。

虐待予防や重篤化予防としての学習支援機能付き居場所の機能強化

毎日開けて夜ご飯も提供(夏休み等長期休みは昼ごはんも提供)
スタッフが子どもや保護者の相談となる



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



学校だけが教育を司るのではなく
社会全体で子どもを育てる・教育する
誰もが豊かな教育を享受できる国へ



“子どもの学習と生活支援” を考えるつどい

参加費
無料
事前申込必要

●日時 2021年 **3/24** 水 18:30~20:30 (受付18:00~)

●開催方法 このつどいは、ZOOMで開催します。

●定員 40名

●対象 子どもの育成・地域支援活動に関わるボランティア、教育関係者、児童養護等の関係者、
子どもの貧困・生活困窮者支援に関心のある方、千葉県内の生活困窮者自立支援法に基づ
く学習支援事業を実施している事業者、生活困窮者自立相談支援機関、自治体関係者

●内容

18:30~18:40 開会

18:40~19:40

第1部 子どもの学習・生活支援事業・活動の実際

「学び舎・ゆーすぽーと」「無料塾+すいっち」(東金市 他) コーディネーター 藤田 実
いちほら生活相談サポートセンター(市原市) センター長 大戸 優子
らいふあっぷ習志野(習志野市) 主任相談員 渡辺 伽奈

19:40~20:30

第2部 情報交換&意見交換会

20:30 閉会

●開催に際しての留意事項

- ・できる限り、事前の申し込みをお願いいたします。
- ・録音・録画は固くお断りいたします。
- ・参加にあたっては、表示名に所属とお名前をお願いします。

参加申込書 ※下記の参加申込書に記入の上、メールまたはFAX、お電話にてお申込み下さい。 **FAX 0475-53-3631**

参加者氏名		所 属	
電 話		F A X	
E - m a i l			

●主催 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎(担当:川島・渡邊)

〒283-0802 東金市東金425-2 Tel:0475-53-3630 E-mail:chibasha@cosmos.ocn.ne.jp

後援 千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク

市原市における 子どもの学習・生活支援事業 の取り組み

いちほら生活相談サポートセンター
センター長・主任相談支援員 大戸優子

1. 市原市概況①

人口分布や産業特性などから
「千葉県の縮図」と言われている

<成り立ち>

昭和38年, 5町合併し発足。昭和42年, 2町村が合併。

<位置・面積>

千葉市の南隣に位置し8町村と隣接。面積368km²

<産業>

第1次産業…稲作中心。梨やいちじくなどの果樹, 自然薯の生産量が高い。「姉崎だいこん」のブランド化やジビエ(いのしし)開発が盛ん。

第2次産業…東京湾沿いに集中して日本有数の石油コンビナートや造船所, 化学工場がある。製造出荷量は全国トップクラス。

第3次産業…ゴルフ場数は全国一。南部には養老渓谷や小湊鉄道トロッコ列車, 市原ぞうの国などの観光資源がある。チバニアンも。



1. 市原市概況②

<統計>

■人口 274,623人 / 128,150世帯 (R2.7.1現在)

(内訳) 年少人口 31,261人 11.4%

生産人口 162,932人 59.3%

高齢人口 80,430人 29.3%

高齢化率は地区により
14.4%~50.1%の
開きがある!

■障害者手帳所持者 12,473人 (H31.4.1現在)

(内訳) 身体 8,518人

知的 2,058人

精神 1,897人

■ひとり親世帯 2,503世帯 (H30.4.1現在)

■在留外国人 5,783人 (R1.5.1現在)

■生活保護受給者 4,873人 / 3,843世帯 保護率1.80%

(H31.3.31現在)

2. いちほら生活相談サポートセンターの概要①

主管	市原市保健福祉部 地域包括ケア推進課 地域共生係
受託	社会福祉法人ききょう会
実施事業	1) 自立相談支援事業(必須事業) 2) 住居確保給付金の支給(必須事業) 3) 就労準備支援事業(任意事業) 4) 家計改善支援事業(任意事業) 5) 子どもの学習・生活支援事業(任意事業)
職員配置	主任相談支援員1人工, 事務員2人工 支援員(相談・就労・就労準備・家計改善・学習)6人工

2. いちほら生活相談サポートセンターの概要②

▶ 開設状況

月～金(祝日・年末年始除く)
8:30～17:30

▶ 立地

市原市東国分寺台(市役所通り沿い)
市役所から約1.5km
市社協から約700m
法人所有の建物で中核地域生活支援センターと同居(同法人が受託)

センター外観



2. いちほら生活相談サポートセンターの概要③

	いちほら生活相談サポートセンター 新規相談受付件数【R2は速報値】												(件)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平成27年度	73	51	45	45	37	28	30	30	23	37	36	31	466
平成28年度	32	28	34	29	29	34	32	26	33	36	35	34	382
平成29年度	34	38	27	43	30	44	28	37	21	33	31	28	394
平成30年度	23	24	39	24	36	30	32	32	14	29	24	38	345
令和元年度	23	38	27	26	24	26	31	27	21	30	32	28	333
令和2年度	150	250	102	105	135	109	156	85	83	100	131		1,406

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言 ①令和2年4月7日～令和2年5月25日 ②令和3年1月7日～令和3年3月21日

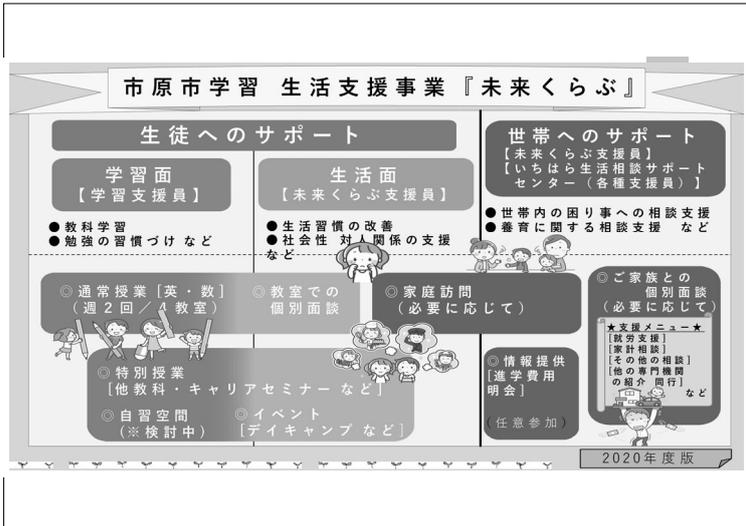
3. 市原市子どもの学習・生活支援事業の実際①

受講対象	生活保護および就学援助を受給している世帯で、勉強に意欲のある中学1～3年生
内容	数学・英語の参考書やプリント学習、または教科書・ワークの予習復習等(生徒の習熟度に応じた少人数制学習指導) 生徒と保護者への学習や生活に関するアドバイスなど
参加費	無料
会場・定員 受講日時	市内の公共施設 4会場(各会場30名) 八幡宿教室・菊間教室 月・木曜日 18:00～20:00 五井教室・姉崎教室 火・金曜日 18:00～20:00 (8月までは夏時間として18:30～20:30)
学習支援員	教員OBや大学生など年度ごとの登録制。例年約40名程度

3. 市原市子どもの学習・生活支援事業の実際②

- ・開設状況 平成27年7月に1か所目となる五井教室を開設。同年9月に八幡宿教室、翌10月に姉崎教室を開設。平成28年4月から菊間教室を開設した。
- ・事務局体制 開設から平成28年7月までは法人本部が事務局を担当。同年8月よりいちほら生活相談サポートセンターが担当。

	H27	H28	H29	H30	R1 コロナによる影響有	R2(2月まで) コロナによる影響有
実施回数	152	322	320	337	306	221
受講者数 (延べ人数)	48 (1,690)	86 (4,430)	86 (4,306)	94 (5,212)	96 (4,213)	62 (2,384)
学習支援員数 (延べ人数)	***	(1,782)	(2,020)	(2,291)	(2,071)	(1,540)
巡回	***	117	131	112	119	96
生活支援	***	***	***	***	545	574



特徴的な取り組み①自立相談支援+家計改善支援+子どもの学習・生活支援 …一体的に受託している強みを発揮し世帯全体を支援

<事例1>

外国籍の母と中3の子の世帯

- ①母が子の受験を心配して学習支援を希望。世帯の困りごと全体を聞き取り
- ②学習支援・食料支援からスタート
- ③家計改善支援と就労支援を実施、母が就労
- ④高校合格、入学手続きや進学費用の貸付手続きなどを支援
- ⑤転居による家賃軽減、子がアルバイトを始め家計を助ける

この事例は、厚生労働省発行
生活困窮者自立支援
ニュースレター
No.30(R1.7.4発行)
に詳しく載っています。
ぜひ見てね!

<https://www.mhlw.go.jp/content/000558476.pdf>

<事例2>

精神疾患の母とヤングケアラーの高校生、不登校の中学生の世帯

- ①高校生は未来くらぶの卒業生、不登校の中学生も未来くらぶに所属している
- ②高校生に家事やアルバイトの負担が重くのしかかっていた。高校のSSWと連携
- ③相談支援員と学習支援担当が家庭訪問を繰り返し、食料支援や中学生の宿題指導
- ④高校合格、入学手続きや進学費用の貸付手続きなどを支援

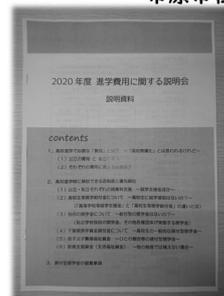
特徴的な取り組み②地域の人材を活かす

…教員OBやシニア、大学生などが学習支援員として活躍



特徴的な取り組み③関係機関との連携…進学費用説明会

市原市地域包括ケア推進課
市原市子ども福祉課 ひとり親支援担当
市原市社会福祉協議会 貸付担当 によりかけ実施



特徴的な取り組み④法人の資源を活かす
 …自然豊かな吉沢学園でのデイキャンプ

生徒も学習支援員も授業とは違った面を発見できる。
 法人本部の施設・設備・人員をフル活用。



地域の理解者や他法人からも寄付をいただき、レクの記念品や参加賞をプレゼント



特徴的な取り組み⑤支えられる側から支える側へ
 …今度は本人から他者へ力の発揮

特別授業『教えて!先輩』は、卒業後、後輩たちに受験の経験談や高校生活の様子を語る場。
 成長ぶりに学習支援員も目を細める。なかには学習支援員として戻ってくる子も。



3. 市原市子どもの学習・生活支援事業の実際③

<生徒・保護者の声>

- ・問題が解けたら、ほめてもらえてうれしかった
- ・わかるまで丁寧に教えてくれた
- ・わかるようになったらやる気が出た
- ・たまにお菓子とかもらえるのが良かった
- ・他校の子と友達になれて良かった
- ・先生に「こんなもの分からないの?」って言われて嫌だった
- ・帰りの車で、いつも楽しそうに授業の話をしていました
- ・家では全然勉強しないので、勉強の時間が確保できて良かった
- ・もっとほかの教科もやってもらえるとありがたいです
- ・今年は授業以外のイベントがなくて少し残念でした
- ・いろいろと(お米とか)いただけるのが助かりました



4. 見えてきた課題

- ・学力の低さ、自信のなさ
- ・不登校、発達障害、場面緘黙などへの配慮の必要性
- ・保護者の社会的スキルの低さ
- ・保護者への支援の不十分さ
- ・学習支援員の事業理解度や協調性の差
- ・教育委員会や学校との連携

経済的格差, 様々な機会の喪失, 社会の無理解
 子どもの前に立ちはだかる壁
 どう乗り越える? 私たちに何ができる?

5. まとめ(大事にしていること)

- ①表面的なニーズのみの対応に終始せず、問題の全体像と核心を捉える
- ②必須事業と任意事業の一体的実施の有効性を活かす
- ③地域の多くの機関・団体・人と連携する
- ④法人自体を1つの社会資源として活用する
- ⑤当事者をエンパワメントし『支えられる側』から『支える側』へ



自己決定支援を通じて本人の力を発揮してもらおう
 地域共生社会の実現へ

ちこネット(千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク) のご紹介

千葉県内の生活困窮者支援に関わる実務者による
「支援者を支援する」ネットワーク組織

- ▶ 実務者ミーティング(学びと交流の場)
- ▶ 県主催の新任者研修・従事者研修の企画・講師協力
- ▶ 部会活動(テーマ特化型活動)
- ▶ ちこネットニュースの発行
- ▶ メールによる情報共有
- ▶ 県内他団体との連携

ご清聴ありがとうございました。
これからもよろしくお願いいたします。

■いちほら生活相談サポートセンター
〒290-0074 市原市東国分寺台3-10-15
TEL 0436-37-3400 FAX 0436-37-2710
Email: ichihara.sapo@zb.wakwak.com



ワーカーズコープちば 事業の概要

出資高 ・5,300万円 (2019/3)	業務内容 ・18業種 ・31事業所 清掃部門・車両部門・宅配弁当・施設内厨房・病院内売店・生協商品の積込み他・生活困窮者自立相談・家計・就労準備・学習支援・一時生活支援・子どもナビゲーター放課後等デイサービス・フードバンクちば・職業訓練・子ども食堂・制服バンク・独自シェルター・オアシス農場	『ワーカーズコープちば』は一般の企業ではなく『働く人の協同組合』です
組合員数 ・約240人 (2019/3)	事業高 ・約4億3千万円 (2020/3)	

ワーカーズコープちば 生活困窮者支援事業

- 1987年 設立
- 2013年 千葉市稲毛区でモデル事業として受託開始
- 2015年 法制度本格稼働に伴い、習志野市より以前より打診のあった学習支援事業を含む、生活困窮者自立支援相談事業を受託
- 2016年 千葉市稲毛区相談支援事業及び習志野市相談事業・家計・学習支援継続して受託している。

らいふあっぷ習志野

2020.05

フリー★スタ

自立相談 → 住居確保 → 家計相談 → 学習・生活 → 就労準備

free★study フリー★スタデイ 習志野

らいふあっぷ習志野
学習支援事業 フリー★スタデイ習志野
管理者 渡辺 伽奈
企業組合 労協船橋事業団 (ワーカーズコープちば)

習志野市状況 (2020年)

市人口 約17万人

世帯数 約80,000世帯

中学校数 公立7校
私立1校

生徒数 3979人

フリスタ
登録生徒数 60人

フリスタ登録率
準要保護+生保/15.8%
中学生総数/1.5%

習志野市
高校進学率
99.1% (2019
年)

フリスタ
高校進学率
100% (過去3年
年)

事業概要

～『なぜ自分は高校に行きたいのか』言える力をつける！～

生き抜いていく力は子供時代に培われます。安心でき、よりどころとなる居場所があつてはじめて夢に向かっていくことができます。

当教室では、生徒自らの問題を生徒自らが考えることから始め、自己決定して進めています。さらに決めたことに責任が持てるよう一緒に考えています。学力向上を第一目標としていますが、高校への進学する理由を、自らの言葉で説明できる力をつける場とします。逆境でも負けない心を育て、本当にやりたいことを将来の夢として自分で決め育ていけるようサポートしています。

フリー★スタディ習志野の目指すもの

習志野市 学習支援経過

- ・ 開始時期 平成21年4月～
- ・ 事業名 生活保護世帯高校進学希望者学習支援事業
- ・ 対象年齢 中1～中3、高校生
- ・ 世帯要件 生活保護受給世帯
- ・ 事業形態 集合型
- ・ 事業担当課 保護課（現生活相談課）



平成27年4月より、新法制度化に伴い
ワーカーズコープちばに相談支援事業のもと事業委託

実施内容

個別学習支援

- ①通常講習 週2回（火・金曜日）2時間
午後6時～8時 年90回以上
- ②特別講習 夏休み・冬休み期間中 3時間
午後5時～8時 年20回以上
- ③居場所対策（自習室）
夏休み・冬休み期間中・入試直前
午後1時～8時 年43回
（夏期 冬期 入試直前に予定）

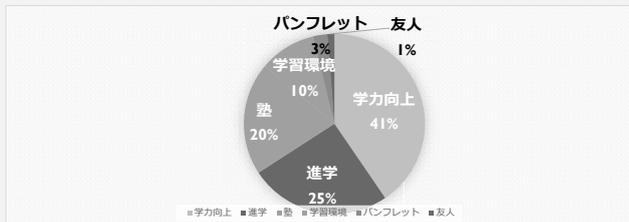


11

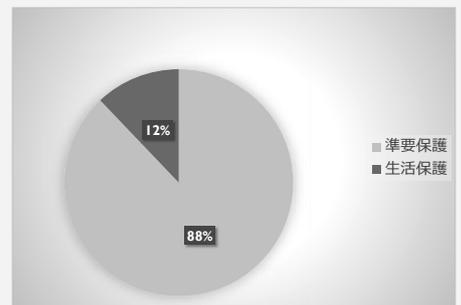
生徒の人数



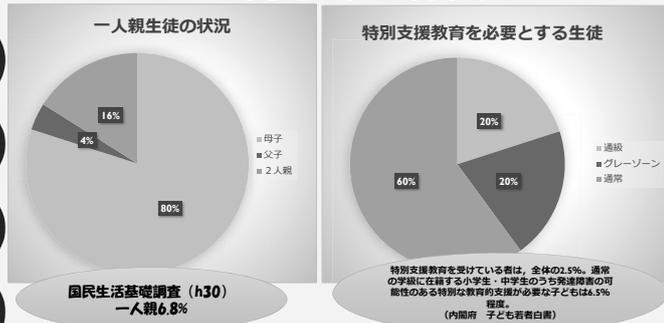
申し込みの動機



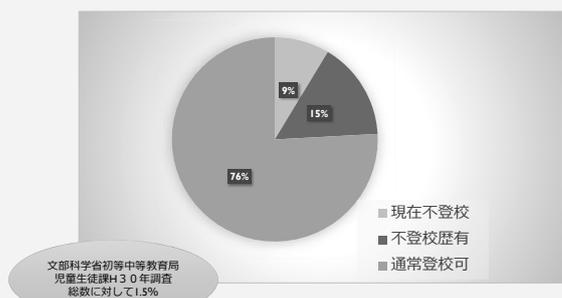
2018年度
世帯区分
の割合



フリースタディ習志野の特徴



学校に行きたくない



ミニ講座

講師の不登校
体験を語る



模擬試験



テストの心得三ヶ条

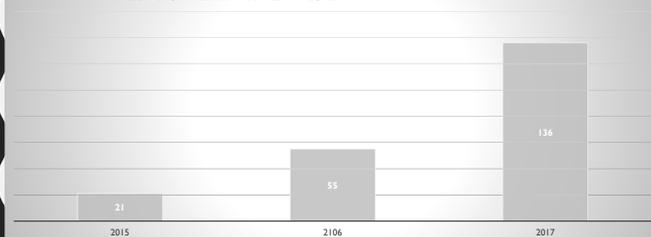
- 一、分からない問題はいつまでも考えず次の問題に進むべし
- 一、答えに自信がない問題には印をつけておくべし
- 一、時間が余ったら印をつけた問題をもう一度見直すべし

以上

講習時間外活動件数

学校訪問・家庭訪問・個別面談・同行支援・関係機関とのケース会議等

講習外 生活支援延べ時間数



フリ★スタの生徒が持っている課題

家庭環境

障がい

非行

いじめ

様々な課題を抱え
学習するためのスタートラインに立てずにいる

事例

学校では対処が難しい課題

- ・フリ★スタに通っていたのは中学2年から高校1年
- ・準要保護世帯
- ・家族は母親と兄
- ・中学時代 不登校気味
- ・母親の収入源は不明
- ・家はゴミ屋敷で、近所からもクレームが来る
- ・兄は中学時代から不登校・引きこもり
- ・PM7:00頃、パソコン屋の外にいた生徒をみつけ、声をかけると中に母がいるので待っているという。頻りにそのようなことがあった。
- ・夜、兄が部屋に来て、生徒のバックの中をチェックすることが頻繁にある。
- ・母親と兄が喧嘩し、母親と一緒に家を出たが、出先で母親と喧嘩になり、一人になって自死を考え友人に連絡をした。
- ・友人からフリ★スタに連絡があり捜索に向かった。

- ・母親と兄の課題が本人の状態に大きく影響している。家庭の課題を解決しなければ、学ぶための環境を作ることは難しい。いつでも相談に来れる安心できる場を提供している。
- ・学校と相談し、定期的なケース会議を開いた。
- ・パソコン屋に踏み込み、母親に注意するも、その後母親から攻撃があるようになった。
- ・家出したときに、自宅にいた兄を連れて警察に届け出を行い、捜索。
- ・金曜であったため、休みが明けるとまで一時的に、週明けに児童相談所へつないだ。
- ・高校へ出向き事情説明
- ・生徒はその後、自立支援ホームへ入所
- ・遊びに来て、愚痴をこぼすこともその後の様子……

講師

講師人数の推移と学生講師の割合



市和十学の協力



学習への姿勢

家庭学習を補う

本来ある学校の役割を重視

ポイント

本来習得すべき学校の勉強を、きちんとできるように勉強の設計を手伝ったり、環境を整えたり、つまづいてしまったところからやり直す支援を行うこと。

考える

- ・学習計画を立てる
- ・講師からの質問によって自らの考えを整理する

決定する

- ・計画の決定
- ・アドバイスを受けながら自分の進めたい方法を決定する

責任を持つ

- ・計画の実行
- ・自分で決めた計画に基づいて、アドバイスを受けながら、決めた時期まで実行する

振り返り

- ・『自分で決めた通りに進められたか』を振り返り、次につながる糸口を見つける

生活相談

家庭状況が少なからず学習に影響を及ぼすため相談機関との連携は必須

らいふあっぷ習志野という相談事業が内包する フリ★スタ(学習支援)

生活保護の担当部署が事業の主管 ケースワーカーとの連携

ポイント

- ・親を中心に据えるのではなく、子どもを中心に置く支援をおこなう。
- ・いつでも相談できる安心感を養う・居場所としての存在を生徒に持たせる
- ・講師のこだわりを持つこと
- ※塾にはない特徴として、現在受験の終わった高校が遊びに通ってきている。

生活を安定させると自ずと成績は上がってくる

地域とのつながりをつかう

東邦大学

- ・学生講師の募集協力現在3名
- ・進学への意欲向上のための見学ツアー

公立中学

- ・学校訪問
- ・生徒個別の相談
- ・生徒募集協力依頼(小学校含む)
- ・通級学級からの相談

各関係機関
(担当課以外)

- ・子育て支援課
- ・教育委員会
- ・総合教育センター

子育ての社会化を進めること
今後の可能性に期待

利用者から支援者へ

循環サイクル



支援される側から支援者へ



有りたい姿



学習環境（生活環境）を整えることは学習支援を行う上で必須



ご清聴ありがとうございました

**令和2年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業
「子ども多機能型支援拠点の普及・推進事業」報告書**

発行日 令和3年3月31日
発行者 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金4-2-1番地
Tel:0475-53-3630/Fax:0475-53-3631

※無断コピー及び転載を禁じます。コピー・転載・引用等される
際には、必ずご連絡いただきますようお願いいたします。

独立行政法人福祉医療機構・令和2年度社会福祉振興助成事業

「子ども多機能型支援拠点の普及・推進事業」報告書

令和3年3月